

令和5年度 県民意識調査報告書

令和5年8月

秋 田 県

目 次

第 1 部 調査の概要

1	調査の目的	3
2	調査の内容	3
3	調査の設計	3
4	回収結果	3
5	集計・分析に当たって	3
6	統計表	3
7	有効回答者の属性	4
8	標本抽出方法	8

第 2 部 調査結果の概要 11

第 3 部 調査結果の詳細

第 1 章 「～大変革の時代～ 新秋田元気創造プラン」について

1 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度（問 1－1、問 1－2）

（1）戦略 1 産業・雇用戦略について

ア	産業構造の変化に対応した県内産業の競争力の強化	19
イ	地域資源を生かした成長産業の発展	21
ウ	歴史と風土に培われた地域産業の活性化	22
エ	産業振興を支える投資の拡大	23

（2）戦略 2 農林水産戦略について

ア	農業の食料供給力の強化	24
イ	林業・木材産業の成長産業化	25
ウ	水産業の持続的な発展	26
エ	農山漁村の活性化	27

（3）戦略 3 観光・交流戦略について

ア	「何度でも訪れたいあきた」の創出	28
イ	「美酒・美食のあきた」の創造	29
ウ	文化芸術の力による魅力ある地域の創生	30
エ	活気あふれる「スポーツ立県あきた」の実現	31
オ	国内外との交流と住民の暮らしを支える交通ネットワークの構築	32

（4）戦略 4 未来創造・地域社会戦略について

ア	新たな人の流れの創出	33
イ	結婚・出産・子育ての希望がかなう社会の実現	34
ウ	女性・若者が活躍できる社会の実現	35
エ	変革する時代に対応した地域社会の構築	36
オ	脱炭素の実現を目指す地域社会の形成	37
カ	行政サービスの向上	38

(5) 戦略5 健康・医療・福祉戦略について	
ア 健康寿命日本一の実現.....	39
イ 安心して質の高い医療の提供.....	40
ウ 高齢者と障害者の暮らしを支える体制の強化.....	41
エ 誰もが安全・安心を実感できる地域共生社会の実現.....	42
(6) 戦略6 教育・人づくり戦略について	
ア 秋田の将来を支える高い志にあふれる人材の育成.....	43
イ 確かな学力の育成.....	44
ウ グローバル社会で活躍できる人材の育成.....	45
エ 豊かな心と健やかな体の育成.....	46
オ 地域社会の活性化と産業振興に資する高等教育機関の機能の強化.....	47
カ 生涯にわたり学び続けられる環境の構築.....	48
(7) 選択・集中プロジェクト及び重点施策推進方針について	
ア 賃金水準の向上.....	49
イ カーボンニュートラルへの挑戦.....	50
ウ デジタル化の推進.....	51
エ 若年女性の県内定着・回帰.....	52
オ 魅力的な働く場の確保.....	53
2 (参考) 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度の平均値.....	54
第2章 県政の重要課題について.....	58
第3章 県の特定期間について	
1 県の広報活動について	
(1) 県が発信する情報の取得方法.....	63
(2) 広報活動の現状評価.....	65
2 家庭での防災活動について	
(1) 家庭での災害時に備えた備蓄状況.....	66
(2) 災害に備えた家庭での防災活動の状況.....	67
3 読書活動について	
(1) 読書への興味.....	69
(2) 1日の平均読書時間.....	70
4 がん対策について	
(1) 日本人のがん発症率に関する認知度.....	71
(2) がん検診の受診時期に対する考え方.....	72
5 社会活動・地域活動について	
社会活動・地域活動への取組の頻度.....	73

6	文化芸術の鑑賞・活動について	
(1)	文化芸術の鑑賞の頻度	74
(2)	文化芸術の活動の頻度	76
7	自転車の安全で適正な利用について	
	自転車損害賠償責任保険等への加入状況	78
8	男女共同参画について	
	「男は仕事、女は家庭」の考え方	79
9	環境保全活動について	
	環境保全活動への参加状況	80
10	差別等について	
(1)	差別等を感じる機会の有無	82
(2)	感じる差別等の種類	83
11	高齢者の社会参加について	
	60歳以上の方の仕事や社会活動等への参加状況（令和4年度）	86
第4章 県政への自由意見について		87
付属資料：調査票		99

第 1 部 調査の概要

1 調査の目的

- (1) 県政に対する県民意識を把握し、新秋田元気創造プランの進行管理に活用する。
- (2) 政策等の評価において、県民意識を取り入れる手法の一つとして活用する。
- (3) 県民の提案や要望を把握し、政策立案や問題解決、計画の策定に反映させる。
- (4) 特定課題に関する県民意識を把握し、取組の推進に活用する。

2 調査の内容

- (1) プランに掲げた戦略の施策に関する事柄についての満足度（選択式）
- (2) 選択・集中プロジェクト及び重点施策推進方針に掲げる「秋田で暮らす動機付けに向けた取組」についての満足度（選択式）
- (3) 県の重要課題について（選択式）
- (4) 県の特定課題について（選択式）
 - ① 県の広報活動について
 - ② 家庭での防災活動について
 - ③ 読書活動について
 - ④ がん対策について
 - ⑤ 社会活動・地域活動について
 - ⑥ 文化芸術の鑑賞・活動について
 - ⑦ 自転車の安全で適正な利用について
 - ⑧ 男女共同参画について
 - ⑨ 環境保全活動について
 - ⑩ 差別等について
 - ⑪ 高齢者の社会参加について
- (5) 県に力を入れてほしいことなどについて（自由記述式）
- (6) 回答者の属性について（選択式）

3 調査の設計

- (1) 調査対象： 秋田県に居住する満 18 歳以上の男女
- (2) 標本数： 5,000 人
- (3) 標本抽出方法： 全県 25 市町村の選挙人名簿を基にした層化抽出法
- (4) 調査手法： ア 郵送による調査票の配付
イ 郵送回答とインターネット回答の併用
- (5) 調査期間： 令和 5 年 5 月 17 日(水)～6 月 4 日(日)
- (6) 調査機関： 株式会社フィデア情報総研

4 回収結果

- (1) 調査票回収数 2,285 人（回収率 45.7%）
- (2) 有効回答数 2,284 人（有効回答率 45.7%）

5 集計・分析に当たって

- (1) 比率（%）は、小数点以下第 2 位を四捨五入して表示する。このため、各回答の比率の合計が 100% にならないこと（99.9%、100.1%など）がある。満足度の平均点は、小数点以下第 3 位を四捨五入して算出する。
- (2) 18～19 歳を 10 歳代として集計する。

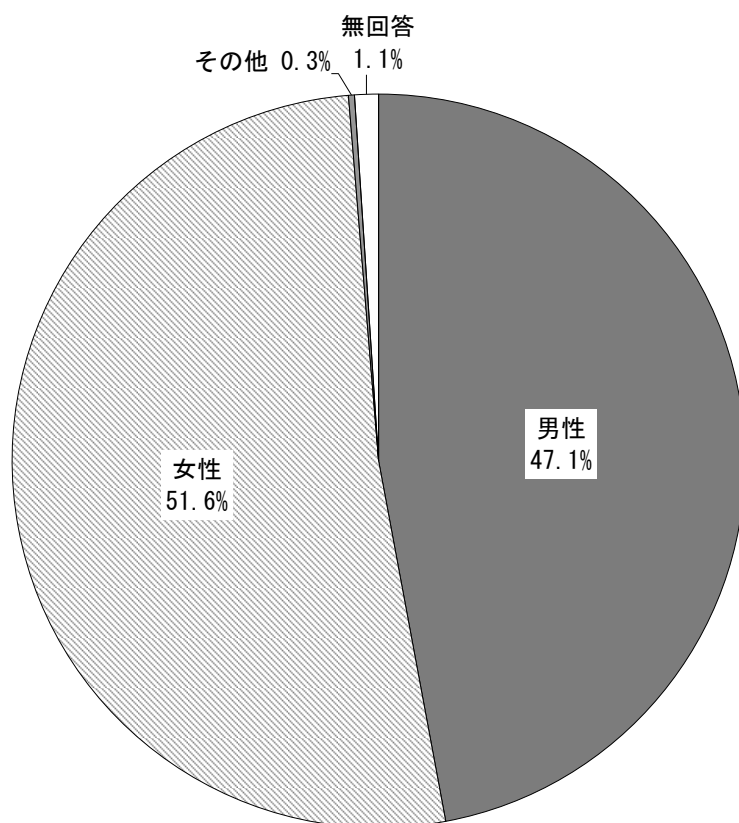
6 統計表

各設問の回答に関する統計データは、県の公式ウェブサイト「美の国あきたネット」(<https://www.pref.akita.lg.jp>)に掲載している。

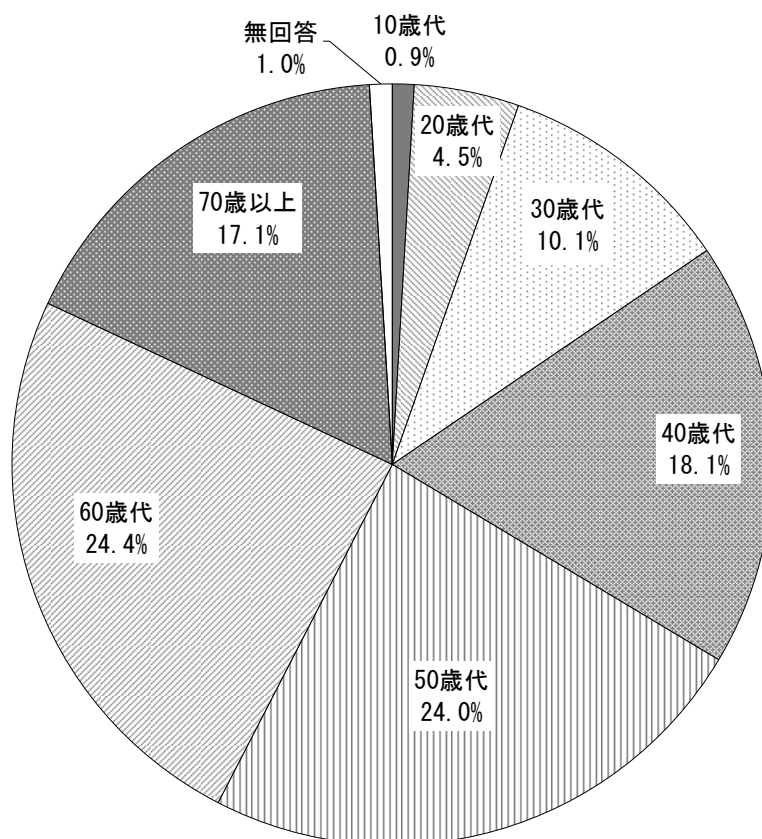
7 有効回答者の属性

属 性		有効回答者数		推計人口 (R4. 10. 1 現在)	
		客体数	構成比	18 歳以上人口	構成比
合 計		2,284	100.0%	820,975	100.0%
性別	男性	1,075	47.1%	383,463	46.7%
	女性	1,179	51.6%	437,512	53.3%
	その他	6	0.3%	—	—
	無回答	24	1.1%	—	—
年齢	18～19 歳	21	0.9%	13,964	1.7%
	20～29 歳	102	4.5%	59,386	7.2%
	30～39 歳	231	10.1%	81,040	9.9%
	40～49 歳	413	18.1%	116,966	14.2%
	50～59 歳	548	24.0%	120,993	14.7%
	60～69 歳	557	24.4%	147,965	18.0%
	70 歳以上	390	17.1%	280,661	34.2%
	無回答	22	1.0%	—	—
18 歳未満の子の有無	養育している	459	20.1%	—	—
	養育していない	1,732	75.8%	—	—
	無回答	93	4.1%	—	—
出身	秋田県の出身	2,100	91.9%	—	—
	秋田県以外の出身	155	6.8%	—	—
	無回答	29	1.3%	—	—
居住地域	鹿角地域	78	3.4%	28,630	3.5%
	北秋田地域	243	10.6%	86,943	10.6%
	山本地域	168	7.4%	64,290	7.8%
	秋田地域	887	38.8%	332,087	40.5%
	由利地域	227	9.9%	83,752	10.2%
	仙北地域	303	13.3%	102,733	12.5%
	平鹿地域	201	8.8%	72,543	8.8%
	雄勝地域	151	6.6%	49,997	6.1%
	無回答	26	1.1%	—	—
職業	農業	137	6.0%	—	—
	林業	8	0.4%	—	—
	漁業	1	0.0%	—	—
	建設業	146	6.4%	—	—
	製造業	225	9.9%	—	—
	情報通信業	30	1.3%	—	—
	運輸業・郵便業	74	3.2%	—	—
	卸売業・小売業（観光関連）	24	1.1%	—	—
	卸売業・小売業（観光関連以外）	148	6.5%	—	—
	宿泊業	13	0.6%	—	—
	飲食サービス業	74	3.2%	—	—
	学術研究・学校教育・学習支援	70	3.1%	—	—
	医療・保健	157	6.9%	—	—
	福祉	152	6.7%	—	—
	公務（上記以外）	107	4.7%	—	—
	その他の業種	321	14.1%	—	—
	学生	23	1.0%	—	—
	無職	535	23.4%	—	—
	無回答	39	1.7%	—	—

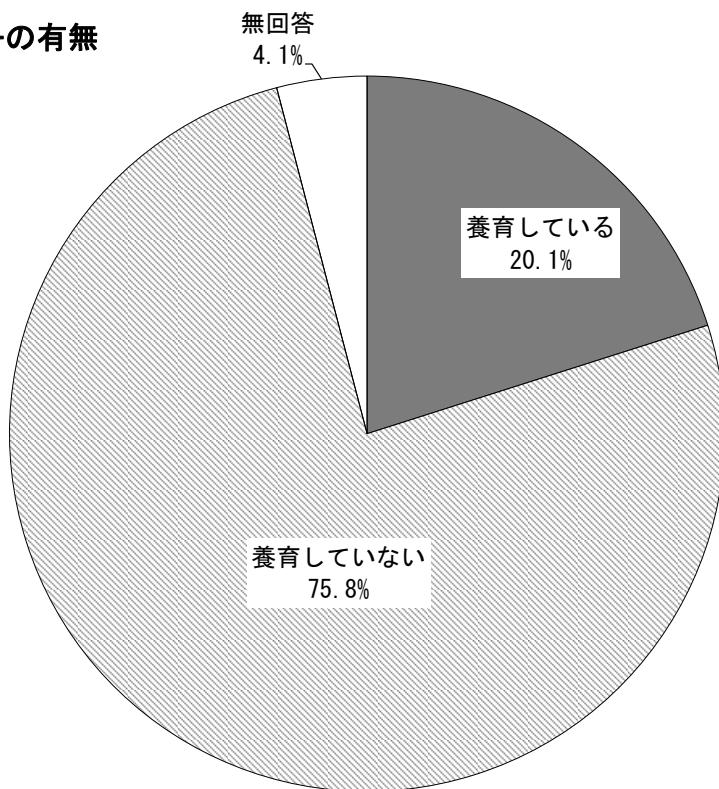
性別



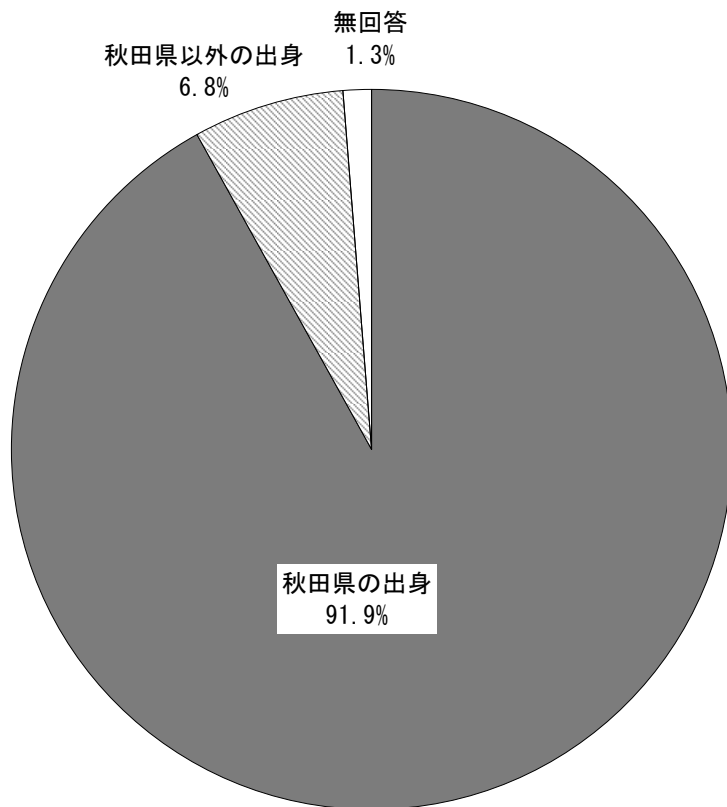
年齢

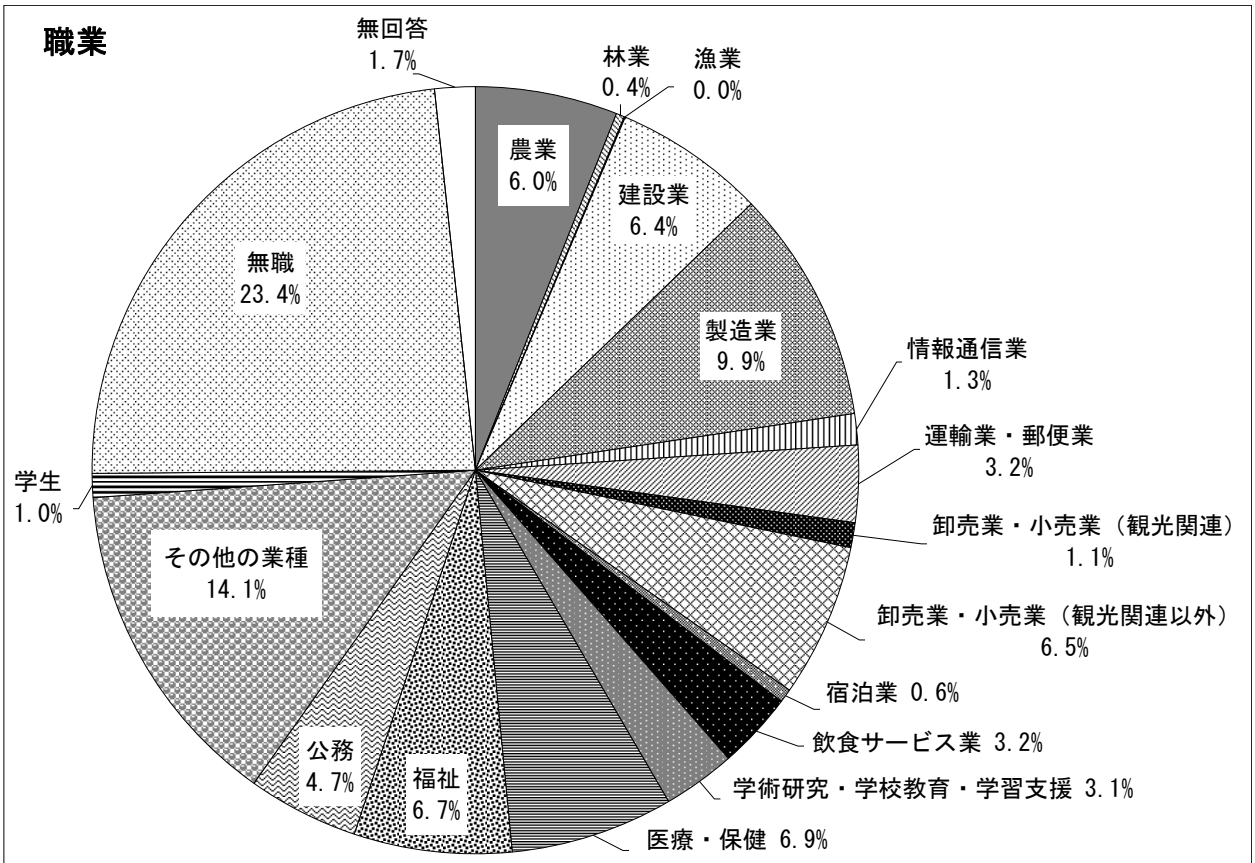
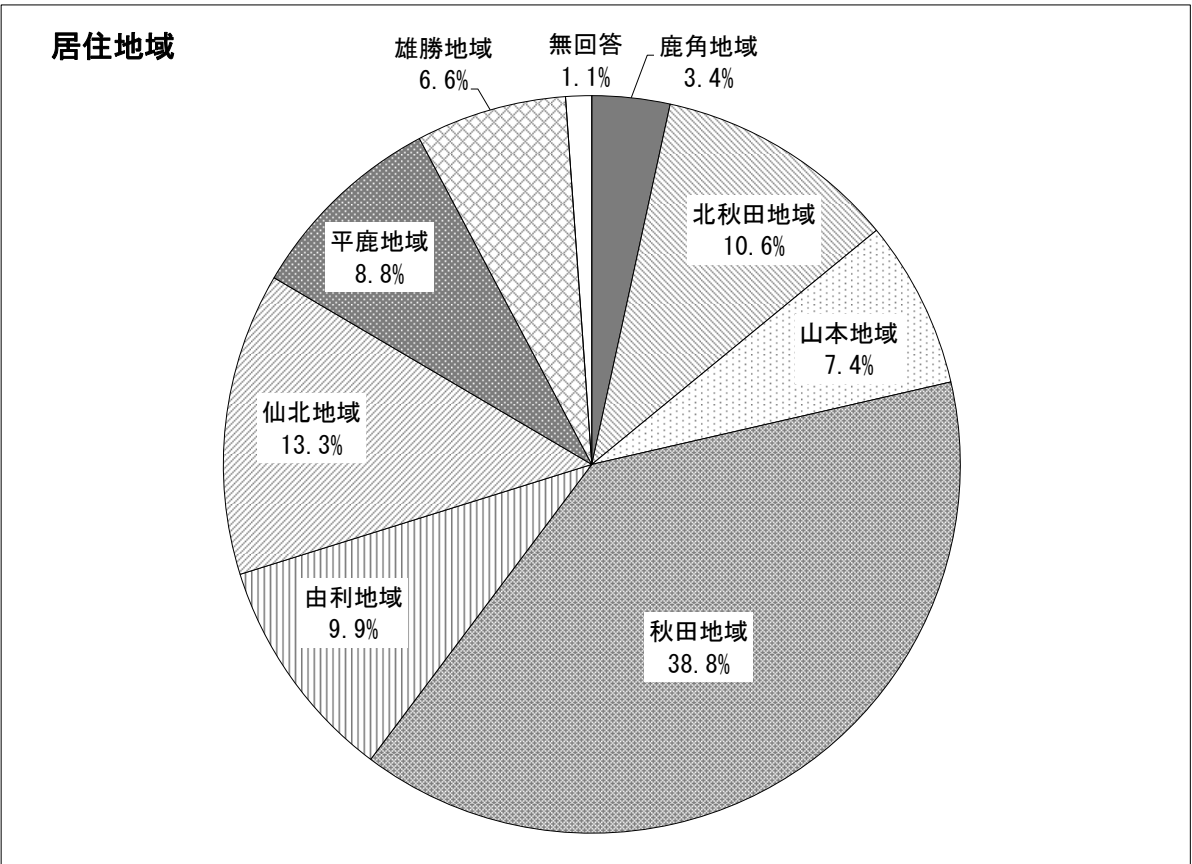


18歳未満の子の有無



出身





8 標本抽出方法

(1) 層化及び標本数の配分

調査対象を県内 25 市町村で層化し、各市町村の満 18 歳以上の人口（令和 4 年 10 月 1 日現在）の構成比に応じて 5,000 の標本を比例分配した。

地域名	NO	市町村名	18 歳以上人口 (R4.10.1 現在)	18 歳以上人口 構成比	調査地点 人口按分
		県 計	820,975	100.0%	5,000
鹿角地域	1	鹿角市	24,486	3.0%	149
	2	小坂町	4,144	0.5%	25
北秋田地域	3	大館市	59,253	7.2%	361
	4	北秋田市	25,911	3.2%	158
	5	上小阿仁村	1,779	0.2%	11
山本地域	6	能代市	43,014	5.2%	262
	7	藤里町	2,476	0.3%	15
	8	三種町	13,109	1.6%	80
	9	八峰町	5,691	0.7%	35
秋田地域	10	秋田市	264,259	32.2%	1,609
	11	男鹿市	21,762	2.7%	133
	12	潟上市	27,314	3.3%	166
	13	五城目町	7,430	0.9%	45
	14	八郎潟町	4,851	0.6%	30
	15	井川町	3,978	0.5%	24
	16	大潟村	2,493	0.3%	15
由利地域	17	由利本荘市	63,779	7.8%	388
	18	にかほ市	19,973	2.4%	122
仙北地域	19	大仙市	66,013	8.0%	402
	20	仙北市	20,984	2.6%	128
	21	美郷町	15,736	1.9%	96
平鹿地域	22	横手市	72,543	8.8%	442
雄勝地域	23	湯沢市	36,029	4.4%	219
	24	羽後町	11,624	1.4%	71
	25	東成瀬村	2,344	0.3%	14

(2) 報告書の見方

母集団全体の中から一部を抽出する標本調査では、母集団全体を対象に行った調査と比べ、何らかの誤差が生ずる。本調査では信頼係数を95%と設定しており、誤差は以下の式で得られる。第3部では点推定値を掲載しているが、以上のような誤差をもっている。

①回答割合の誤差 標本誤差=1.96 × $\sqrt{p(1-p)/n}$	N=母集団数 n=標本数
②回答結果の平均値の誤差 標本誤差=1.96 × $s\sqrt{n}$	s=標本標準偏差 p=回答比率

①の回答割合に関しては、本調査における誤差の早見表を以下に記載する。この表では、例えば、「全体の50%から「十分」という回答比率が得られた間について、繰り返し標本を抽出し推定を何度も行った場合、95%の確率で母割合（全県民が「十分」と考える割合）を50%±2.1%の範囲内に含むことを表している。また、100回中95回は誤差を含めた範囲内に母割合を含むが、5回は含まないときがある。

回答割合の誤差の早見表

項目名	N：母集団数 (人)	n：回答者数 (人)	p：回答比率 (%)				
			10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
全体	820,975	2,284	1.2	1.6	1.9	2.0	2.1
年代別							
18～39歳	154,390	354	3.1	4.2	4.8	5.1	5.2
40～59歳	237,959	961	1.9	2.5	2.9	3.1	3.2
60歳以上	428,626	947	1.9	2.5	2.9	3.1	3.2

※無回答の22人を含むため、年代別の計と一致しない。

②の回答結果の平均値に関し、誤差を考慮した区間推定結果を以下に掲載する。この推定の精度は、繰り返し標本を抽出し推定を何度も行った場合に95%の確率で母平均（母集団である全県民の回答の平均値）をその範囲内に含む程度であり、100回中95回は信頼区間の中に母平均を含むが、5回は含まないときがある。

回答結果の平均値の区間推定

質問No.	全体		年代別					
			18～39歳		40～59歳		60歳以上	
	標本平均値	信頼区間	標本平均値	信頼区間	標本平均値	信頼区間	標本平均値	信頼区間
1-1-1	2.56	2.53 ~ 2.59	2.70	2.36 ~ 3.04	2.50	2.43 ~ 2.57	2.58	2.49 ~ 2.66
1-1-2	2.82	2.79 ~ 2.85	2.92	2.56 ~ 3.27	2.79	2.72 ~ 2.85	2.82	2.74 ~ 2.90
1-1-3	2.47	2.44 ~ 2.50	2.54	2.24 ~ 2.85	2.41	2.34 ~ 2.47	2.51	2.43 ~ 2.59
1-1-4	2.54	2.51 ~ 2.57	2.71	2.38 ~ 3.04	2.49	2.42 ~ 2.55	2.53	2.45 ~ 2.61
1-1-5	2.72	2.69 ~ 2.76	2.97	2.60 ~ 3.33	2.68	2.62 ~ 2.75	2.68	2.61 ~ 2.76
1-1-6	2.83	2.80 ~ 2.86	3.15	2.76 ~ 3.53	2.85	2.78 ~ 2.91	2.70	2.62 ~ 2.78
1-1-7	2.80	2.77 ~ 2.83	2.96	2.59 ~ 3.34	2.79	2.72 ~ 2.86	2.76	2.68 ~ 2.84
1-1-8	2.61	2.58 ~ 2.65	2.85	2.51 ~ 3.19	2.63	2.57 ~ 2.70	2.51	2.43 ~ 2.59
1-1-9	2.56	2.53 ~ 2.59	2.67	2.35 ~ 2.98	2.53	2.47 ~ 2.59	2.56	2.48 ~ 2.63
1-1-10	3.22	3.20 ~ 3.25	3.54	3.14 ~ 3.94	3.22	3.17 ~ 3.28	3.11	3.04 ~ 3.19
1-1-11	2.72	2.69 ~ 2.75	2.87	2.53 ~ 3.20	2.67	2.61 ~ 2.73	2.71	2.64 ~ 2.78
1-1-12	2.92	2.89 ~ 2.95	3.13	2.77 ~ 3.49	2.89	2.83 ~ 2.95	2.89	2.82 ~ 2.96
1-1-13	2.47	2.44 ~ 2.50	2.54	2.23 ~ 2.84	2.43	2.37 ~ 2.49	2.49	2.42 ~ 2.56
1-1-14	1.98	1.95 ~ 2.01	1.96	1.72 ~ 2.20	1.90	1.84 ~ 1.96	2.07	2.00 ~ 2.15
1-1-15	2.17	2.14 ~ 2.20	2.23	1.96 ~ 2.50	2.16	2.10 ~ 2.22	2.16	2.08 ~ 2.23
1-1-16	2.40	2.37 ~ 2.43	2.53	2.22 ~ 2.83	2.33	2.27 ~ 2.40	2.42	2.34 ~ 2.49
1-1-17	2.66	2.63 ~ 2.69	2.69	2.38 ~ 3.01	2.65	2.59 ~ 2.71	2.66	2.59 ~ 2.74
1-1-18	2.64	2.61 ~ 2.67	2.71	2.38 ~ 3.04	2.61	2.54 ~ 2.67	2.64	2.56 ~ 2.72
1-1-19	2.64	2.61 ~ 2.68	2.74	2.42 ~ 3.07	2.62	2.56 ~ 2.68	2.63	2.55 ~ 2.71
1-1-20	2.87	2.84 ~ 2.90	2.92	2.58 ~ 3.27	2.80	2.74 ~ 2.86	2.92	2.85 ~ 2.99
1-1-21	2.53	2.50 ~ 2.56	2.60	2.29 ~ 2.91	2.41	2.35 ~ 2.47	2.63	2.55 ~ 2.70
1-1-22	2.71	2.68 ~ 2.74	2.83	2.50 ~ 3.17	2.63	2.57 ~ 2.69	2.74	2.67 ~ 2.81
1-1-23	2.62	2.59 ~ 2.65	2.65	2.33 ~ 2.96	2.57	2.51 ~ 2.64	2.67	2.59 ~ 2.75
1-1-24	2.99	2.96 ~ 3.02	3.11	2.74 ~ 3.49	2.99	2.93 ~ 3.05	2.95	2.87 ~ 3.03
1-1-25	2.99	2.95 ~ 3.02	3.06	2.67 ~ 3.45	2.97	2.90 ~ 3.04	2.98	2.89 ~ 3.07
1-1-26	2.83	2.80 ~ 2.86	2.97	2.60 ~ 3.33	2.81	2.75 ~ 2.88	2.79	2.70 ~ 2.87
1-1-27	2.99	2.96 ~ 3.02	3.15	2.78 ~ 3.53	2.97	2.91 ~ 3.04	2.94	2.85 ~ 3.02
1-1-28	2.90	2.87 ~ 2.94	3.09	2.70 ~ 3.48	2.88	2.81 ~ 2.95	2.85	2.76 ~ 2.94
1-1-29	2.90	2.87 ~ 2.93	3.09	2.72 ~ 3.46	2.87	2.80 ~ 2.93	2.86	2.78 ~ 2.95
1-2-1	1.74	1.71 ~ 1.77	1.77	1.55 ~ 1.98	1.65	1.59 ~ 1.71	1.82	1.74 ~ 1.89
1-2-2	2.58	2.54 ~ 2.61	2.62	2.28 ~ 2.97	2.59	2.52 ~ 2.66	2.55	2.46 ~ 2.64
1-2-3	2.66	2.63 ~ 2.69	2.81	2.49 ~ 3.14	2.60	2.54 ~ 2.66	2.65	2.57 ~ 2.72
1-2-4	1.90	1.87 ~ 1.93	1.90	1.66 ~ 2.14	1.87	1.81 ~ 1.94	1.94	1.86 ~ 2.02
1-2-5	1.98	1.95 ~ 2.01	2.12	1.86 ~ 2.37	1.91	1.85 ~ 1.97	2.00	1.93 ~ 2.08

第 2 部 調査結果の概要

1 第1章「～大変革の時代～ 新秋田元気創造プラン」について (P19～58)

「～大変革の時代～ 新秋田元気創造プラン」の6つの戦略の各施策に関連する事柄について、「十分(5)」、「おおむね十分(4)」、「ふつう(3)」、「やや不十分(2)」、「不十分(1)」及び「わからない(N)」の中から1つを選択する形式で満足度の状況等を調査した。

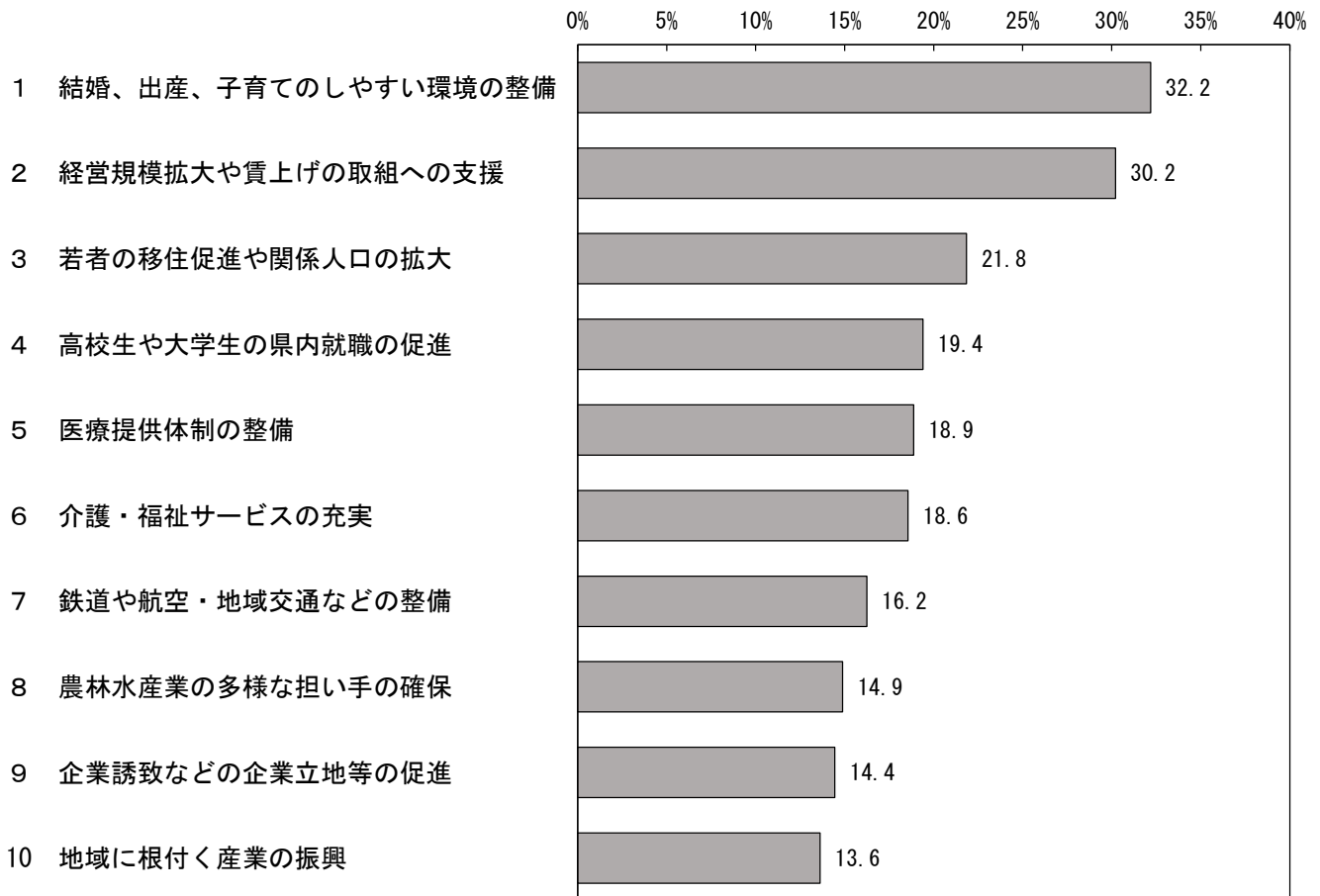
			満足度	回答の割合 (%)						
				十分(5)	おおむね十分(4)	ふつう(3)	やや不十分(2)	不十分(1)	わからない(N)	無回答
戦略1	1	生産性が向上するなど、県内産業の競争力の強化が図られている。	2.56	0.5	6.1	41.7	15.4	12.7	20.1	3.5
	2	輸送機、新エネルギー、情報、医療分野等の成長産業への参入が進んでいる。	2.82	1.6	17.7	38.6	15.4	10.4	13.3	3.0
	3	地域経済・社会を支える地域産業の活性化が図られている。	2.47	0.6	7.0	39.4	20.8	15.8	13.5	3.0
	4	立地環境が整備され、企業誘致が進んでいる。	2.54	1.0	10.7	37.1	20.6	15.6	11.9	3.1
戦略2	5	経営力の高い担い手等が活躍し、我が国の食料供給に貢献している。	2.72	1.8	14.9	39.1	17.3	12.4	12.6	2.0
	6	「伐って・使って・植える」という森林資源の循環利用が進み、林業・木材産業が発展している。	2.83	1.4	14.4	42.7	14.1	8.5	17.9	0.9
	7	蓄養殖や水産物のオンライン販売など、水産業での新たな取組が進んでいる。	2.80	1.3	12.5	40.8	16.3	7.2	20.8	1.0
	8	農家民宿や農家レストランなど地域資源を生かした多様な農村ビジネスが増え、農山漁村が活性化している。	2.61	1.1	11.6	38.6	19.9	13.3	14.3	1.1
戦略3	9	秋田の魅力が向上し、国内外から観光誘客が進んでいる。	2.56	1.3	11.6	39.1	21.8	15.8	7.4	2.9
	10	食品産業が発展し、日本酒や発酵食品など、秋田の食品が盛んに流通している。	3.22	4.8	31.0	41.7	11.1	4.3	5.4	1.7
	11	国内外に秋田ならではの文化の魅力が伝えられている。	2.72	1.8	14.8	41.9	20.2	11.8	7.7	1.8
	12	スポーツを通じて地域に活力とにぎわいがもたらされている。	2.92	3.5	17.9	45.5	16.0	7.9	7.2	1.9
	13	国内外との交流を支える高速広域交通や、日々の暮らしを支える地域交通が整備されている。	2.47	1.5	9.2	39.5	21.6	19.4	7.0	1.8
戦略4	14	秋田への移住者が増加するほか、若者の県内定着・帰郷が進んでいる。	1.98	0.3	3.2	25.4	24.4	34.7	9.5	2.5
	15	結婚し、安心して出産・子育てができる社会になっている。	2.17	0.8	5.3	30.9	25.4	28.5	8.1	1.1
	16	女性や若者が様々な分野において、その能力や個性を発揮して活躍している。	2.40	0.9	5.3	39.8	23.4	18.2	10.9	1.6

			満足度	回答の割合 (%)						
				十分(5)	おおむね十分(4)	ふつう(3)	やや不十分(2)	不十分(1)	わからない(N)	無回答
戦略4	17	優しさと多様性に満ちた秋田において、協働等を通じて安心して生活できる地域社会となっている。	2.66	0.9	9.1	48.7	17.2	11.6	10.9	1.5
	18	地域住民、事業者、行政等が一緒になって、地球温暖化対策に取り組んでいる。	2.64	0.9	7.8	45.7	16.5	11.5	16.3	1.2
	19	デジタル化の推進等により充実した行政サービスが提供されている。	2.64	0.9	9.3	44.3	18.0	11.5	14.7	1.4
戦略5	20	県民の健康づくりに取り組む意識が高まり、生きがいをもって元気に生活している。	2.87	1.5	14.2	52.9	12.7	8.1	8.3	2.3
	21	どこに住んでいても、必要な医療を受けられる体制が整っている。	2.53	2.1	11.5	37.3	22.8	17.9	6.9	1.5
	22	高齢者や障害のある方が、必要なサービスや支援を受けながら、住み慣れた地域で安心して生活している。	2.71	2.0	12.2	44.4	18.4	11.9	9.6	1.5
	23	相談体制や支援の充実により、地域や社会から孤立することなく、安心して生活できる社会となっている。	2.62	0.8	7.9	46.0	19.6	11.0	13.1	1.6
戦略6	24	学校教育を通じて、ふるさとを愛し社会で活躍しようとする心が育まれている。	2.99	2.3	16.1	49.2	9.7	5.8	15.1	1.9
	25	学校教育を通じて、ICTを効果的に活用しながら、自ら考え、判断し、表現する力が育まれている。	2.99	1.7	13.4	46.5	8.6	4.6	23.9	1.4
	26	学校教育を通じて、外国文化を理解しようとする態度や、英語でコミュニケーションができる能力が育まれている。	2.83	1.0	13.0	42.6	14.1	7.1	20.8	1.4
	27	学校教育を通じて、他人への思いやりなどの豊かな心や健やかな体が育まれている。	2.99	1.8	13.6	51.6	9.2	4.6	17.7	1.6
	28	県内の大学等で、地域の活性化につながる教育・研究・地域貢献が行われている。	2.90	1.3	11.1	44.3	10.9	4.8	26.3	1.3
	29	県民がライフステージや生活スタイルに応じて、生涯にわたり学び、文化芸術に触れる機会が提供されている。	2.90	1.8	12.4	48.9	11.1	6.3	18.1	1.4
選択・集中プロジェクト及び重点施策推進方針	1	県内の「賃金水準が向上」している。	1.74	0.2	1.8	17.6	26.6	46.2	6.7	0.8
	2	「カーボンニュートラル」の実現に向けた取組が進んでいる。	2.58	0.7	5.3	39.6	18.5	9.5	25.3	1.2
	3	県民生活の様々な場面において、「デジタル化」が進んでいる。	2.66	0.8	9.8	46.0	20.0	10.8	11.7	1.0
	4	「若年女性の県内定着・回帰」が進んでいる。	1.90	0.3	1.3	20.2	29.7	31.7	16.0	1.0
	5	「働く場の確保」や「労働環境の整備」など、魅力的な職場づくりが行われている。	1.98	0.3	2.3	24.6	31.2	31.9	8.8	0.9

2 第2章 県政の重要課題について (P59~63)

今後の県政を推進していく上で、「重要課題として県に力を入れてほしいこと」を50の選択肢の中から5つまで選ぶ形式で調査した。

重要課題として県に力を入れてほしいこと（上位10項目）



3 第3章 県の特定課題について (P64~87)

県の特定課題として、次の11課題について調査した。

- (1) 県の広報活動について
- (2) 家庭での防災活動について
- (3) 読書活動について
- (4) がん対策について
- (5) 社会活動・地域活動について
- (6) 文化芸術の鑑賞・活動について
- (7) 自転車の安全で適正な利用について
- (8) 男女共同参画について
- (9) 環境保全活動について
- (10) 差別等について
- (11) 高齢者の社会参加について

4 第4章 県政への自由意見について (P88~98)

県に力を入れてほしいことや、取り組むべきだと思うことについて、699人から1,130件の意見が寄せられた。

項番	項 目	件数
A	商工業・雇用・労働に関すること	155
B	農林水産業に関すること	55
C	観光に関すること	39
D	文化・スポーツに関すること	39
E	道路・交通ネットワークに関すること	76
F	移住・定住に関すること	59
G	結婚・出産・子育てに関すること	140
H	女性・若者の活躍に関すること	38
I	地域社会の維持・活性化に関すること	21
J	健康・医療・福祉に関すること	83
K	教育・人づくりに関すること	39
L	防災減災に関すること	9
M	生活環境・自然環境に関すること	69
N	県政全般に対する意見・その他	308
合 計		1,130

第3部 調査結果の詳細

第1章 「～大変革の時代～ 新秋田元気創造プラン」について

1 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度（問1-1、問1-2）

プランの各施策に関連する事柄について、満足度を「十分（5）」～「不十分（1）」の5段階で質問した。

(1) 戦略1 産業・雇用戦略について

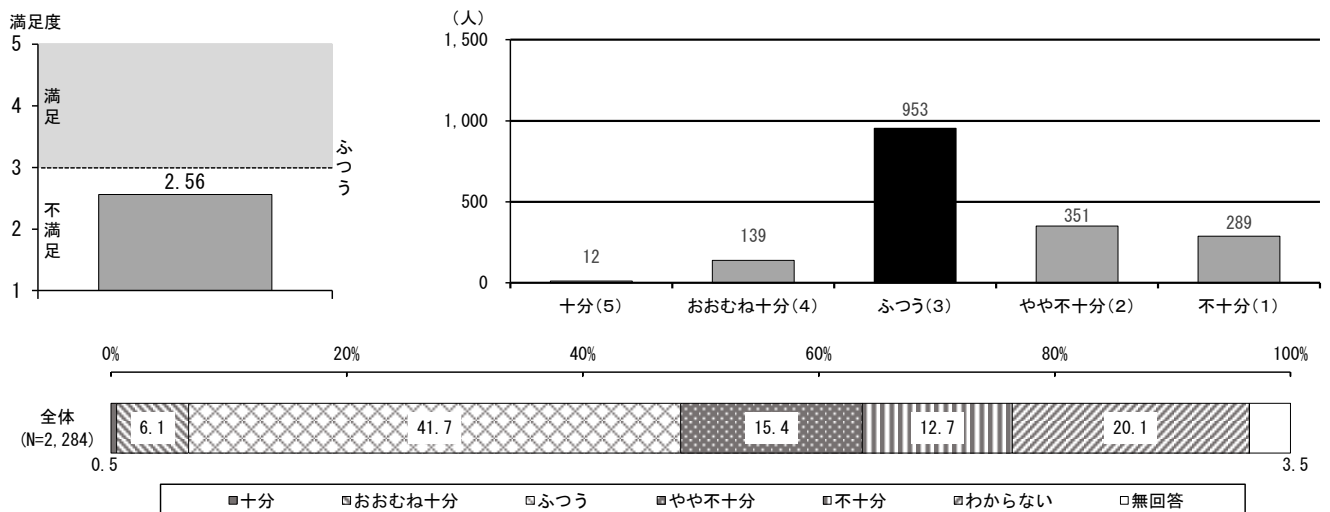
ア 産業構造の変化に対応した県内産業の競争力の強化

問1-1-1 生産性が向上するなど、県内産業の競争力の強化が図られている。

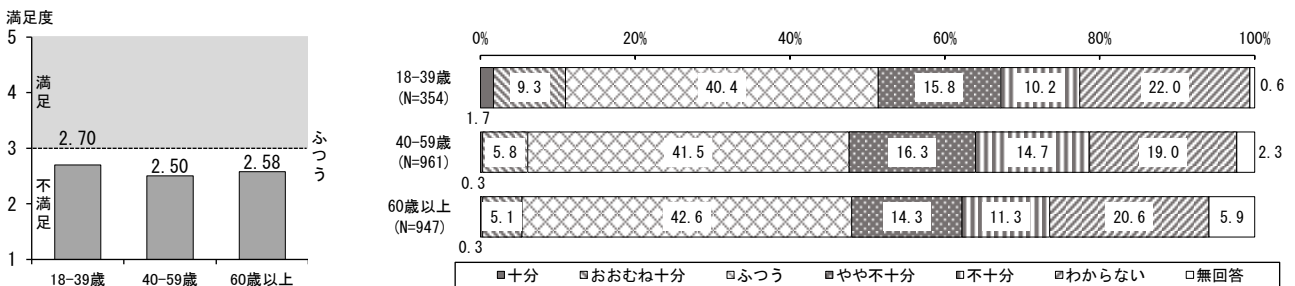
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.56で、「ふつう」の3より0.44低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は6.6%、「ふつう」は41.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は28.1%であった。また、「十分」と「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（以下「不満を感じていない人の割合」）は48.3%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.70で最も高く、不満を感じていない人の割合は51.4%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.50で最も低く、不満を感じていない人の割合は47.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 640 人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、172 人(26.9%)から回答があった。

回答の一部

- 県内企業の経営が旧態依然として、新人教育、若者の魅力あふれる職場になっていないのではないか(女性/70歳以上/秋田地域)
- リスキリングできる土壌、環境が不十分。訓練できる分野は製造か介護くらいで、もっと幅広い分野を訓練できる環境が必要。(男性/40歳代/仙北地域)
- 事業承継についての啓発をもっとしていただければと思います。後継者不在が目立ち、需要と供給バランスがとれていなかったり、伝統的技術が途切れたりしています。(女性/50歳代/平鹿地域)

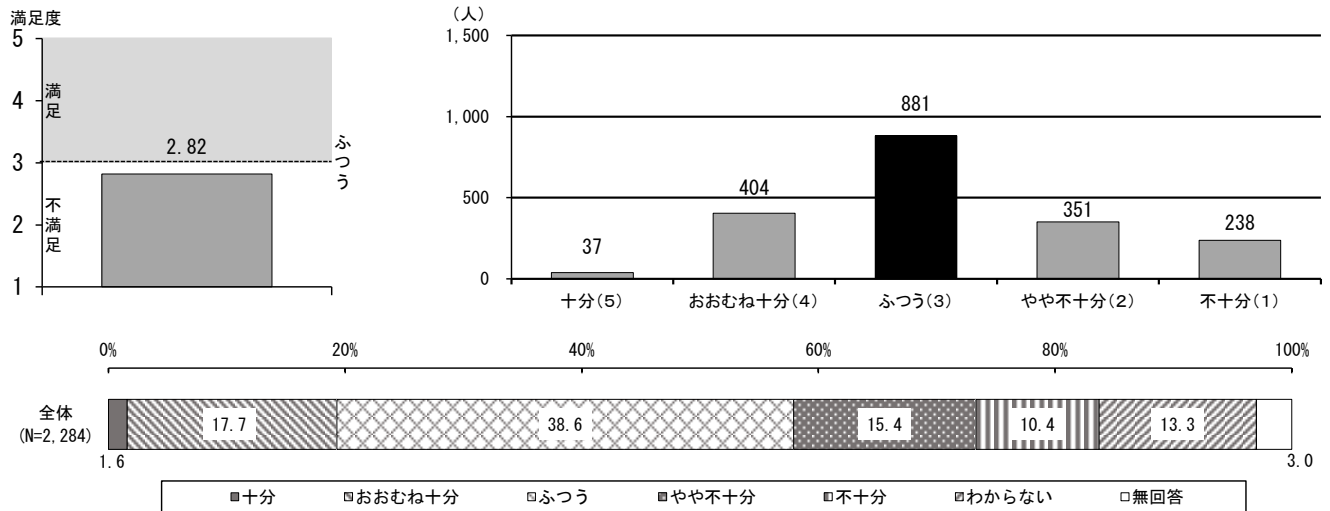
イ 地域資源を生かした成長産業の発展

問 1-1-2 輸送機、新エネルギー、情報、医療分野等の成長産業への参入が進んでいる。

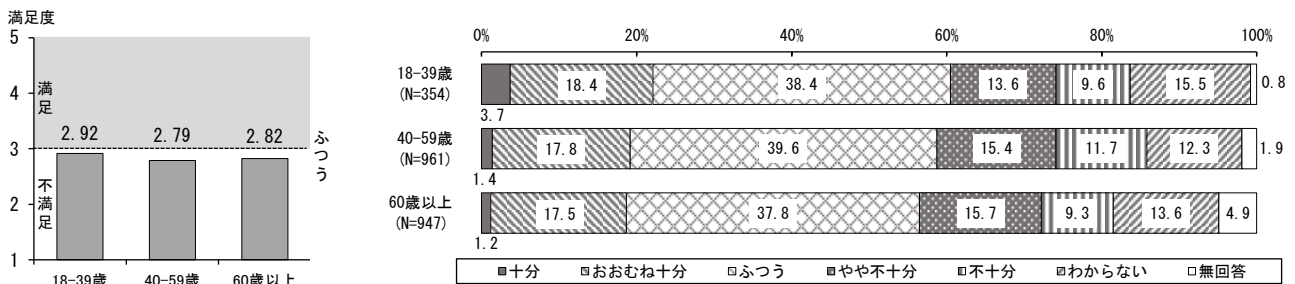
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.82で、「ふつう」の3より0.18低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は19.3%、「ふつう」は38.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は25.8%であった。また、不満を感じていない人の割合は57.9%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.92で最も高く、不満を感じていない人の割合は60.5%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.79で最も低く、不満を感じていない人の割合は58.8%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した589人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、135人(22.9%)から回答があった。

回答の一部

- 風力発電を除くと全体的に成長産業への参入が進んでいるとは言えない。(男性/70歳以上/秋田地域)
- 新エネルギーに力を入れているのは目に見えているが、それ以外、特に医療や福祉に関しては全くだと思ふ。(女性/30歳代/秋田地域)
- 他業界は分かりませんが、情報業界の県内企業数は他県と比べて少なく感じます。(男性/40歳代/秋田地域)

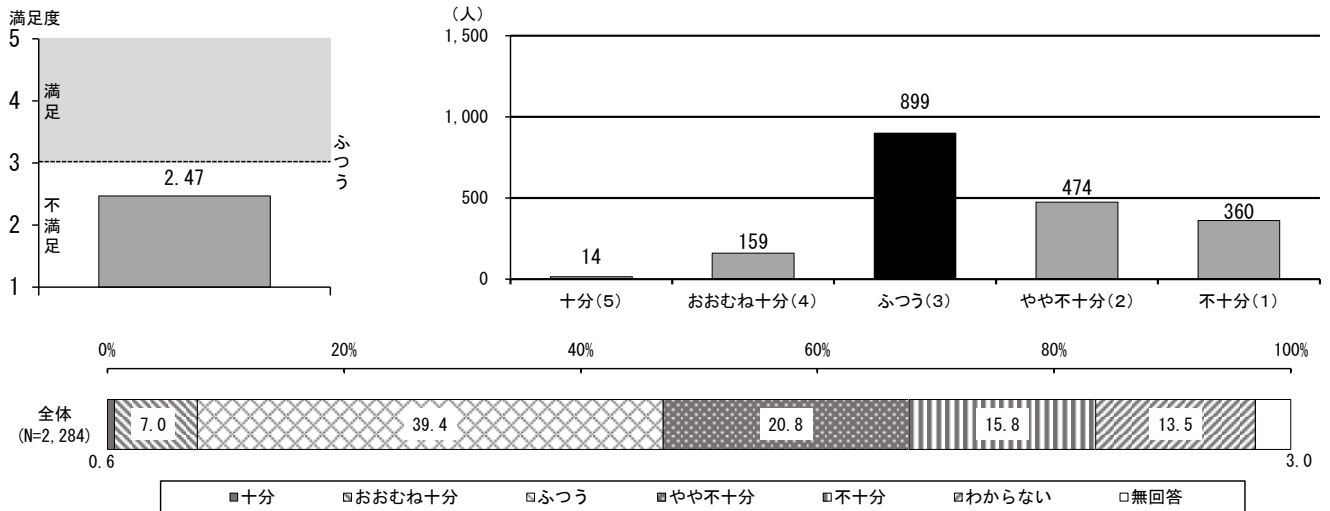
ウ 歴史と風土に培われた地域産業の活性化

問 1-1-3 地域経済・社会を支える地域産業の活性化が図られている。

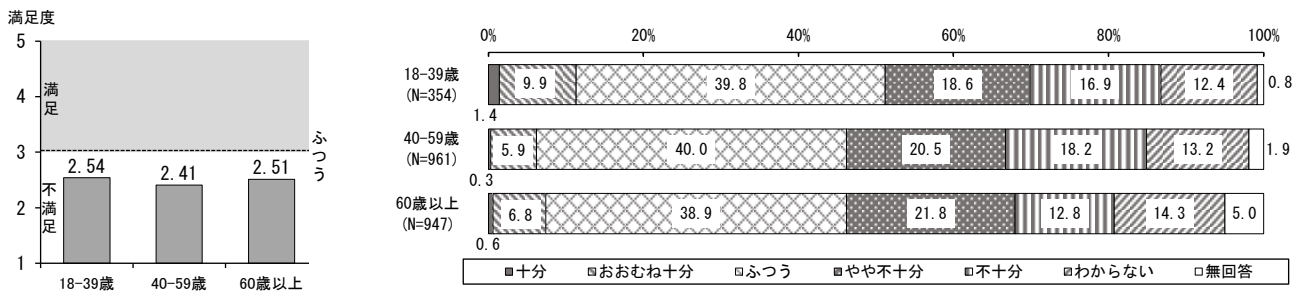
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.47で、「ふつう」の3より0.53低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は7.6%、「ふつう」は39.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は36.6%であった。また、不満を感じていない人の割合は47.0%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.54で最も高く、不満を感じていない人の割合は51.1%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.41で最も低く、不満を感じていない人の割合は46.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した834人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、183人(21.9%)から回答があった。

回答の一部

- 秋田杉や曲げわっぱ等品質の良い物があるのに、国内外に上手く継続した広告ができていない印象を持つ。(女性/30歳代/秋田地域)
- 様々な物資のリサイクルが可能になるようにもっと力を入れてほしい。(女性/50歳代/仙北地域)
- 秋田県の地域の特産物や伝統工芸を生かしていない。継承できていない。(男性/40歳代/秋田地域)

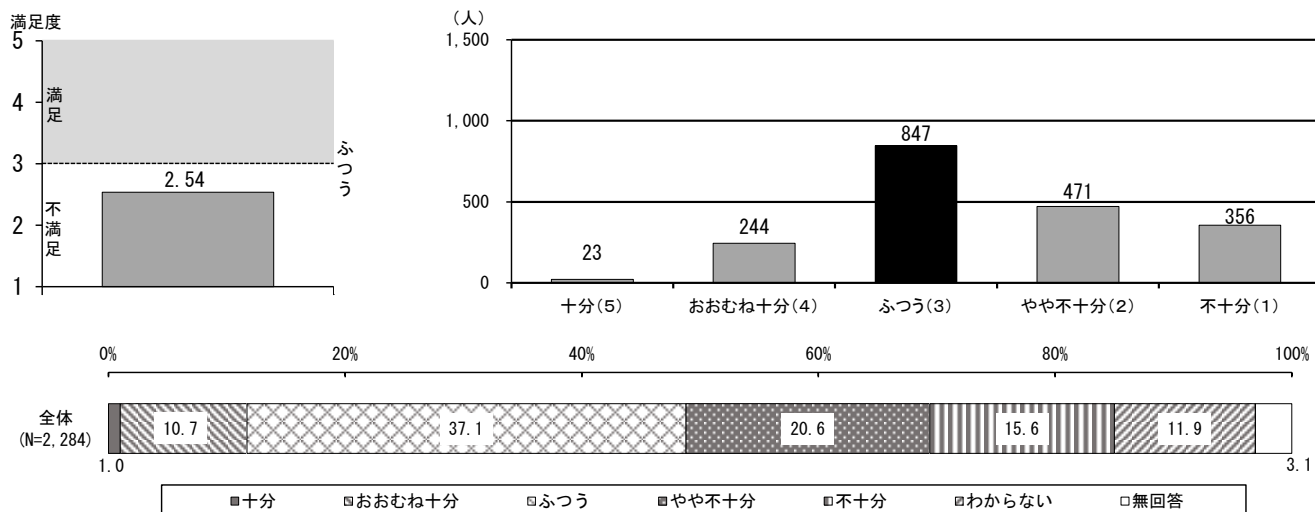
エ 産業振興を支える投資の拡大

問 1-1-4 立地環境が整備され、企業誘致が進んでいる。

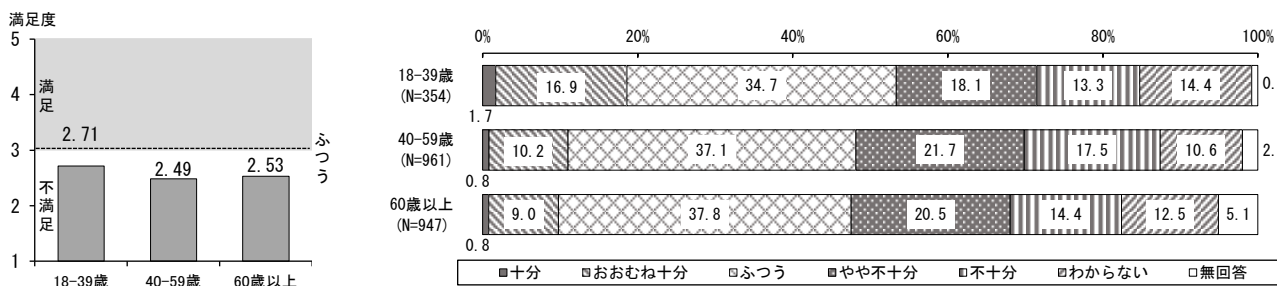
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.54で、「ふつう」の3より0.46低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は11.7%、「ふつう」は37.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は36.2%であった。また、不満を感じていない人の割合は48.8%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.71で最も高く、不満を感じていない人の割合は53.3%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.49で最も低く、不満を感じていない人の割合は48.1%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した827人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、219人(26.5%)から回答があった。

回答の一部

- 最近風力発電関係が良好だが、若者定住につながる企業誘致が不足している。(男性/70歳以上/雄勝地域)
- 大都市圏との移動にかかる時間は大きな変化がなく、立地環境が整備されているとは言えない。(男性/40歳代/秋田地域)
- 地域により偏っていると感じる。(女性/20歳代/秋田地域)

(2) 戦略2 農林水産戦略について

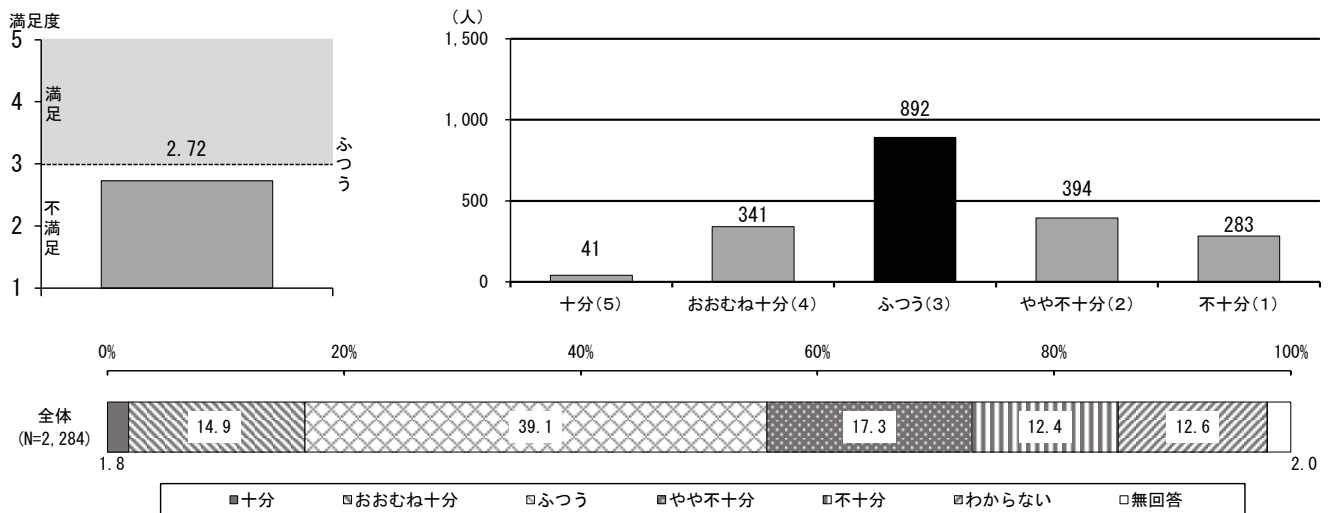
ア 農業の食料供給力の強化

問 1-1-5 経営力の高い担い手等が活躍し、我が国の食料供給に貢献している。

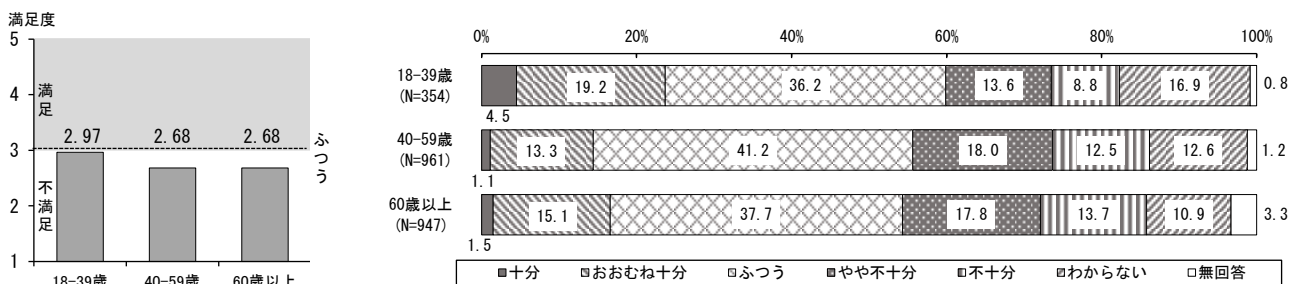
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.72で、「ふつう」の3より0.28低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は16.7%、「ふつう」は39.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は29.7%であった。また、不満を感じていない人の割合は55.8%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.97で最も高く、不満を感じていない人の割合は59.9%であった。一方、「40～59歳」と「60歳以上」の満足度はともに2.68で、不満を感じていない人の割合はそれぞれ55.6%、54.3%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した677人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、205人(30.3%)から回答があった。

回答の一部

- ほ場整備・農業法人化はいいと思うが、若者がもっと働きやすい環境が必要。(男性/40歳代/秋田地域)
- 高齢化などにより農業、畜産の担い手の減り方が大きいのに対し、農業法人数や新規の就農者は微増である。きめ細かく見ていくと同時に大規模な改革が急務ではないか。(女性/70歳以上/秋田地域)
- 農業経営の法人団体はいくつか見られるが、若い担い手の確保は難しく、いつまで継続できるのか。地域を越えて経営してほしい。(女性/50歳代/由利地域)

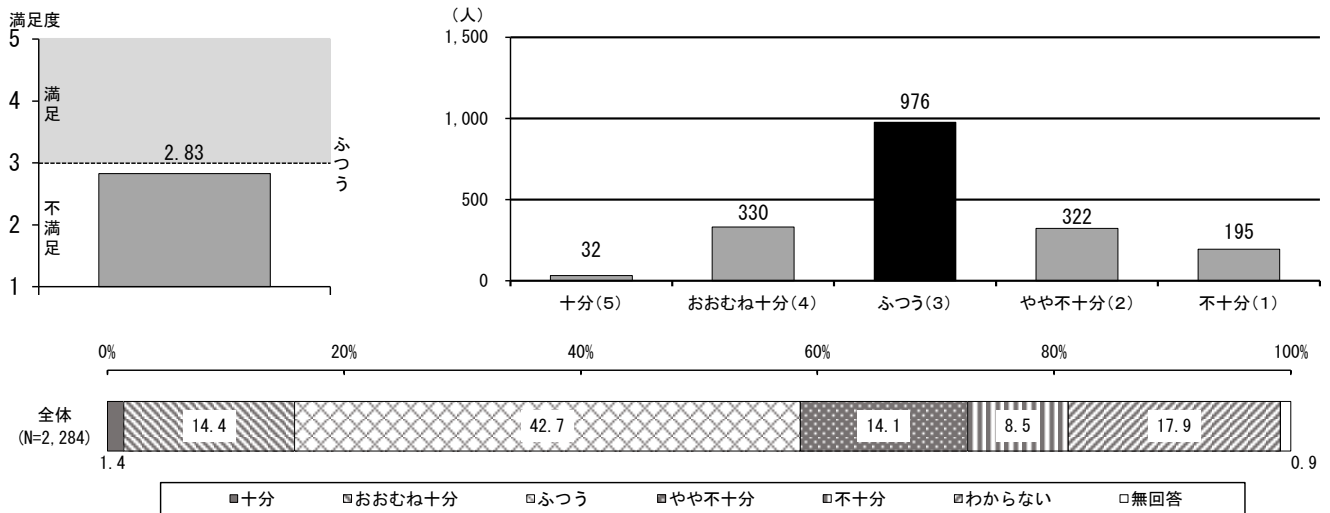
イ 林業・木材産業の成長産業化

問 1-1-6 「伐って・使って・植える」という森林資源の循環利用が進み、林業・木材産業が発展している。

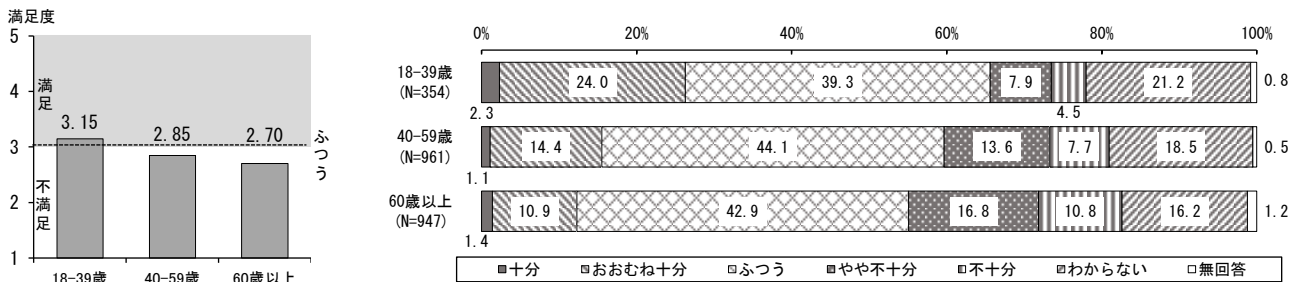
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.83で、「ふつう」の3より0.17低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は15.8%、「ふつう」は42.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は22.6%であった。また、不満を感じていない人の割合は58.5%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.15で最も高く、不満を感じていない人の割合は65.6%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.70で最も低く、不満を感じていない人の割合は55.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した517人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、136人(26.3%)から回答があった。

回答の一部

- 伐材だけがどんどん進んで治水が心配である。(男性/30歳代/北秋田地域)
- 放置され、手つかずの山林がいかに多いか、という現実を直視した施策が急務だと思う。(男性/60歳代/仙北地域)
- 豊富にある秋田杉の商品開発に力を入れてはどうか。例えばモダンなデザインの家具や住宅部材など。林業・木材産業の発展のためには、稼げる森林資材であることが不可欠だと思う。花粉の少ない杉の開発も注目されているのでぜひ取り組んでほしい。(女性/60歳代/北秋田地域)

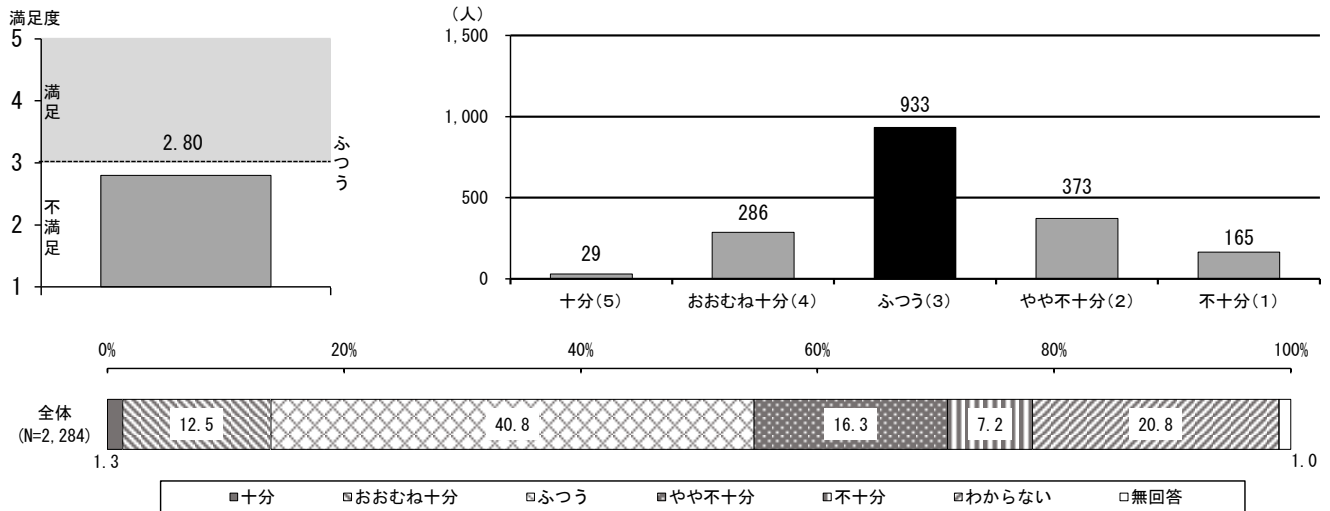
ウ 水産業の持続的な発展

問 1-1-7 蓄養殖や水産物のオンライン販売など、水産業での新たな取組が進んでいる。

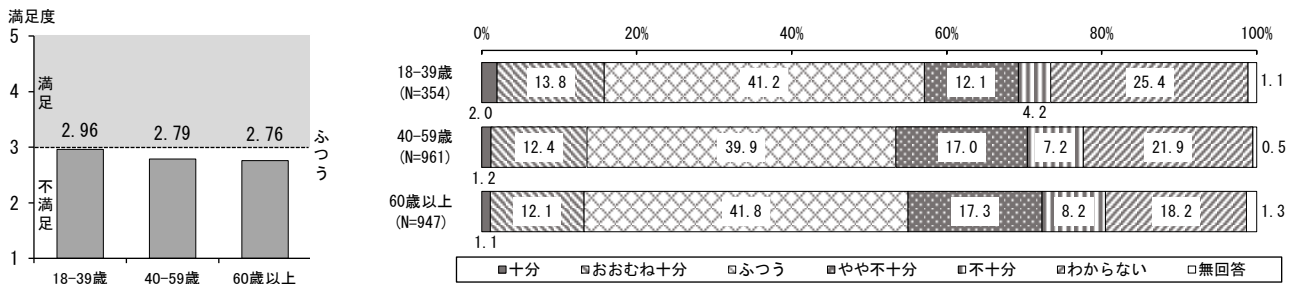
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.80で、「ふつう」の3より0.20低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は13.8%、「ふつう」は40.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は23.5%であった。また、不満を感じていない人の割合は54.6%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.96で最も高く、不満を感じていない人の割合は57.0%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.76で最も低く、不満を感じていない人の割合は55.0%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した538人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、108人(20.1%)から回答があった。

回答の一部

- お土産や加工品など、全国に売り出せる物を作ってほしい。水産物は豊富な県だと思うので、生かしてほしい。(男性/50歳代/仙北地域)
- ハタハタ以外の水産物のイメージがないので、もっとPRが必要と思う。(女性/40歳代/平鹿地域)
- 資源管理の情報収集、評価など、ICTを活用し積極的にスマート水産業を加速化させるべき。海外への展開もチャンスを逃さず発信してほしい。(女性/50歳代/秋田地域)

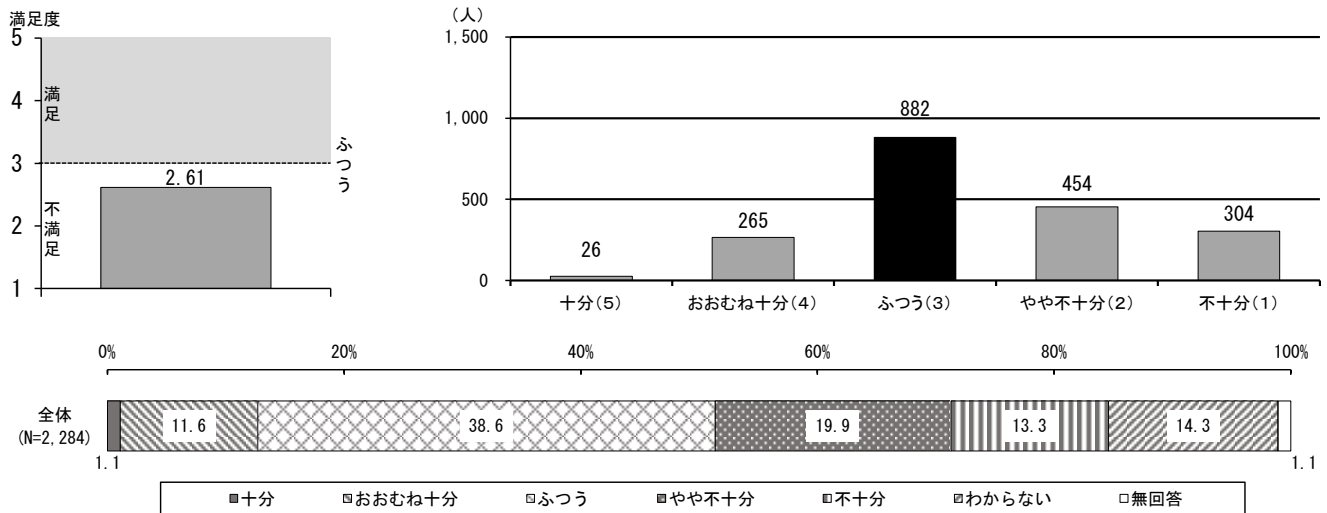
エ 農山漁村の活性化

問 1-1-8 農家民宿や農家レストランなど地域資源を生かした多様な農村ビジネスが増え、農山漁村が活性化している。

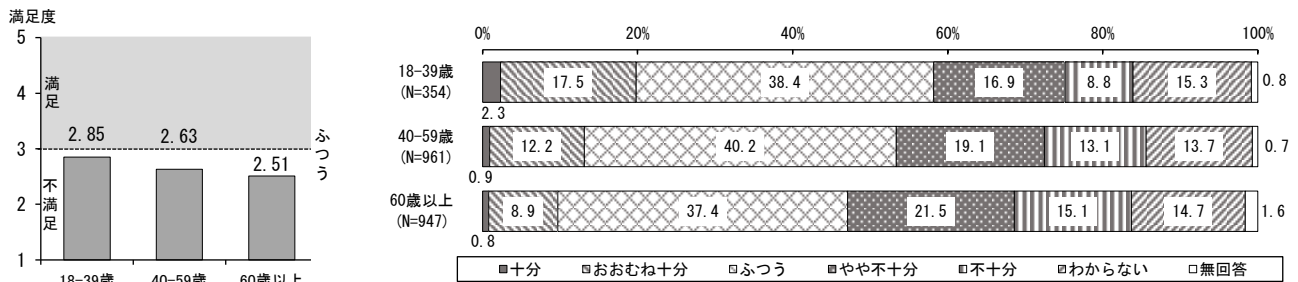
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.61で、「ふつう」の3より0.39低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は12.7%、「ふつう」は38.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は33.2%であった。また、不満を感じていない人の割合は51.3%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.85で最も高く、不満を感じていない人の割合は58.2%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.51で最も低く、不満を感じていない人の割合は47.1%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した758人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、187人(24.7%)から回答があった。

回答の一部

- 以前より増えた印象を持つが、長期展開していくために、県外への継続した広報が必要だと感じる。(女性/30歳代/秋田地域)
- コロナもあり、これからの復活の時期になると思う。また、これから参入しようとする人への支援や周知、地域の活性化につながる支援も大事だと思う。(男性/70歳以上/仙北地域)
- ビジネスとしては増えているかもしれないが、それによって農山漁村が活性化しているとは言えない。(男性/50歳代/仙北地域)

(3) 戦略3 観光・交流戦略について

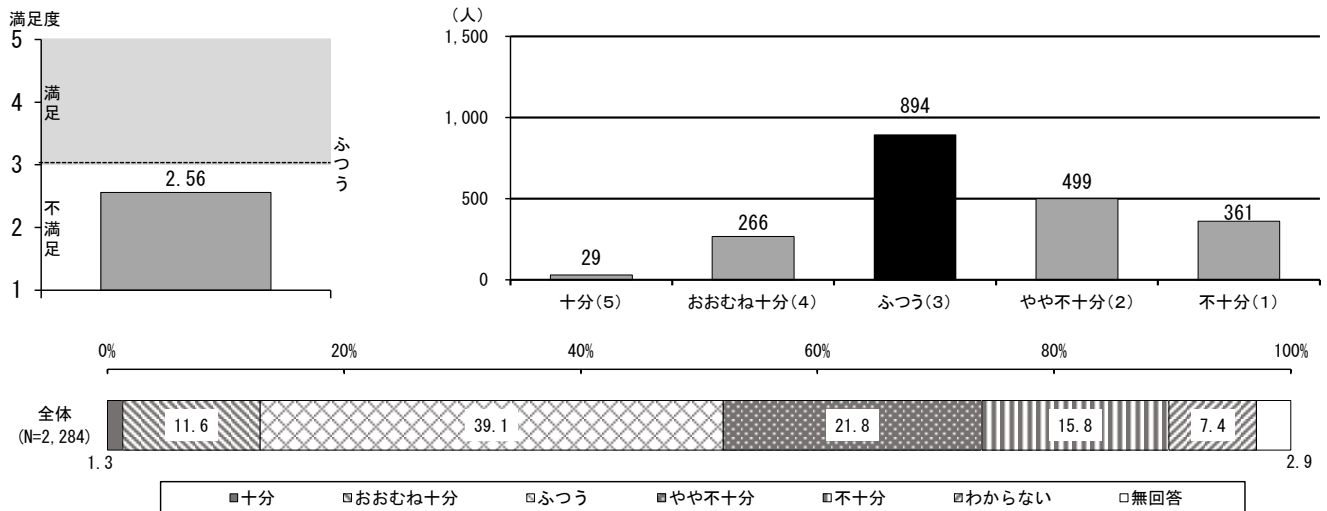
ア 「何度でも訪れたいくなるあきた」の創出

問 1-1-9 秋田の魅力が向上し、国内外から観光誘客が進んでいる。

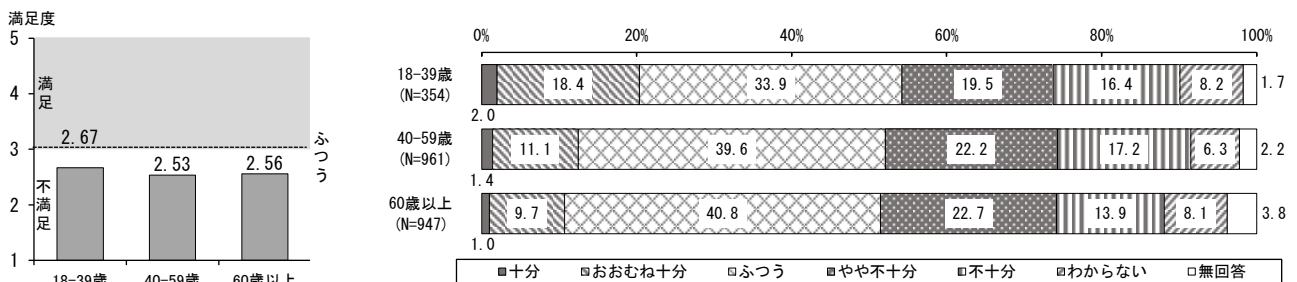
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.56で、「ふつう」の3より0.44低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は12.9%、「ふつう」は39.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は37.6%であった。また、不満を感じていない人の割合は52.0%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.67で最も高く、不満を感じていない人の割合は54.3%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.53で最も低く、不満を感じていない人の割合は52.1%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した860人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、245人(28.5%)から回答があった。

回答の一部

- 発信力が不十分。最近、有名な観光地ではなく、あまり知られていない神社や寺、食など、英語を始めとした外国向けの情報発信が必要。(男性/40歳代/秋田地域)
- 県内の多言語でのきめ細やかな案内、観光情報が不足しており、交通手段も不便である。(女性/50歳代/秋田地域)
- 数字だけでみれば入込客数は増えていますが、魅力の向上はできていないと思います。秋田の魅力はなんですか、と聞かれたときに答えることは毎回同じで、新たな魅力というものが生み出されていないように感じます。(女性/10歳代/由利地域)

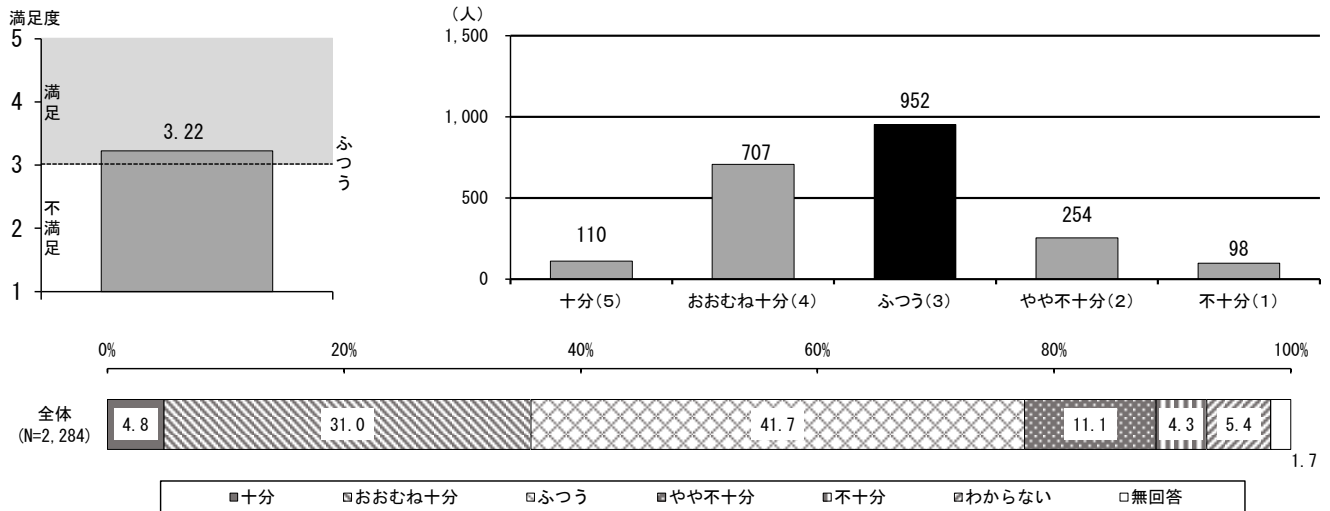
イ 「美酒・美食のあきた」の創造

問 1-1-10 食品産業が発展し、日本酒や発酵食品など、秋田の食品が盛んに流通している。

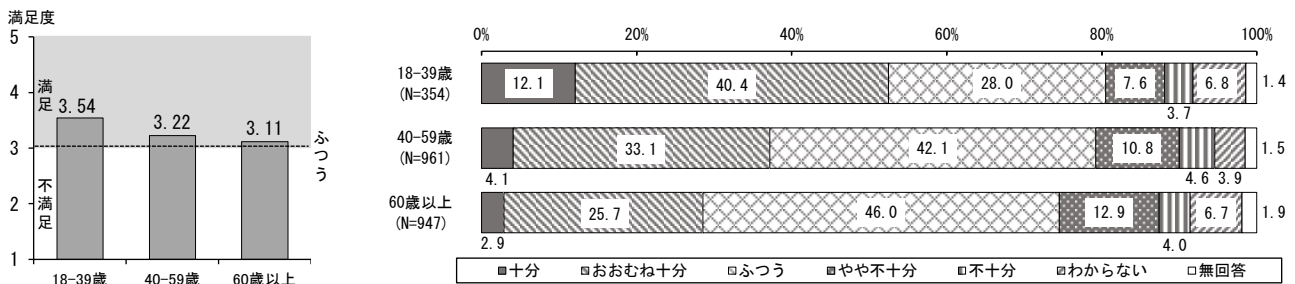
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.22で、「ふつう」の3より0.22高かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は35.8%、「ふつう」は41.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は15.4%であった。また、不満を感じていない人の割合は77.5%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.54で最も高く、不満を感じていない人の割合は80.5%であった。一方、「60歳以上」の満足度は3.11で最も低く、不満を感じていない人の割合は74.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した352人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、73人(20.7%)から回答があった。

回答の一部

- 秋田は発酵文化が日本有数の地なので、もっと力を入れるべき。(男性/70歳以上/雄勝地域)
- 米どころなので、もっと、日本酒の発展に力を入れてもよいと思う。そうすれば、米麴を使用した発酵食品も発展していくのでは。情報発信をもっと頑張してほしい。(女性/40歳代/仙北地域)
- 県外で産直市などを開催する「だけ」ではなく、広く周知して多くの人の目に留まるような取組が必要。イベントありきではなく、継続して購入してもらえるような取組が必要。(女性/30歳代/秋田地域)

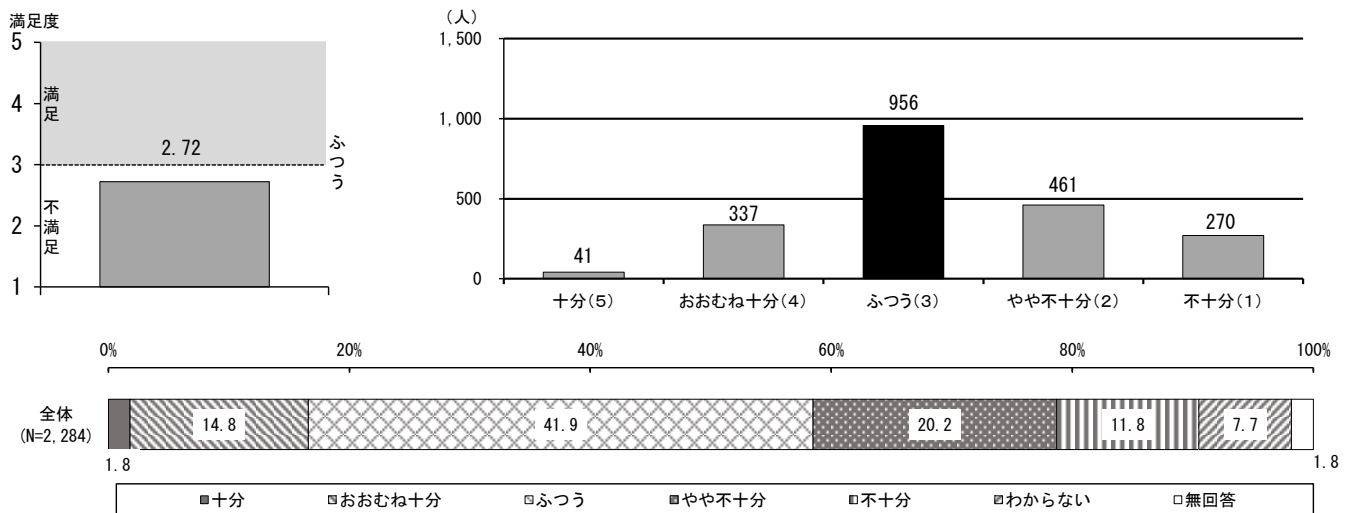
ウ 文化芸術の力による魅力ある地域の創生

問 1-1-11 国内外に秋田ならではの文化の魅力が伝えられている。

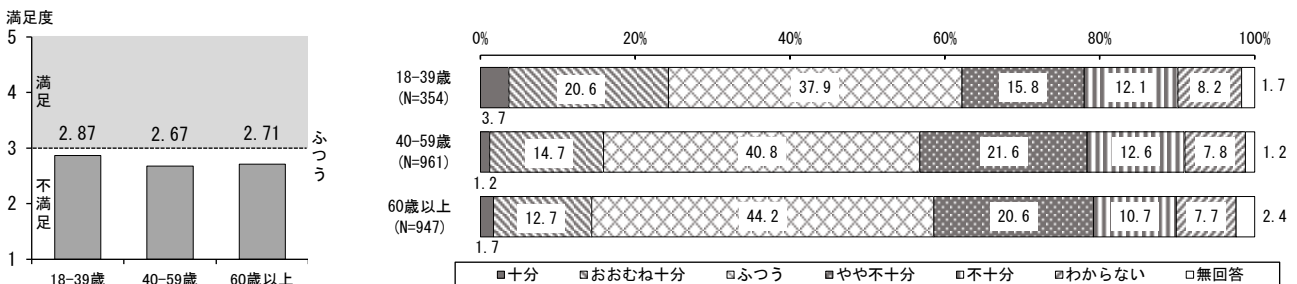
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.72で、「ふつう」の3より0.28低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は16.6%、「ふつう」は41.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は32.0%であった。また、不満を感じていない人の割合は58.5%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.87で最も高く、不満を感じていない人の割合は62.2%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.67で最も低く、不満を感じていない人の割合は56.7%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した731人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、155人(21.2%)から回答があった。

回答の一部

- まつり、伝統行事、芸能、芸術など総合的に秋田の魅力を発信するのにもっと力を入れてほしい。(男性/70歳以上/雄勝地域)
- “何もない”という県民の意識改革。秋田出身や秋田好きだと発信している芸能人を見かけるようになった。そういった方たちの力をもっと借りてもよいのではないか。(女性/30歳代/秋田地域)
- 様々な郷土芸能やお祭りなどまだまだ知られていないものがたくさんあるので、もっと秋田の文化を発信してほしい。(男性/60歳代/秋田地域)

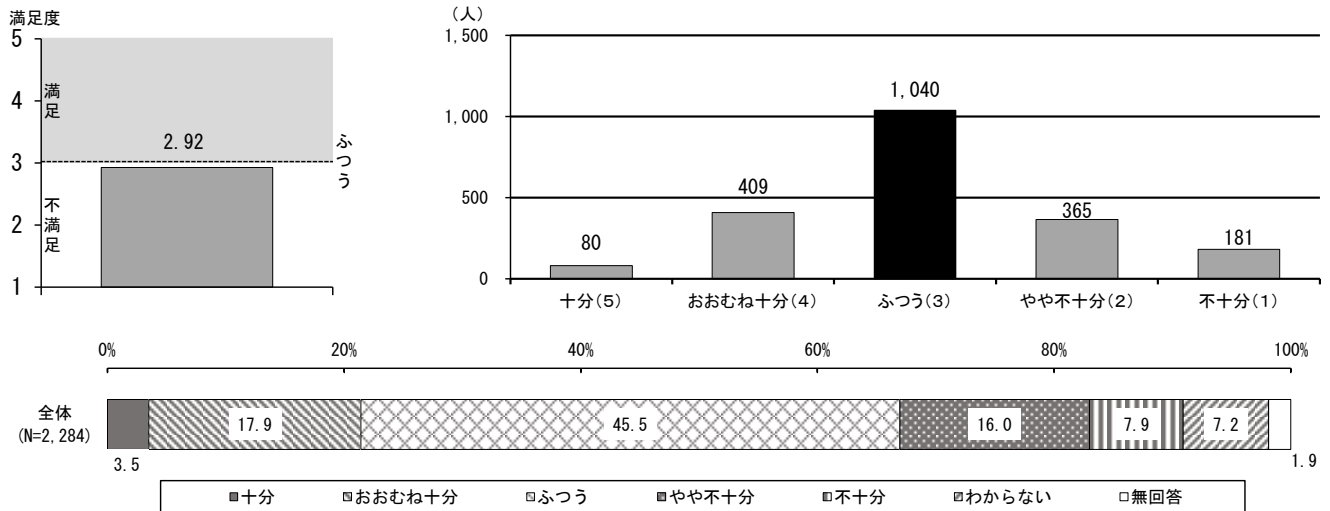
エ 活気あふれる「スポーツ立県あきた」の実現

問 1-1-12 スポーツを通じて地域に活力とにぎわいがもたらされている。

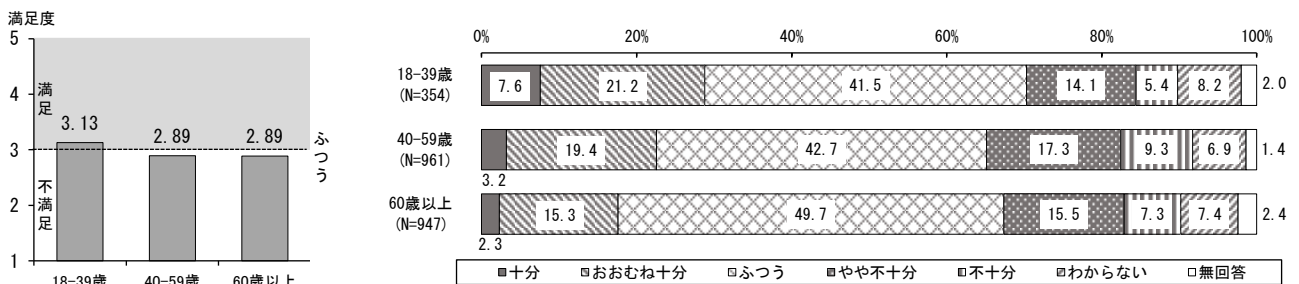
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.92で、「ふつう」の3より0.08低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は21.4%、「ふつう」は45.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は23.9%であった。また、不満を感じていない人の割合は66.9%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.13で最も高く、不満を感じていない人の割合は70.3%であった。一方、「40～59歳」と「60歳以上」の満足度はともに2.89で、不満を感じていない人の割合はそれぞれ65.3%、67.3%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した546人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、150人(27.5%)から回答があった。

回答の一部

- 子どもの頃からスポーツできる環境、スポ少の支援をすることで、スポーツに対する興味を持つことが、次へとつながる。(男性/50歳代/北秋田地域)
- 一般の人が自由に使うことができる体育館が少ない。(男性/30歳代/秋田地域)
- 地域によってスポーツ振興や普及に差がある。(女性/40歳代/平鹿地域)

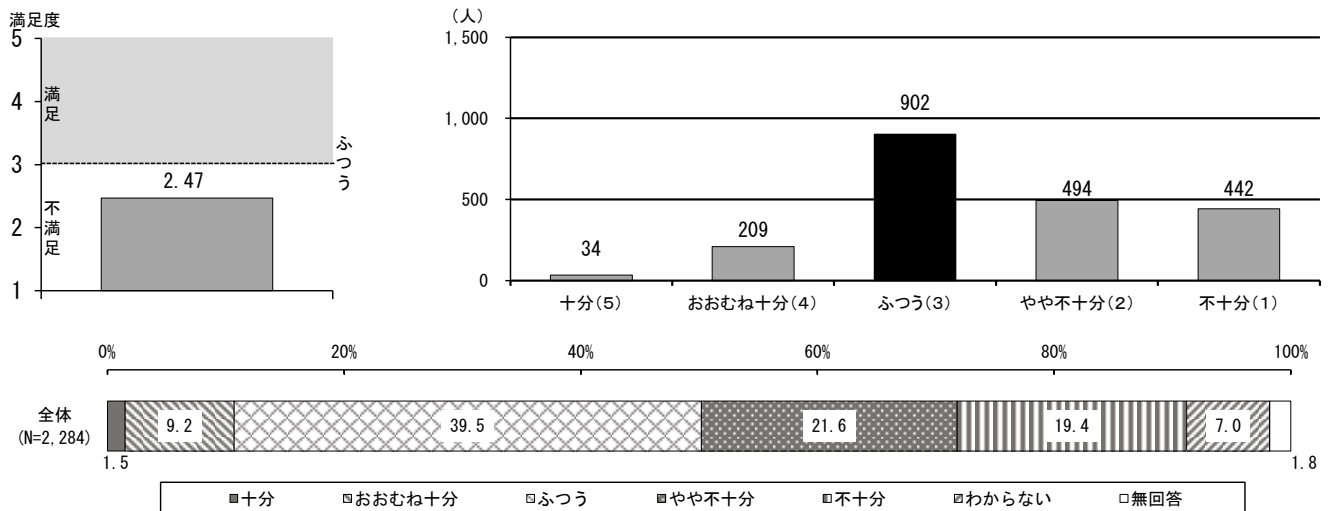
オ 国内外との交流と住民の暮らしを支える交通ネットワークの構築

問 1-1-13 国内外との交流を支える高速広域交通や、日々の暮らしを支える地域交通が整備されている。

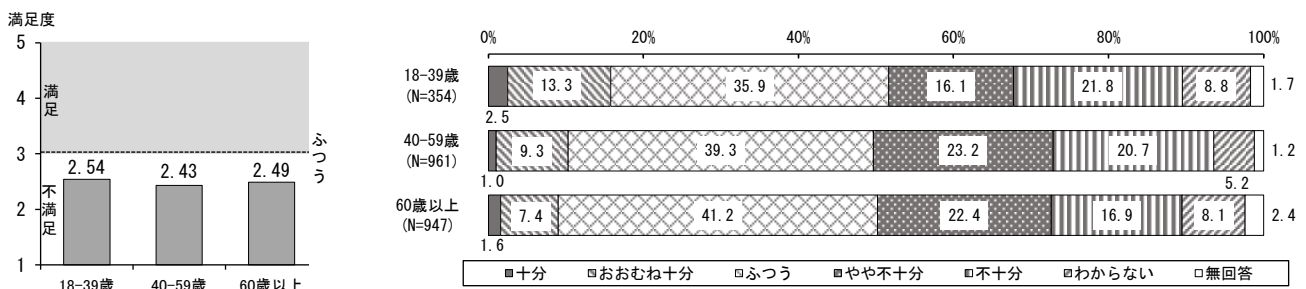
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.47で、「ふつう」の3より0.53低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は10.7%、「ふつう」は39.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は41.0%であった。また、不満を感じていない人の割合は50.2%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.54で最も高く、不満を感じていない人の割合は51.7%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.43で最も低く、不満を感じていない人の割合は49.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した936人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、287人(30.7%)から回答があった。

回答の一部

- 大都市とは違い、秋田みたいな地方都市では、車の有無で利便性や行動力に大きな差があると思います。電車やバスの本数を増やすなどの交通インフラを強化してほしいです。(男性/40歳代/秋田地域)
- 高速道路はあっても、片道1車線だと不便だと思う。県央内陸部へのアクセスも悪いと思った。良い場所、物、人がたくさんあるのもったいない。(女性/10歳代/鹿角地域)
- 高速道路の整備がされていない。バス、電車などの本数が少なすぎる。学生には住みにくい場所である。(女性/20歳代/由利地域)

(4) 戦略4 未来創造・地域社会戦略について

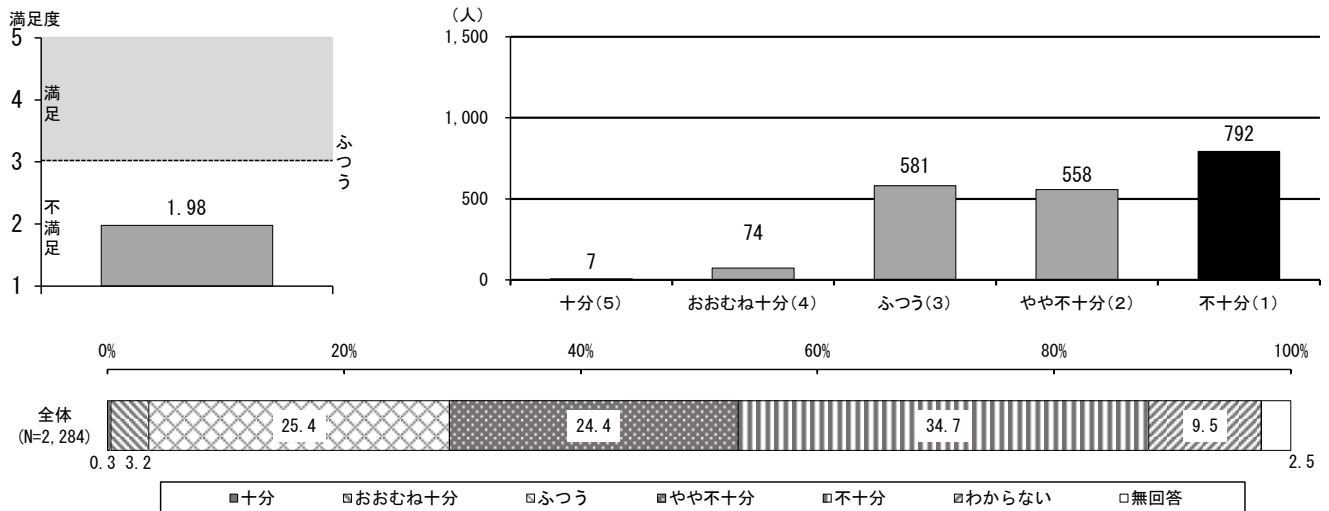
ア 新たな人の流れの創出

問1-1-14 秋田への移住者が増加するほか、若者の県内定着・回帰が進んでいる。

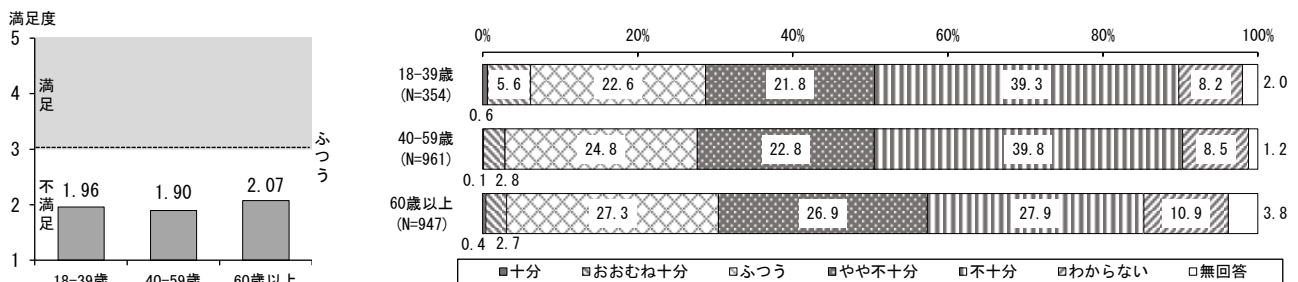
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は1.98で、「ふつう」の3より1.02低かった。回答は「不十分」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は3.5%、「ふつう」は25.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は59.1%であった。また、不満を感じていない人の割合は28.9%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は2.07で最も高く、不満を感じていない人の割合は30.4%であった。一方、「40～59歳」の満足度は1.90で最も低く、不満を感じていない人の割合は27.7%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,350人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、400人(29.6%)から回答があった。

回答の一部

- 若者も「秋田には何もない」と言う。転勤者は「秋田はいい、ずっといたい」と言う。中年者の移住も力を入れたらよいのではないかと。(男性/60歳代/秋田地域)
- 高齢化が進み、若い人を育て応援する空気をあまり秋田から感じない。これは秋田でなければできない、という突出した魅力がないため、若者や移住者の増加が見込めないように感じる。(女性/30歳代/秋田地域)
- 秋田の魅力をもっと発信していくべきと思う。リモートでする仕事も増えつつあるので、自然をアピールするなどして、移住者を増やせる工夫もあると思う。(男性/70歳以上/仙北地域)

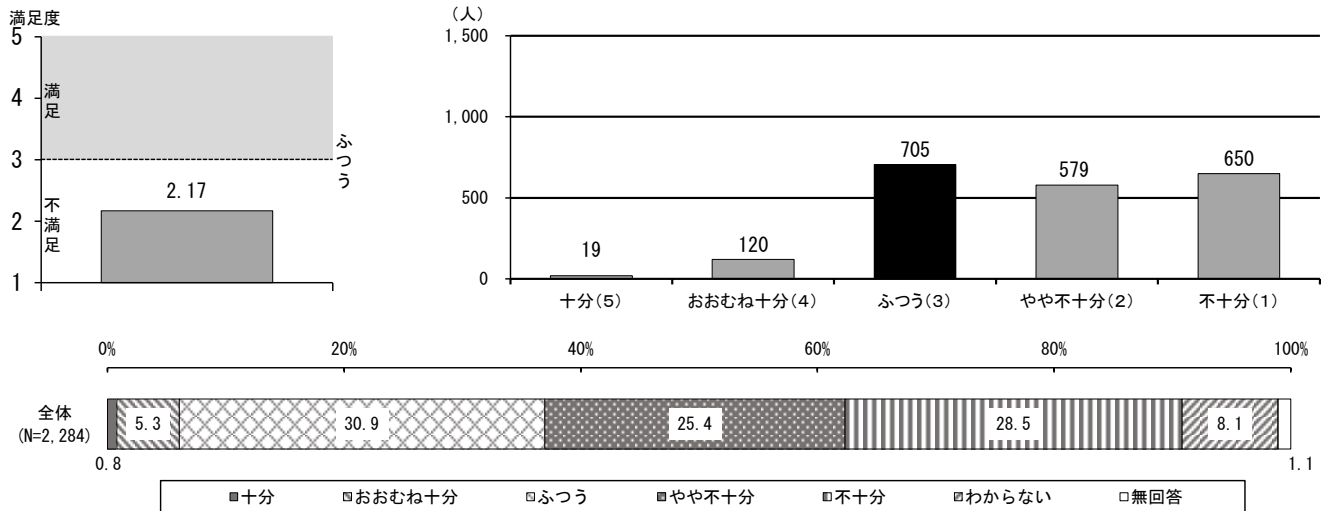
イ 結婚・出産・子育ての希望がかなう社会の実現

問 1-1-15 結婚し、安心して出産・子育てができる社会になっている。

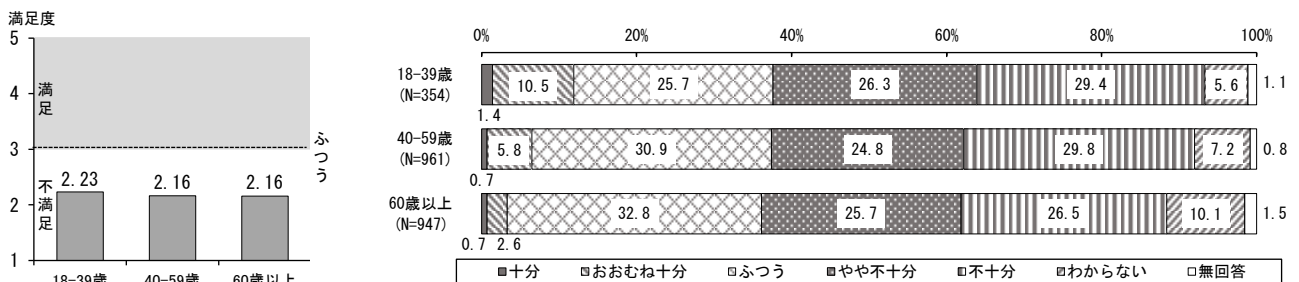
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.17で、「ふつう」の3より0.83低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は6.1%、「ふつう」は30.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は53.9%であった。また、不満を感じていない人の割合は37.0%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.23で最も高く、不満を感じていない人の割合は37.6%であった。一方、「40～59歳」と「60歳以上」の満足度はともに2.16で、不満を感じていない人の割合はそれぞれ37.4%、36.1%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,229人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、352人(28.6%)から回答があった。

回答の一部

- 子育て支援とともに保育士等の支援する側へも手厚い支援をするべきである。(男性/70歳以上/仙北地域)
- 人口減少に歯止めがかかっていない。経済がもっと活性化されないと、結婚、出産につながらないのでは。(女性/60歳代/秋田地域)
- 結婚支援センターをもっと気軽に利用できたらと思う。利用するにはかなり勇気が必要である。(女性/30歳代/秋田地域)

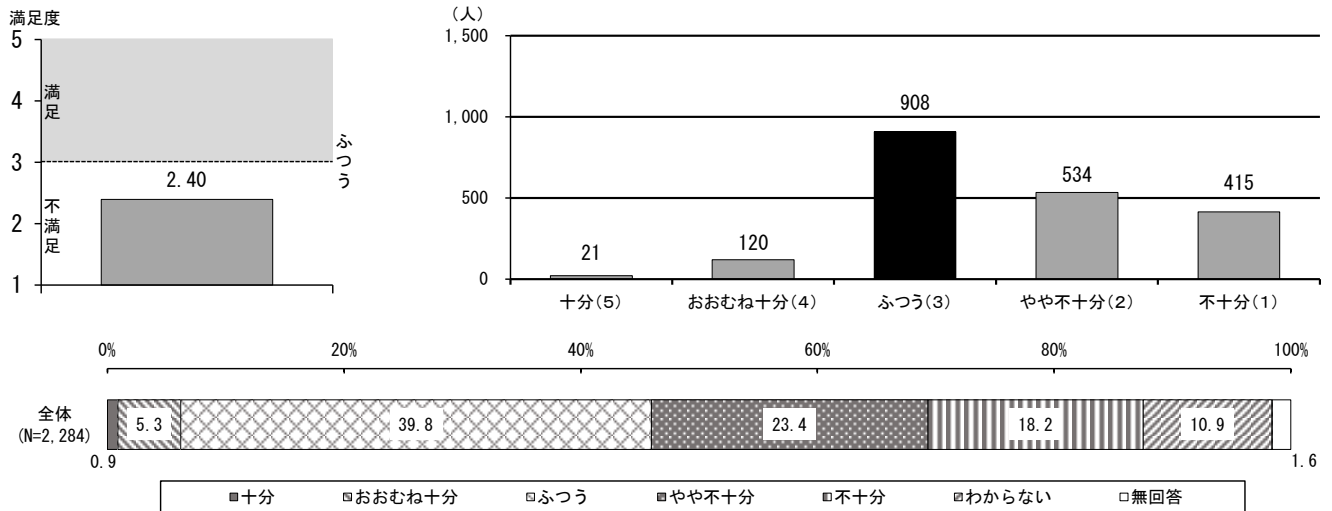
ウ 女性・若者が活躍できる社会の実現

問 1-1-16 女性や若者が様々な分野において、その能力や個性を發揮して活躍している。

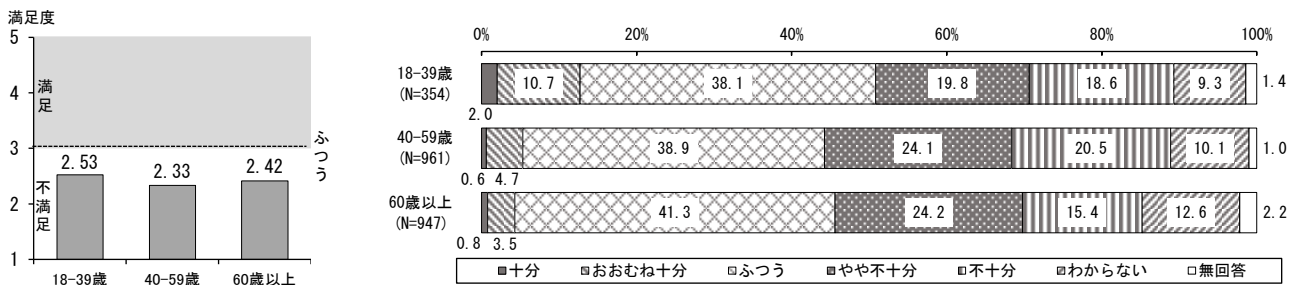
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.40で、「ふつう」の3より0.60低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は6.2%、「ふつう」は39.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は41.6%であった。また、不満を感じていない人の割合は46.0%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.53で最も高く、不満を感じていない人の割合は50.8%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.33で最も低く、不満を感じていない人の割合は44.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した949人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、167人(17.6%)から回答があった。

回答の一部

- 上層部の意見のみで、若者の意見が取り入れられていない気がする。(女性/20歳代/由利地域)
- 性別や年齢に関係なく、有能な人はもっと活躍する場があって良いと思う。(男性/50歳代/秋田地域)
- 能力と意欲のある女性は子育て期間等あっても重用すべきだが、女性活躍が前面に出過ぎて、女性であれば下駄を履かせているようなイメージもある。人よりも女性ありきになった場合、男性はもちろん重用された女性にとっても良い結果にはならないのではと思う。(男性/30歳代/山本地域)

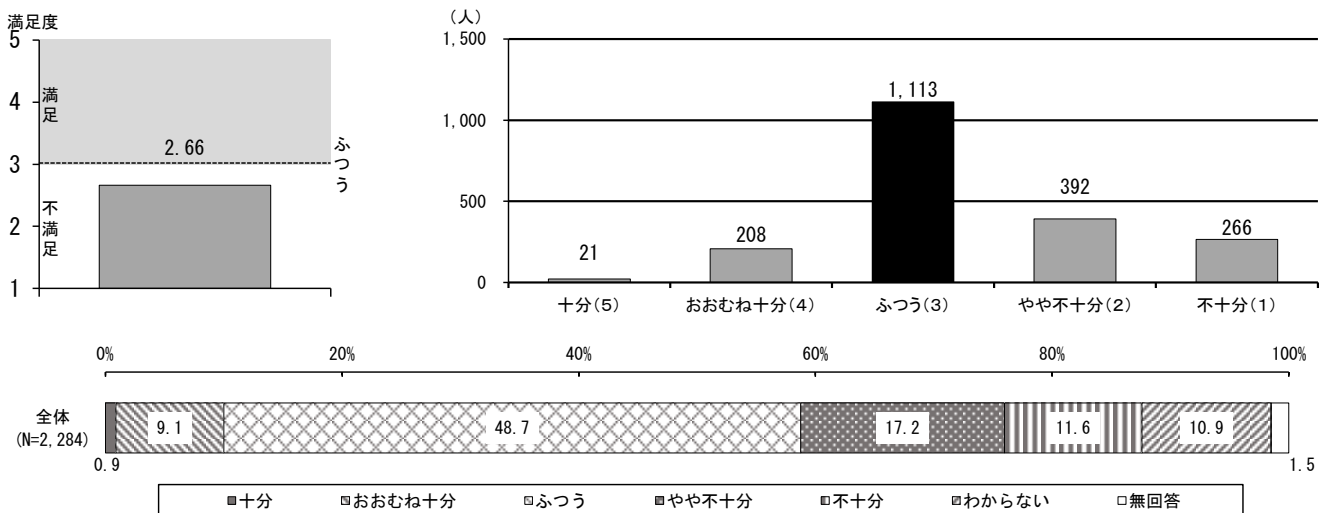
エ 変革する時代に対応した地域社会の構築

問 1-1-17 優しさと多様性に満ちた秋田において、協働等を通じて安心して生活できる地域社会となっている。

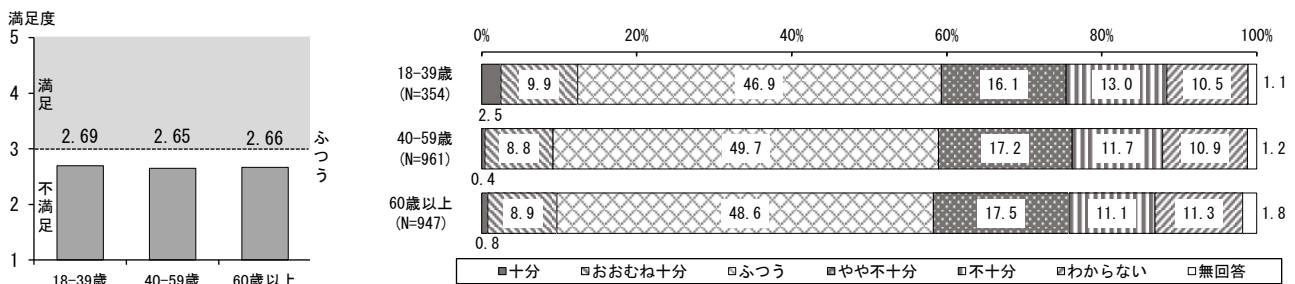
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.66で、「ふつう」の3より0.34低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は10.0%、「ふつう」は48.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は28.8%であった。また、不満を感じていない人の割合は58.7%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.69で最も高く、不満を感じていない人の割合は59.3%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.65で最も低く、不満を感じていない人の割合は58.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した658人に理由や県を求める取組を自由記述形式で質問したところ、110人(16.7%)から回答があった。

回答の一部

- 社会活動や地域活動への参加者が減少し、関心が薄れていると思う。(男性/60歳代/秋田地域)
- 個人的には昔よりも協働することが少なくなってきたと感じる。多様性は確かに増したと思うが、安心か、と聞かれるとそれは不安を感じる部分もある。(女性/40歳代/平鹿地域)
- 昔ながらの意識が根強いので、多様性の受容は進んでいないと思う。(女性/30歳代/平鹿地域)

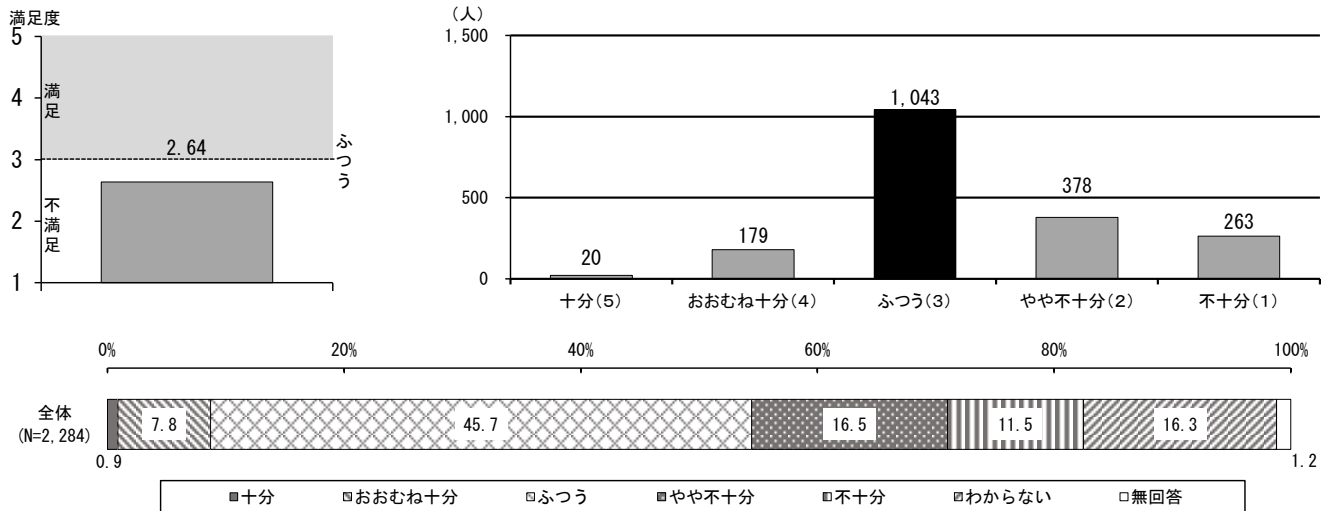
オ 脱炭素の実現を目指す地域社会の形成

問 1-1-18 地域住民、事業者、行政等と一緒に、地球温暖化対策に取り組んでいる。

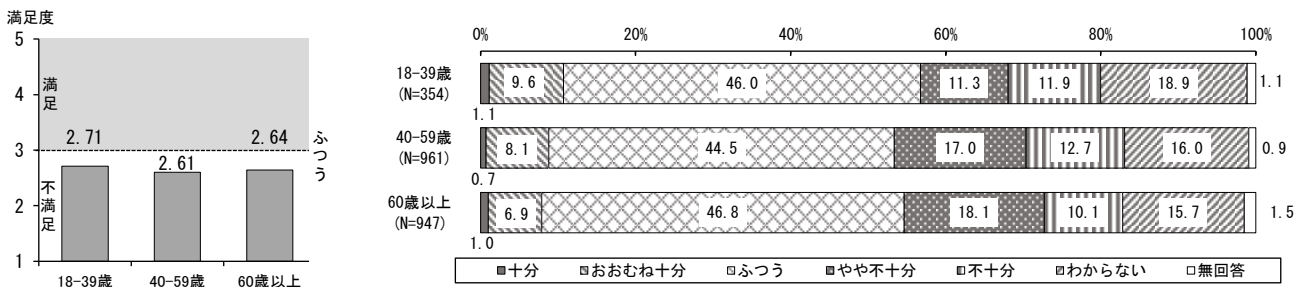
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.64で、「ふつう」の3より0.36低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は8.7%、「ふつう」は45.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は28.0%であった。また、不満を感じていない人の割合は54.4%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.71で最も高く、不満を感じていない人の割合は56.7%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.61で最も低く、不満を感じていない人の割合は53.3%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した641人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、91人(14.2%)から回答があった。

回答の一部

- 家庭から出るプラスチックを洗って出したり、使用済み天ぷら油を回収したりすると、もう少し環境に良いのではないのでしょうか。(女性/60歳代/雄勝地域)
- ゴミ問題などを通して、地球温暖化対策への意識を持ちやすい仕組みがあるとよい。他の地域で、リサイクルでポイントがたまる取組をしている所があり、地域の一体感が感じられた。(女性/40歳代/鹿角地域)
- 温暖化対策に乗り出している秋田の企業が分からないし見えない。県民も認識が薄いと思う。(男性/40歳代/仙北地域)

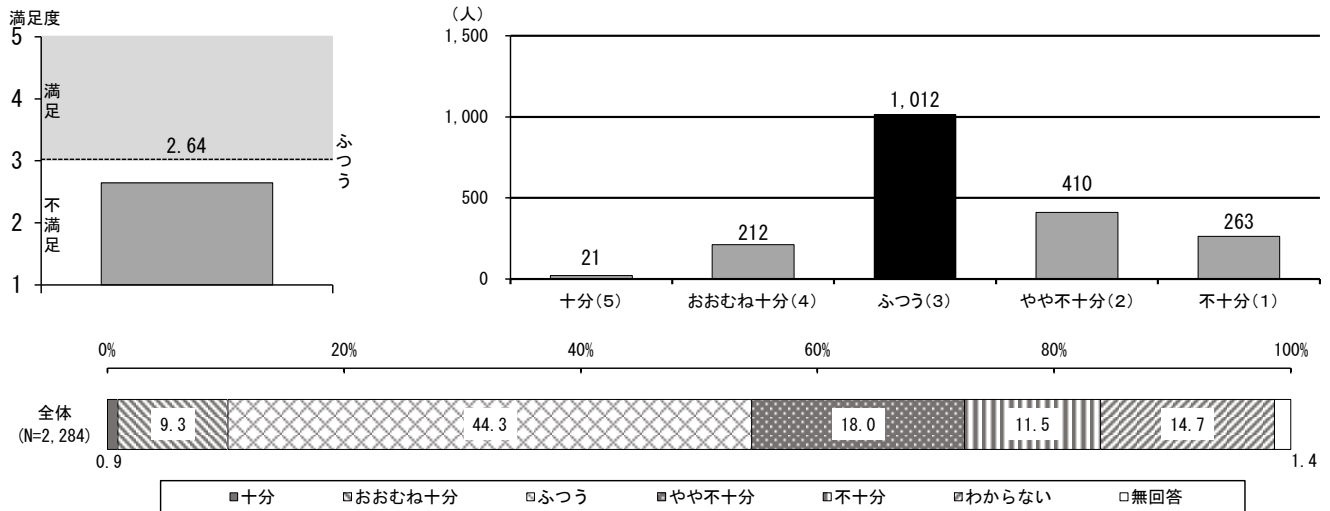
カ 行政サービスの向上

問 1-1-19 デジタル化の推進等により充実した行政サービスが提供されている。

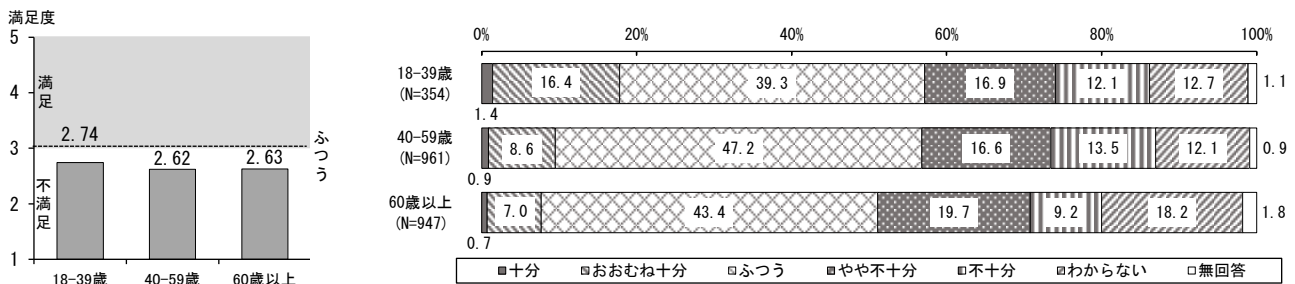
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.64で、「ふつう」の3より0.36低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は10.2%、「ふつう」は44.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は29.5%であった。また、不満を感じていない人の割合は54.5%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.74で最も高く、不満を感じていない人の割合は57.1%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.62で最も低く、不満を感じていない人の割合は56.7%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した673人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、159人(23.6%)から回答があった。

回答の一部

- 急速なデジタル化についていけない高齢者にスマホの操作方法を教えるなどのサービスを充実してほしい。(女性/70歳以上/秋田地域)
- デジタル化についていけない人に対するフォローアップも必要。(男性/50歳代/仙北地域)
- デジタル化は必要だが、あと10年はPC、スマホを持たない世代がいる。従来のサービスを並行して残していくことが必要。急激な変化は混乱を招く。(男性/40歳代/秋田地域)

(5) 戦略5 健康・医療・福祉戦略について

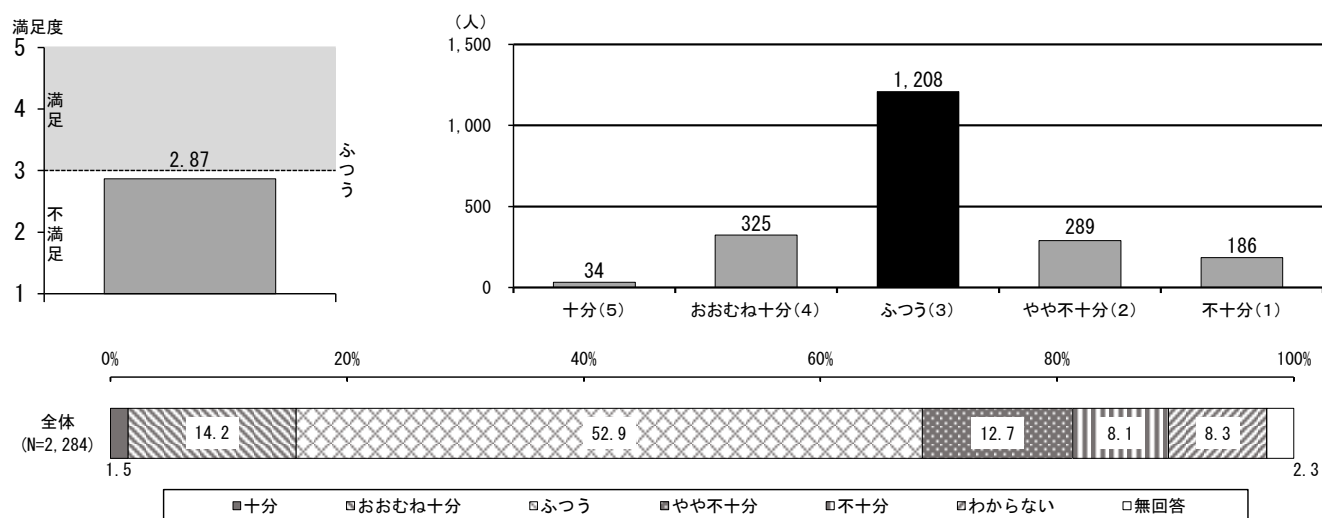
ア 健康寿命日本一の実現

問 1-1-20 県民の健康づくりに取り組む意識が高まり、生きがいをもって元気に生活している。

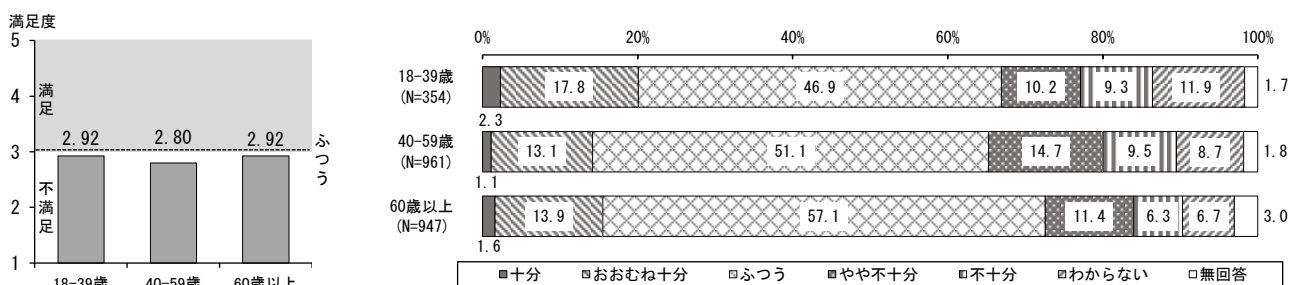
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.87で、「ふつう」の3より0.13低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は15.7%、「ふつう」は52.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は20.8%であった。また、不満を感じていない人の割合は68.6%であった。



年代別では、「18～39歳」と「60歳以上」の満足度がともに2.92で、不満を感じていない人の割合はそれぞれ67.0%、72.6%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.80で最も低く、不満を感じていない人の割合は65.3%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した475人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、82人(17.3%)から回答があった。

回答の一部

- 県民の健康づくりに取り組む意識が少ない。もっとイベントを増やすべき。(女性/30歳代/秋田地域)
- 健康寿命日本一目指して久しいと思いますが、コロナ禍もあってか、一般県民には伝わりにくかったように思います。(女性/70歳以上/由利地域)
- 文化的な原因であるが、味の濃いものなどの不健康な食事は変わってないと思う。(男性/10歳代/平鹿地域)

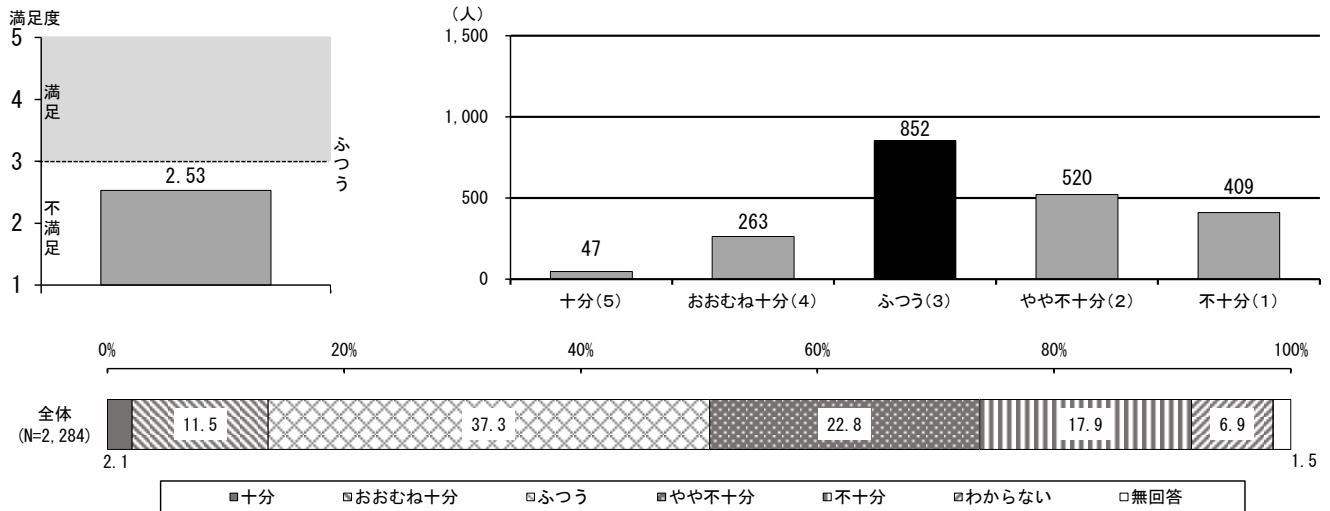
イ 安心で質の高い医療の提供

問 1-1-21 どこに住んでいても、必要な医療を受けられる体制が整っている。

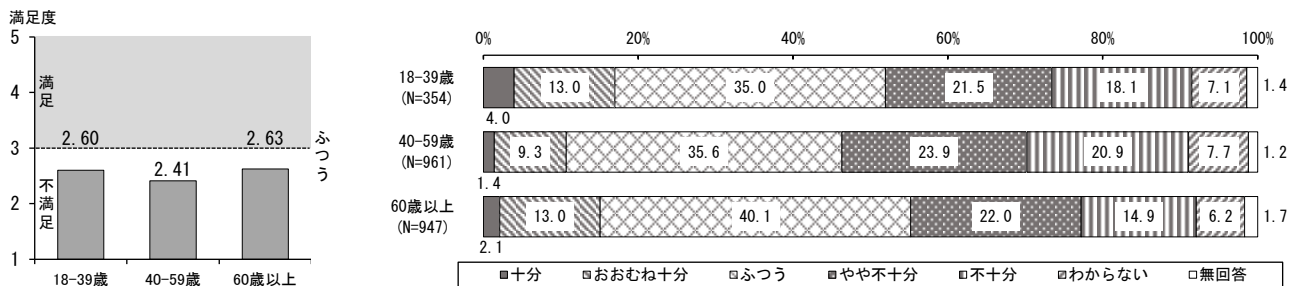
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.53で、「ふつう」の3より0.47低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は13.6%、「ふつう」は37.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は40.7%であった。また、不満を感じていない人の割合は50.9%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は2.63で最も高く、不満を感じていない人の割合は55.2%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.41で最も低く、不満を感じていない人の割合は46.3%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した929人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、247人(26.6%)から回答があった。

回答の一部

- オンライン診療を進めることは良いと思うが、年を取るほど、デジタルは苦手になる。異常を感じたら、すぐ通報・受診できるシステム作りが大切だと思う。(女性/60歳代/仙北地域)
- 公共交通機関が少なすぎる。高齢者が増え、若い人が減っているのに車がないと病院へも行けない。しかし往診が増えているわけでもない。医師不足。(女性/30歳代/平鹿地域)
- 医療の地域格差がありすぎる。医療機関が少なすぎて選べない。特に高度な治療を必要とする場合、できる病院がないからそこにある病院で治療せざるを得ないという感じ。(女性/40歳代/仙北地域)

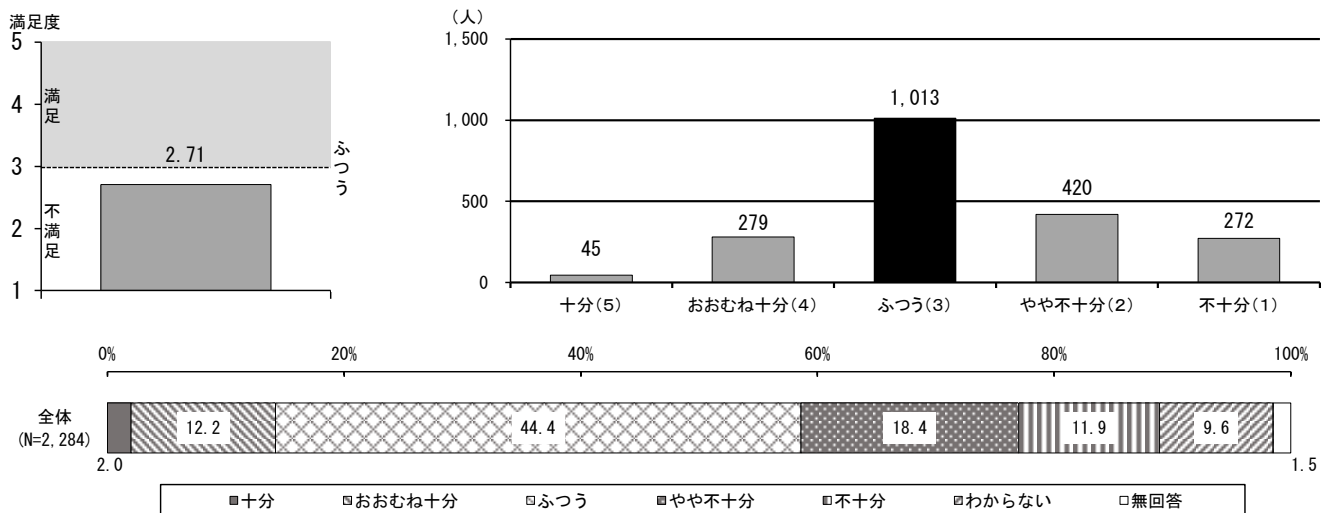
ウ 高齢者と障害者の暮らしを支える体制の強化

問 1-1-22 高齢者や障害のある方が、必要なサービスや支援を受けながら、住み慣れた地域で安心して生活している。

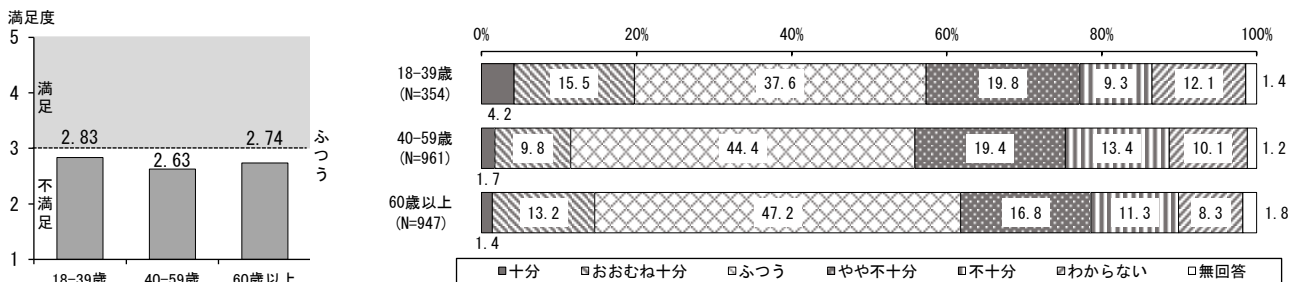
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.71で、「ふつう」の3より0.29低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は14.2%、「ふつう」は44.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は30.3%であった。また、不満を感じていない人の割合は58.6%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.83で最も高く、不満を感じていない人の割合は57.3%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.63で最も低く、不満を感じていない人の割合は55.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した692人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、160人(23.1%)から回答があった。

回答の一部

- 高齢者・障害のある方の家族のサポートをもっと考えてほしい。(女性/40歳代/山本地域)
- 事業所が人手不足で縮小している。同じ介護保険料を支払っても、住んでいる地域によってサービスに格差が生じている。(女性/40歳代/雄勝地域)
- 一人世帯の高齢者が、どこに相談して良いか分からず、サービスを受けられていないような感じがする。(女性/50歳代/北秋田地域)

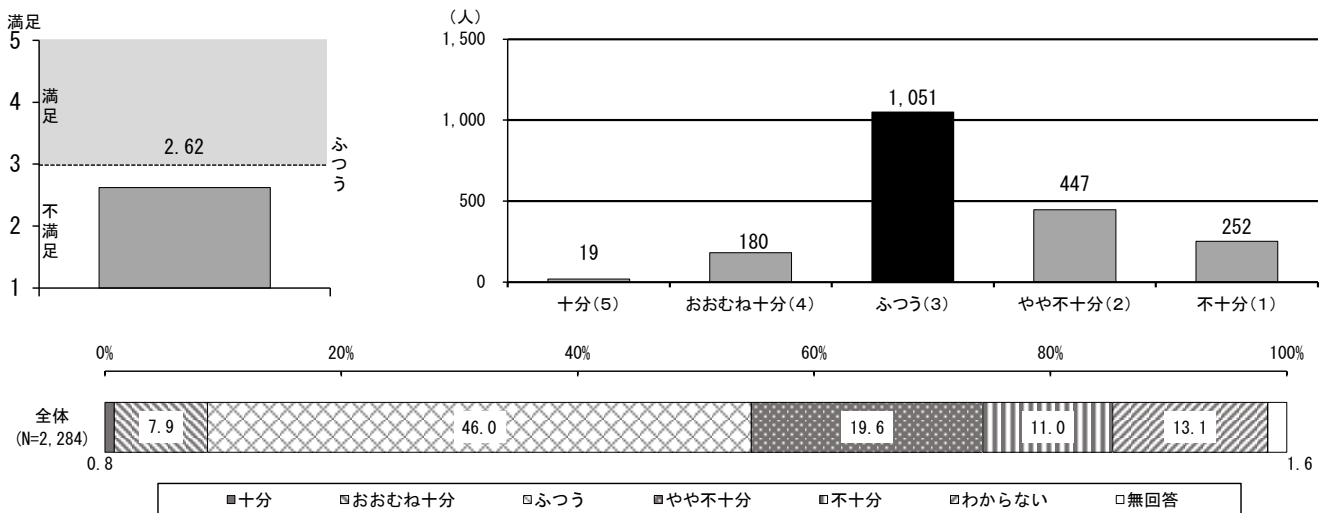
エ 誰もが安全・安心を実感できる地域共生社会の実現

問 1-1-23 相談体制や支援の充実により、地域や社会から孤立することなく、安心して生活できる社会となっている。

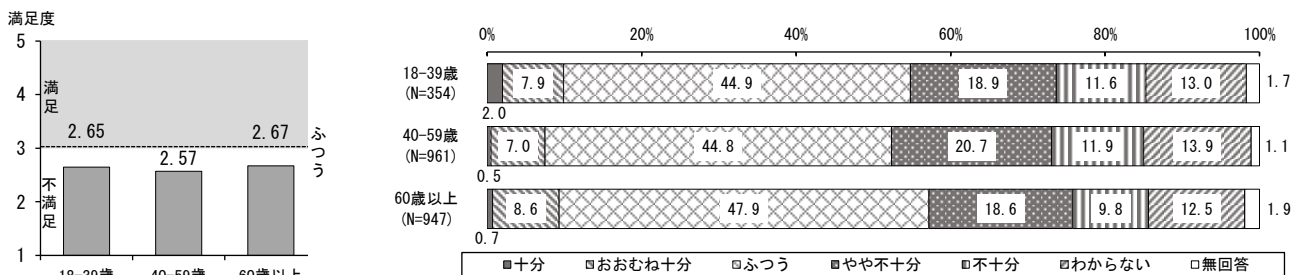
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.62で、「ふつう」の3より0.38低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は8.7%、「ふつう」は46.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は30.6%であった。また、不満を感じていない人の割合は54.7%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は2.67で最も高く、不満を感じていない人の割合は57.2%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.57で最も低く、不満を感じていない人の割合は52.3%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した699人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、142人(20.3%)から回答があった。

回答の一部

- 個人情報を守られるか不安で相談できない。(男性/30歳代/雄勝地域)
- 相談・支援は行われていると思うが、孤立化はなかなか解消されていない。(男性/60歳代/鹿角地域)
- 相談対応員の適切な配置や教育体制の充実により資質を向上させ、官民連携した体制を構築してほしい。(女性/50歳代/秋田地域)

(6) 戦略6 教育・人づくり戦略について

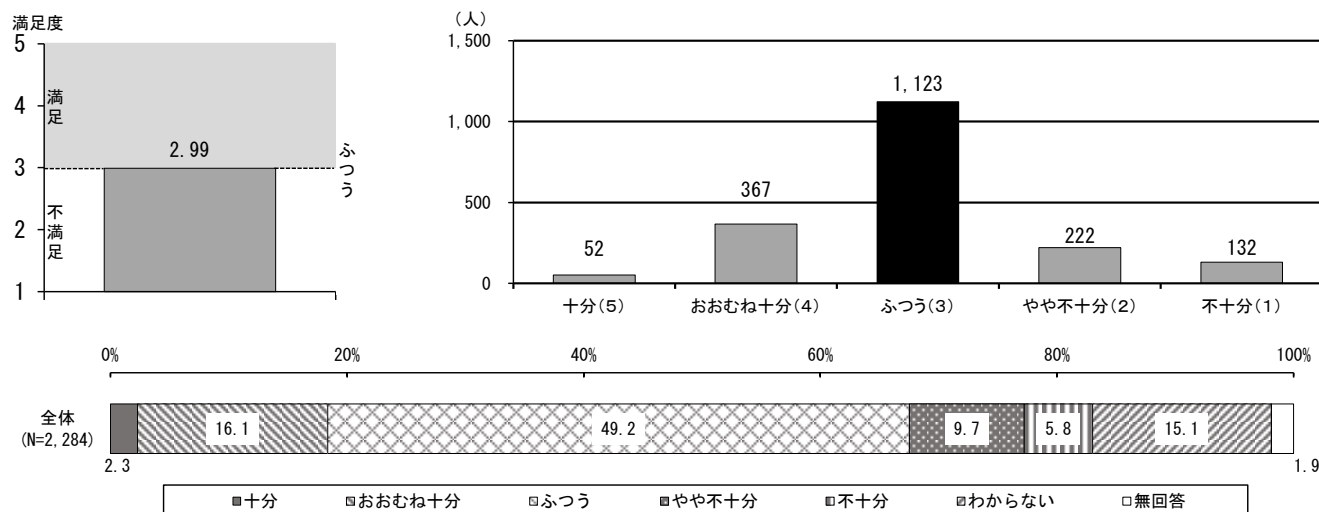
ア 秋田の将来を支える高い志にあふれる人材の育成

問 1-1-24 学校教育を通じて、ふるさとを愛し社会で活躍しようとする心が育まれている。

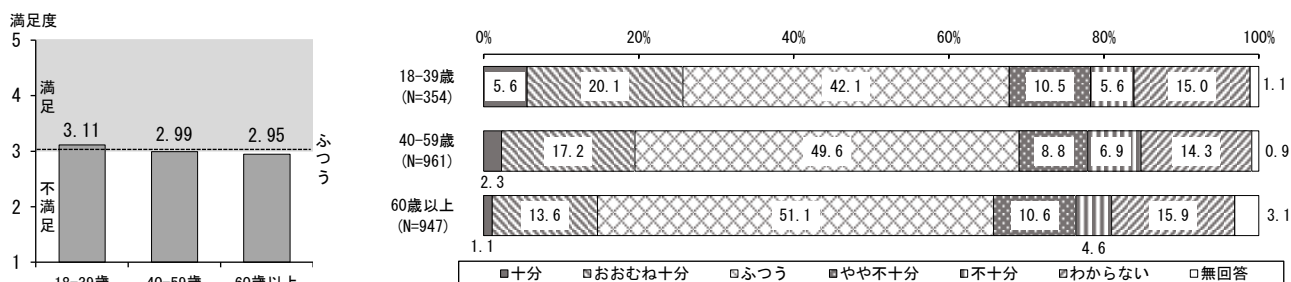
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.99で、「ふつう」の3より0.01低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は18.4%、「ふつう」は49.2%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は15.5%であった。また、不満を感じていない人の割合は67.6%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.11で最も高く、不満を感じていない人の割合は67.8%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.95で最も低く、不満を感じていない人の割合は65.8%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した354人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、66人(18.6%)から回答があった。

回答の一部

- 学校も必要ですが、地域で育てるような環境を作ってほしい。(男性/70歳以上/秋田地域)
- 小学校からふるさと教育を充実、拡充させ、秋田の良さをしっかり認識してほしいと思う。外部や県外の識者等から見た秋田の良さを直接伝えてもらう機会を作る。(女性/50歳代/平鹿地域)
- 郷土愛が育っても、「だから秋田に残る、秋田を大切にしたい」とつながっているとは思えない。(男性/50歳代/仙北地域)

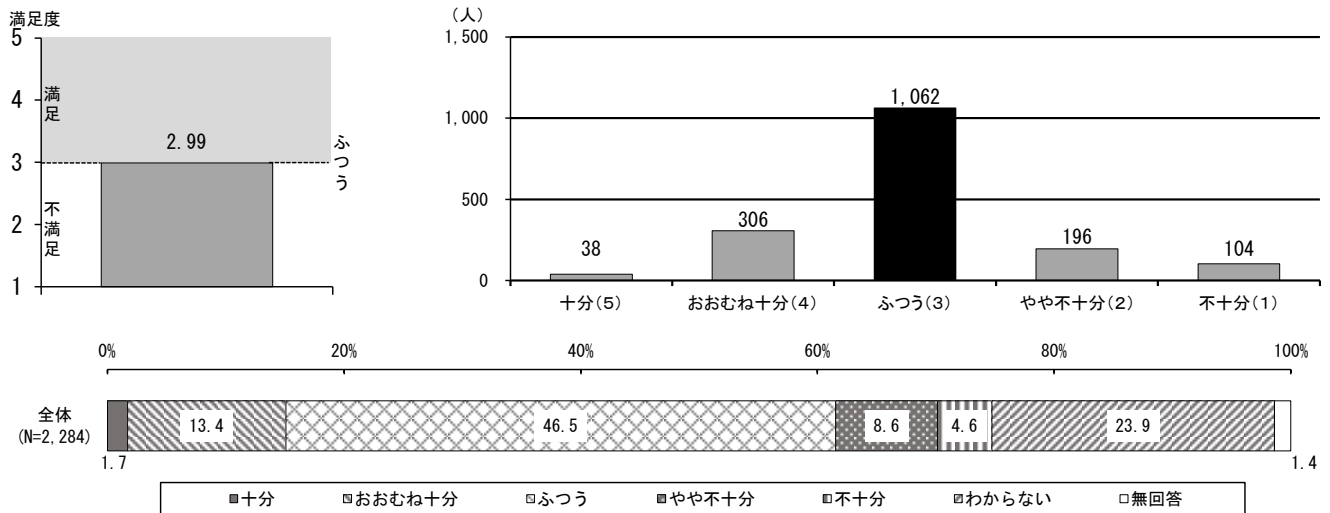
イ 確かな学力の育成

問 1-1-25 学校教育を通じて、ICTを効果的に活用しながら、自ら考え、判断し、表現する力が育まれている。

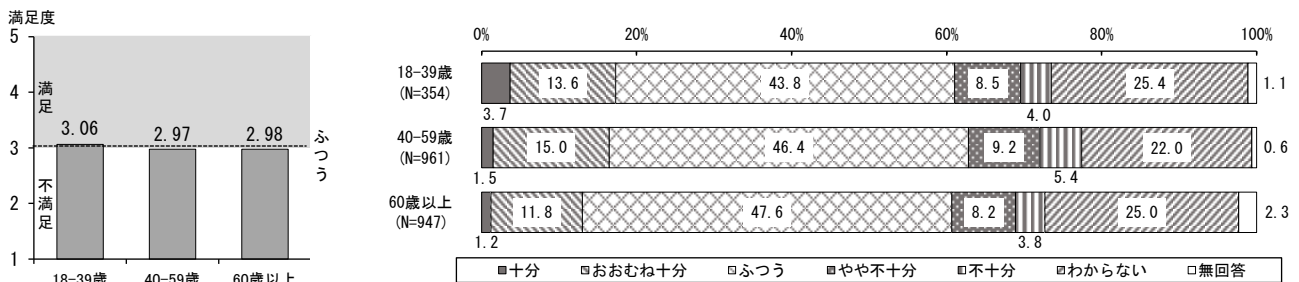
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.99で、「ふつう」の3より0.01低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は15.1%、「ふつう」は46.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は13.2%であった。また、不満を感じていない人の割合は61.6%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.06で最も高く、不満を感じていない人の割合は61.1%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.97で最も低く、不満を感じていない人の割合は62.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した300人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、57人(19.0%)から回答があった。

回答の一部

- 「ICTの活用」が目的になっており、無理に使っているように思う。ICT活用による視力低下、対面でのコミュニケーション不足へのフォローも併せて必要。(男性/30歳代/雄勝地域)
- ICTに関して、学校の先生に全て任せるのは大変だと思います。先生の負担が大きい。専門的な人に依頼するのはどうでしょうか。(女性/30歳代/秋田地域)
- ICTの活用で、意見を示すのが苦手な子どもも授業に参加しやすい活用法があるなど、思わぬメリットがいくつもあると聞きます。同時に、発達期の子どもに使用させると、論理的な思考能力が落ちるとの研究結果なども揃ってきているようなので、注意して運用してもらいたい。(男性/40歳代/秋田地域)

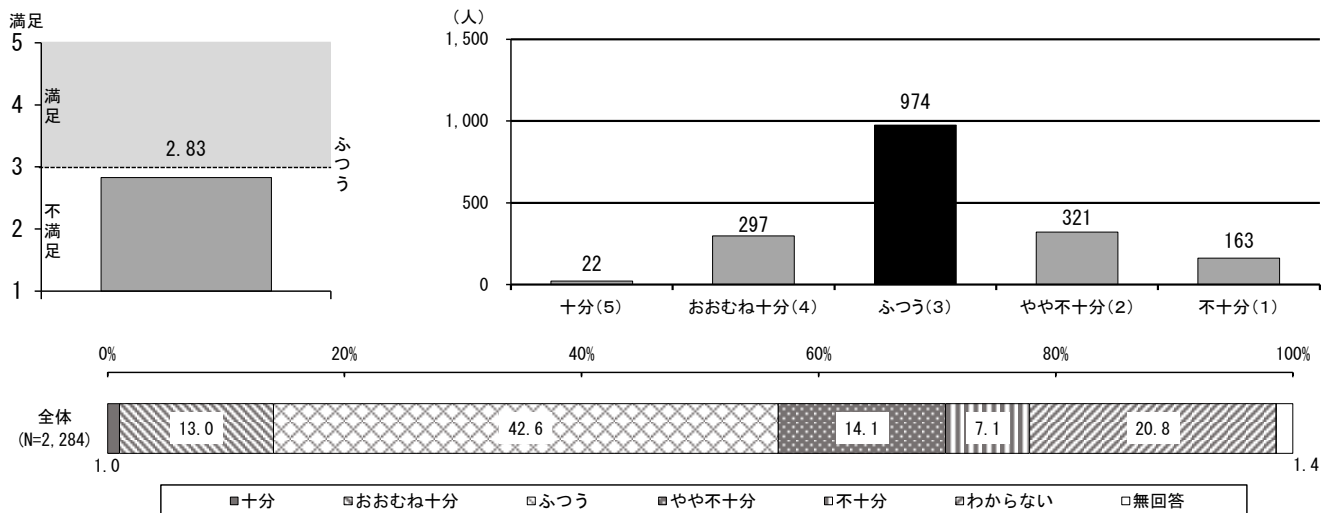
ウ グローバル社会で活躍できる人材の育成

問 1-1-26 学校教育を通じて、外国文化を理解しようとする態度や、英語でコミュニケーションができる能力が育まれている。

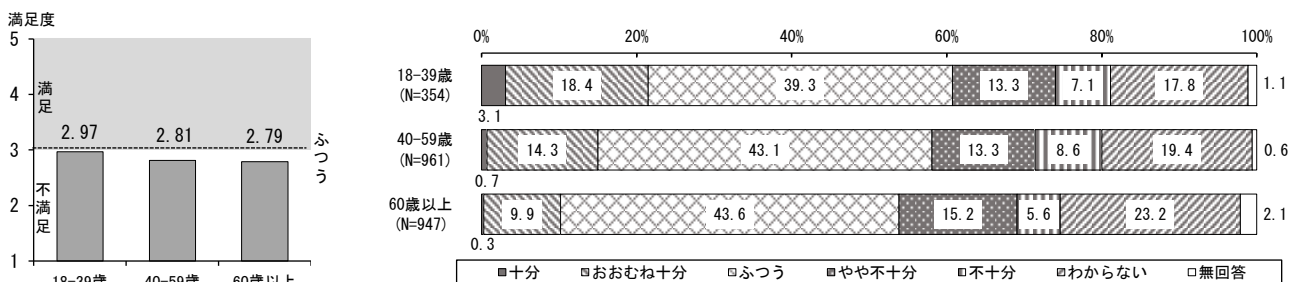
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.83で、「ふつう」の3より0.17低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は14.0%、「ふつう」は42.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は21.2%であった。また、不満を感じていない人の割合は56.6%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.97で最も高く、不満を感じていない人の割合は60.8%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.79で最も低く、不満を感じていない人の割合は53.8%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した484人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、91人(18.8%)から回答があった。

回答の一部

- 読み書きはある程度できていますが、話す、聞くなどの実技がまだまだだと思います。実践の機会を増やす必要があると思います。(男性/30歳代/平鹿地域)
- イングリッシュキャンプに7年前に参加しましたが、とても楽しかったです。英語に触れる機会があるのは良いと思います。まずは母音の発音から学びたかったです。(女性/20歳代/由利地域)
- 外国語指導助手の先生がもっと良いと思う。それこそインターナショナルスクールなど英語を学びたい人はそこに通えるようにする。授業がつまらないなどの理由で英語が嫌いな子もいる。(女性/30歳代/仙北地域)

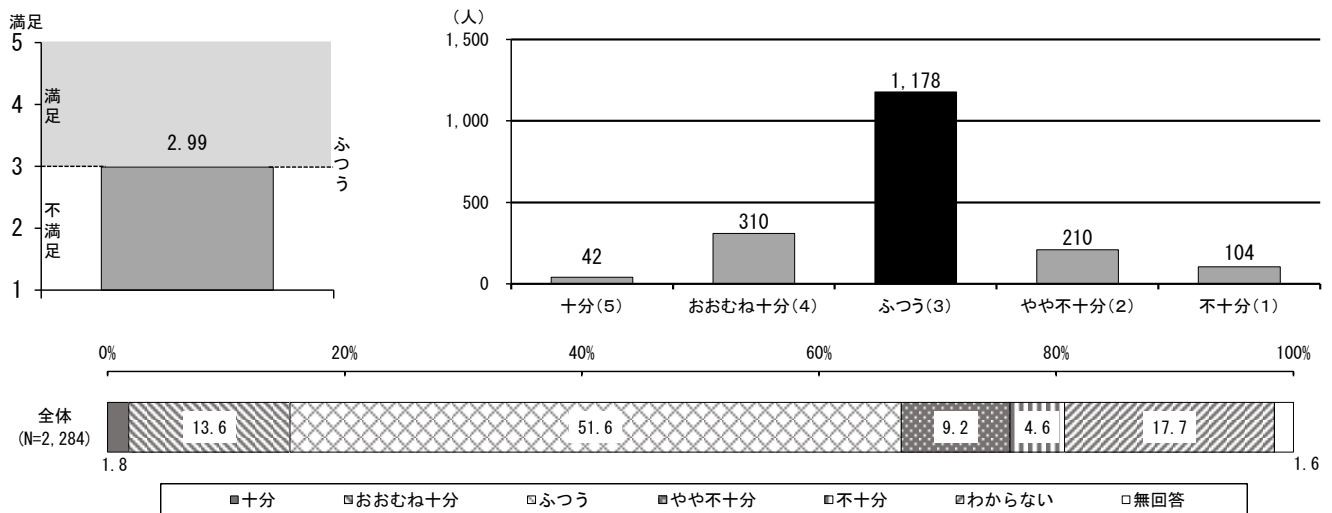
エ 豊かな心と健やかな体の育成

問 1-1-27 学校教育を通じて、他人への思いやりなどの豊かな心や健やかな体が育まれている。

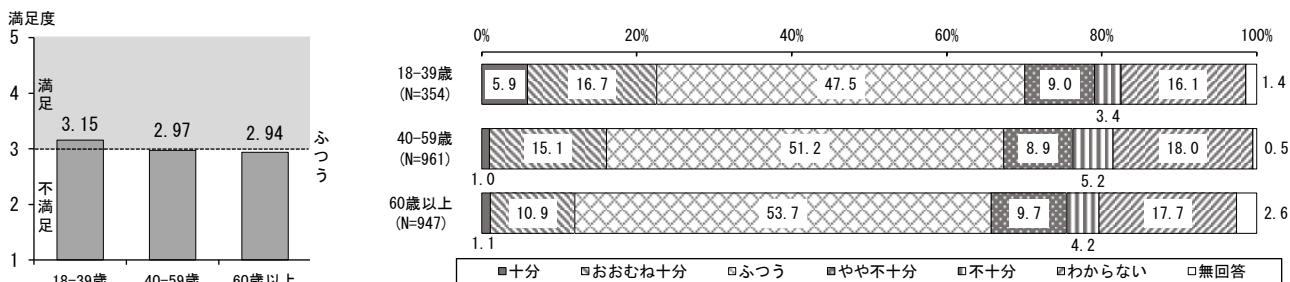
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.99で、「ふつう」の3より0.01低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は15.4%、「ふつう」は51.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は13.8%であった。また、不満を感じていない人の割合は67.0%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.15で最も高く、不満を感じていない人の割合は70.1%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.94で最も低く、不満を感じていない人の割合は65.7%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した314人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、66人(21.0%)から回答があった。

回答の一部

- 地域を巻き込んだ部活動の支援が必要と思われる。(男性/60歳代/秋田地域)
- スクールカウンセラーの存在はありがたいが、予約したくても数か月待ちがよくある。もう少し人数配置ができないものか。または、その他関係機関との連携の充実を図れないものか。(女性/30歳代/秋田地域)
- 先生方も日々忙しく、クラスの生徒とのコミュニケーションが取れていないと思います。言葉だけで他人への思いやりを伝えられても伝わらない。コミュニケーションをもっと取ってほしい。(男性/40歳代/平鹿地域)

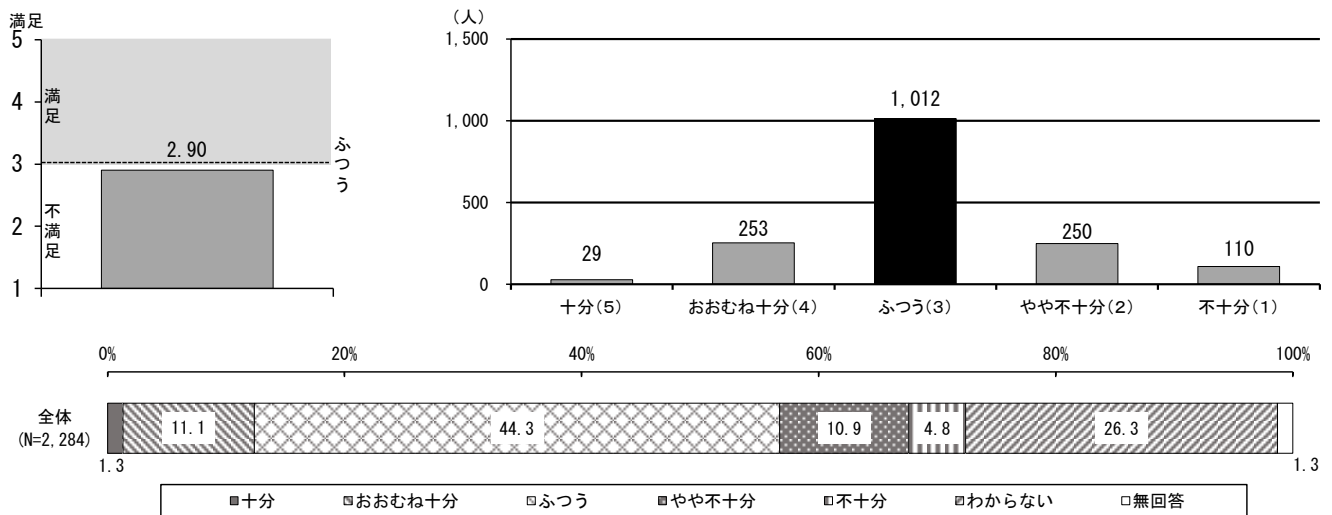
オ 地域社会の活性化と産業振興に資する高等教育機関の機能の強化

問 1-1-28 県内の大学等で、地域の活性化につながる教育・研究・地域貢献が行われている。

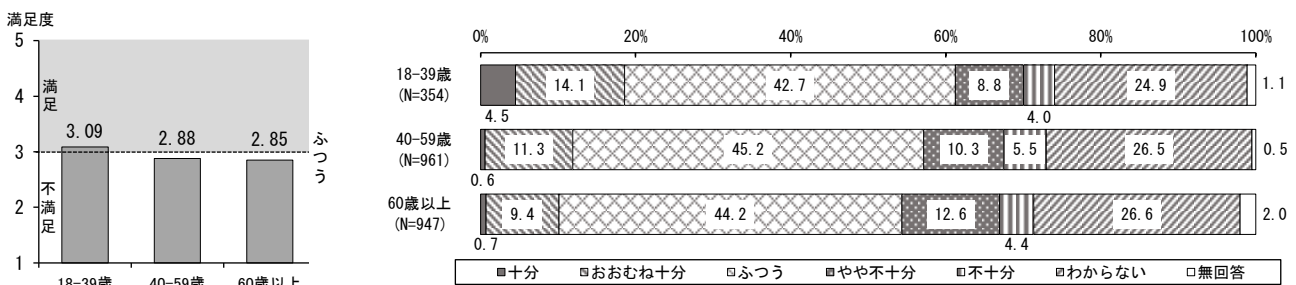
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.90で、「ふつう」の3より0.10低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は12.4%、「ふつう」は44.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は15.7%であった。また、不満を感じていない人の割合は56.7%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.09で最も高く、不満を感じていない人の割合は61.3%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.85で最も低く、不満を感じていない人の割合は54.3%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した360人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、62人(17.2%)から回答があった。

回答の一部

- もっと県内の大学等を利用すべきである。そこから、若者の地域に対する愛着が生まれると思う。(男性/60歳代/秋田地域)
- 大学間の連携、大学と地域の連携がますます広がると良いと思います。(女性/40歳代/鹿角地域)
- 学生と地域住民との交流はあまりないのではないかと。もっと交流する機会を増やしたほうが良いと思う。(男性/30歳代/秋田地域)

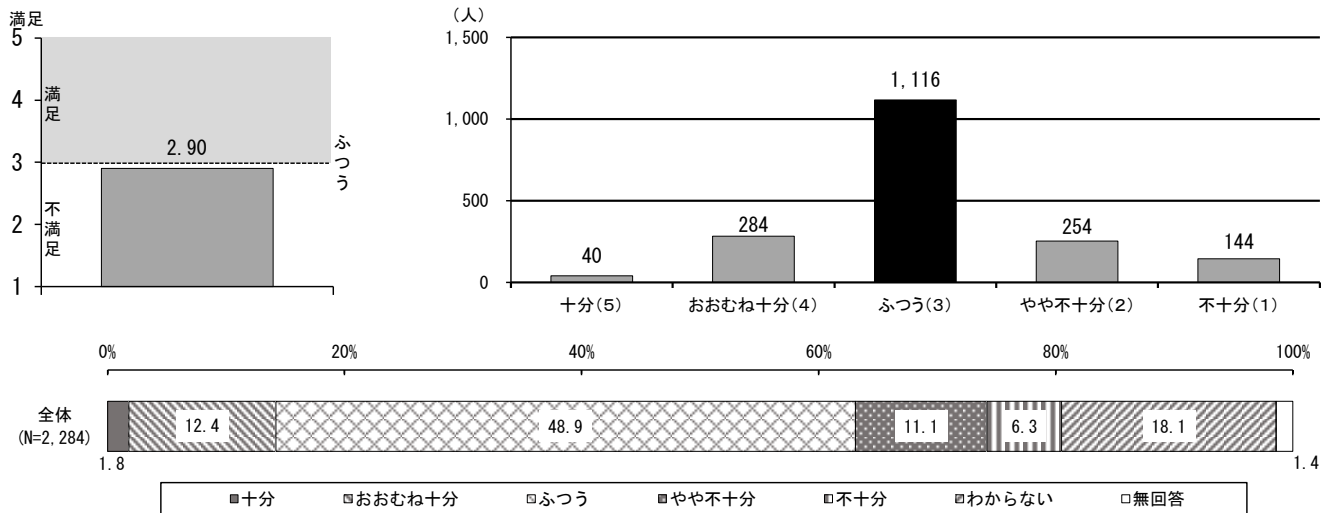
カ 生涯にわたり学び続けられる環境の構築

問 1-1-29 県民がライフステージや生活スタイルに応じて、生涯にわたり学び、文化芸術に触れる機会が提供されている。

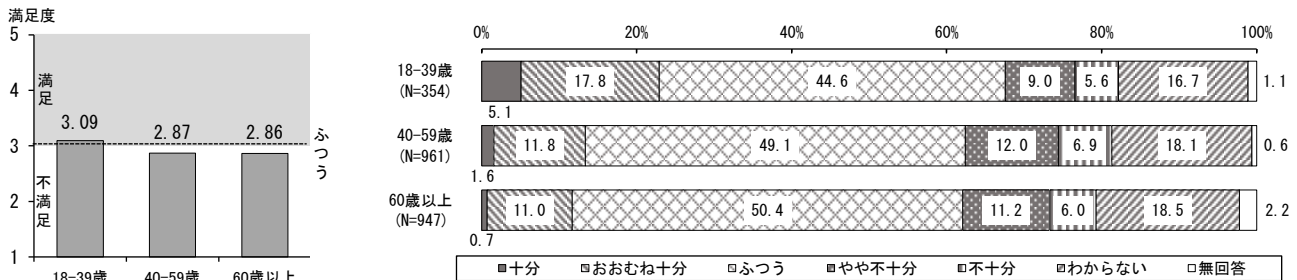
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.90で、「ふつう」の3より0.10低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は14.2%、「ふつう」は48.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は17.4%であった。また、不満を感じていない人の割合は63.1%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.09で最も高く、不満を感じていない人の割合は67.5%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.86で最も低く、不満を感じていない人の割合は62.1%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した398人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、53人(13.3%)から回答があった。

回答の一部

- 県都中心になりがちであり、全県での取組を望む。(男性/60歳代/平鹿地域)
- 良いもの、素晴らしいものがあるのでもっと宣伝をし、提供する場所を多くしてほしいです。(女性/50歳代/秋田地域)
- 社会人でも夜間やオンライン学習でスキルアップできるように環境を整えてほしい。(男性/30歳代/秋田地域)

(7) 選択・集中プロジェクト及び重点施策推進方針について

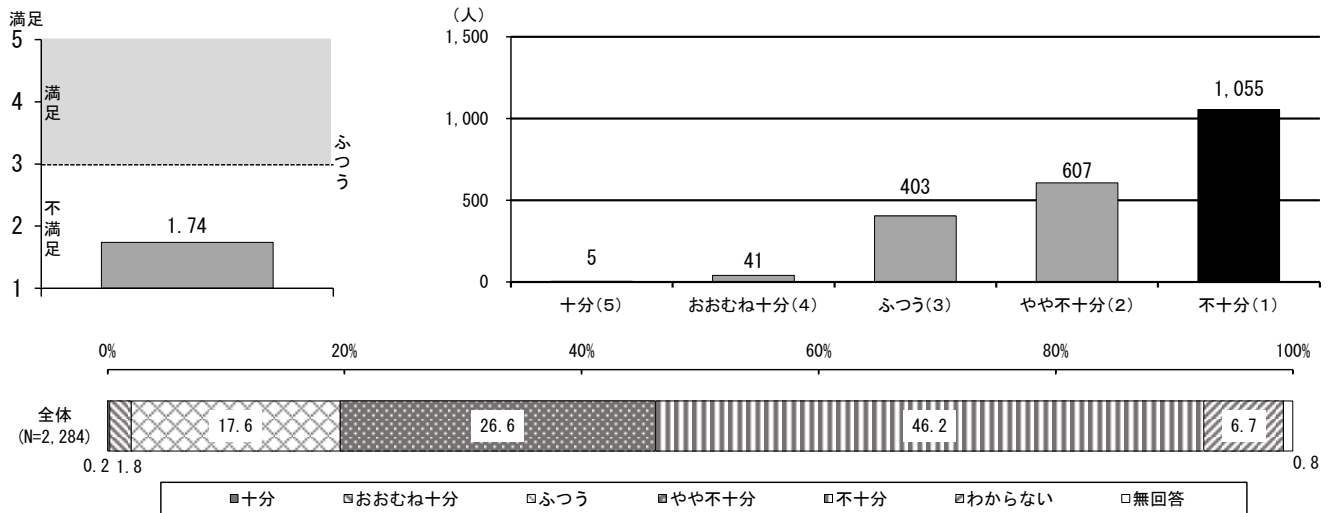
ア 賃金水準の向上

問 1-2-1 県内の「賃金水準が向上」している。

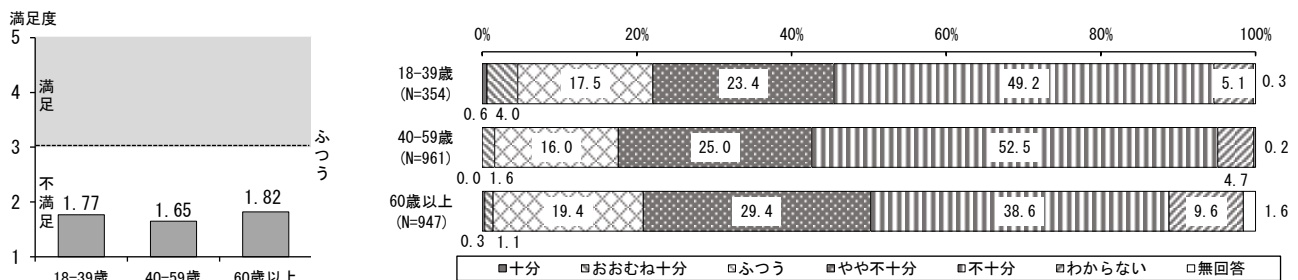
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は1.74で、「ふつう」の3より1.26低かった。回答は「不十分」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は2.0%、「ふつう」は17.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は72.8%であった。また、不満を感じていない人の割合は19.6%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は1.82で最も高く、不満を感じていない人の割合は20.8%であった。一方、「40～59歳」の満足度は1.65で最も低く、不満を感じていない人の割合は22.1%であった。



イ カーボンニュートラルへの挑戦

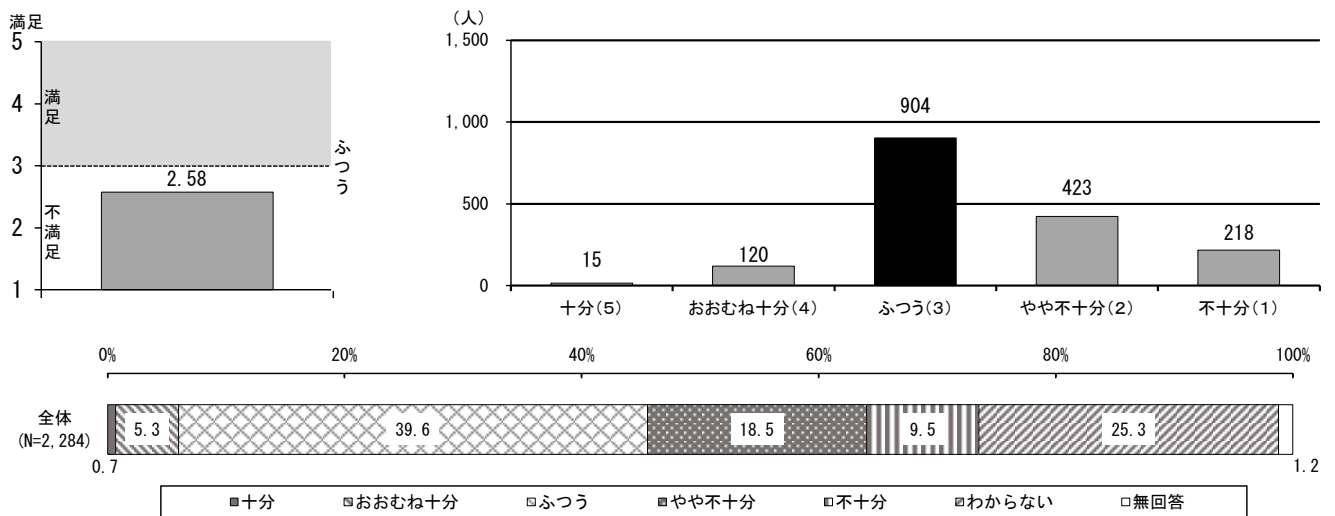
問 1-2-2 「カーボンニュートラル（※）」の実現に向けた取組が進んでいる。

※二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出を減らし、「排出量」から、森林などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすること。

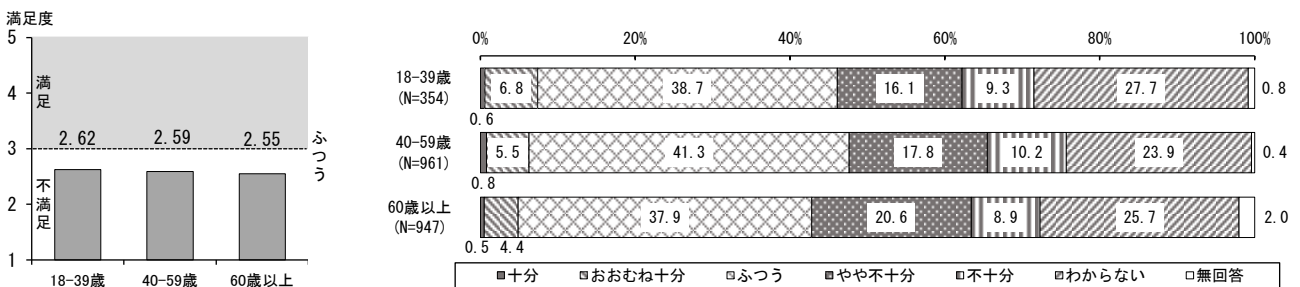
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.58で、「ふつう」の3より0.42低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は6.0%、「ふつう」は39.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は28.0%であった。また、不満を感じていない人の割合は45.6%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.62で最も高く、不満を感じていない人の割合は46.1%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.55で最も低く、不満を感じていない人の割合は42.8%であった。



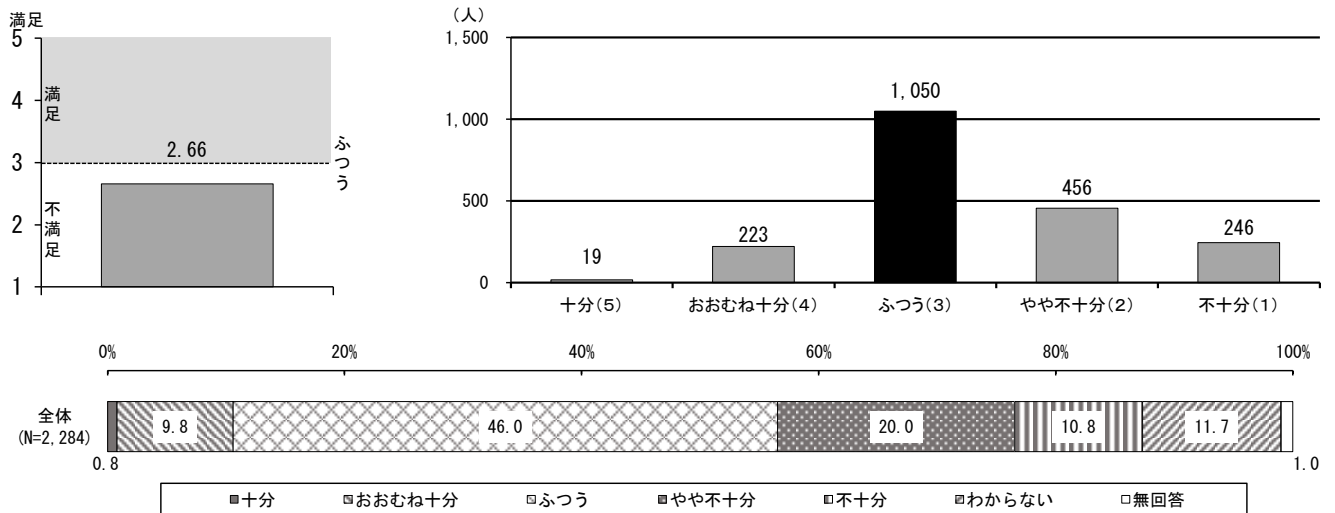
ウ デジタル化の推進

問 1-2-3 県民生活の様々な場面において、「デジタル化」が進んでいる。

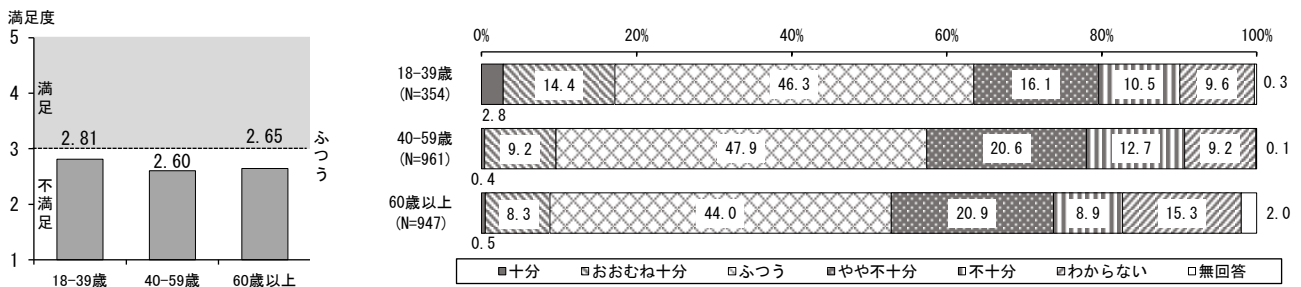
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.66で、「ふつう」の3より0.34低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は10.6%、「ふつう」は46.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は30.8%であった。また、不満を感じていない人の割合は56.6%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.81で最も高く、不満を感じていない人の割合は63.5%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.60で最も低く、不満を感じていない人の割合は57.5%であった。



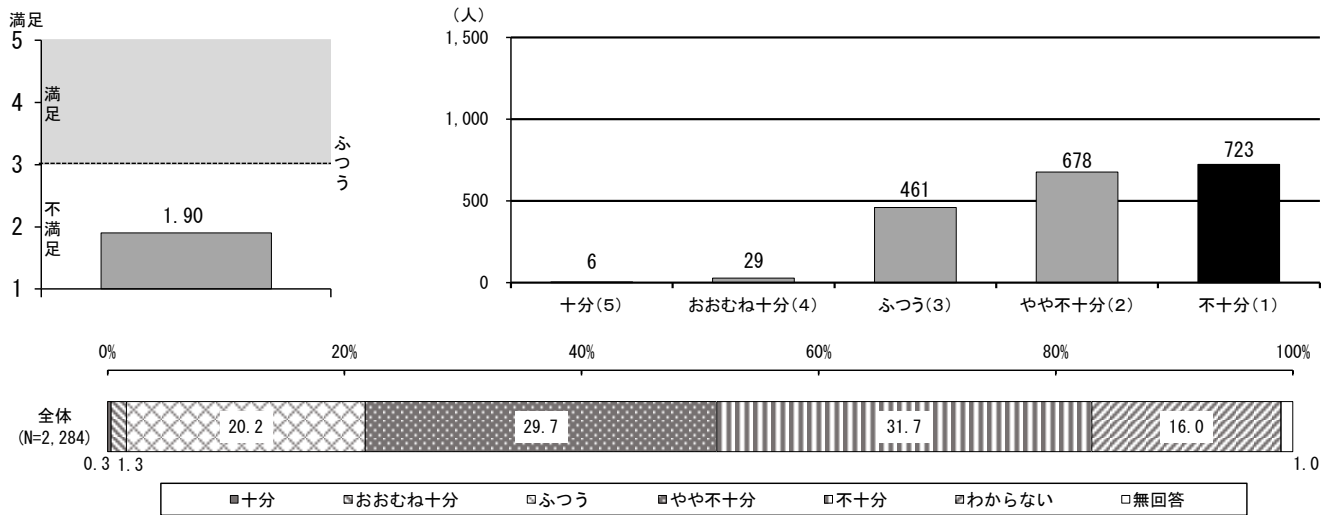
エ 若年女性の県内定着・回帰

問 1-2-4 「若年女性の県内定着・回帰」が進んでいる。

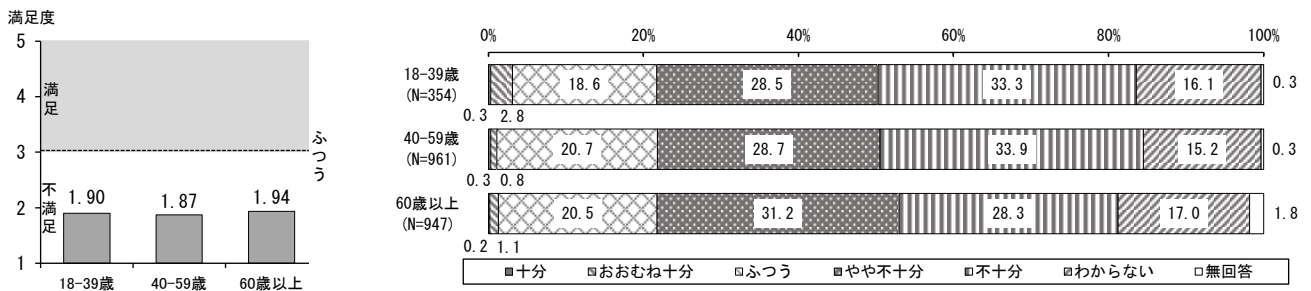
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は1.90で、「ふつう」の3より1.10低かった。回答は「不十分」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は1.6%、「ふつう」は20.2%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は61.4%であった。また、不満を感じていない人の割合は21.8%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は1.94で最も高く、不満を感じていない人の割合は21.8%であった。一方、「40～59歳」の満足度は1.87で最も低く、不満を感じていない人の割合は21.8%であった。



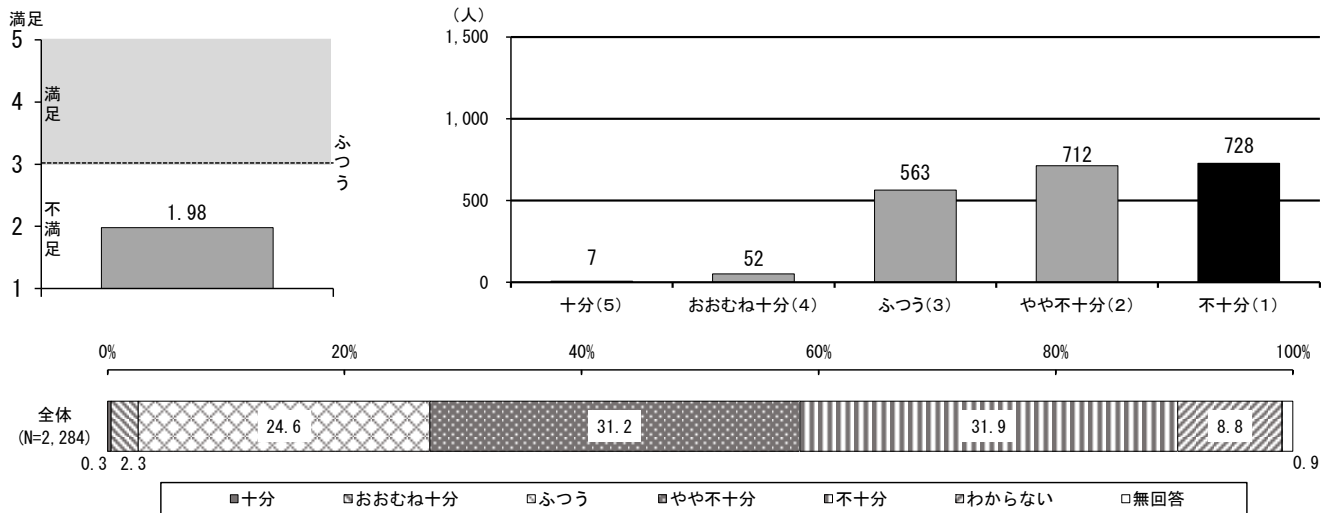
オ 魅力的な働く場の確保

問 1-2-5 「働く場の確保」や「労働環境の整備」など、魅力的な職場づくりが行われている。

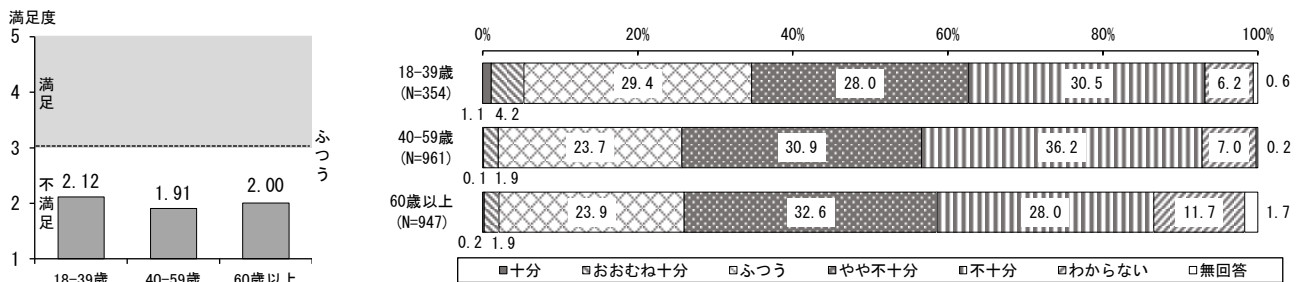
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は1.98で、「ふつう」の3より1.02低かった。回答は「不十分」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は2.6%、「ふつう」は24.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は63.1%であった。また、不満を感じていない人の割合は27.2%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.12で最も高く、不満を感じていない人の割合は34.7%であった。一方、「40～59歳」の満足度は1.91で最も低く、不満を感じていない人の割合は25.7%であった。



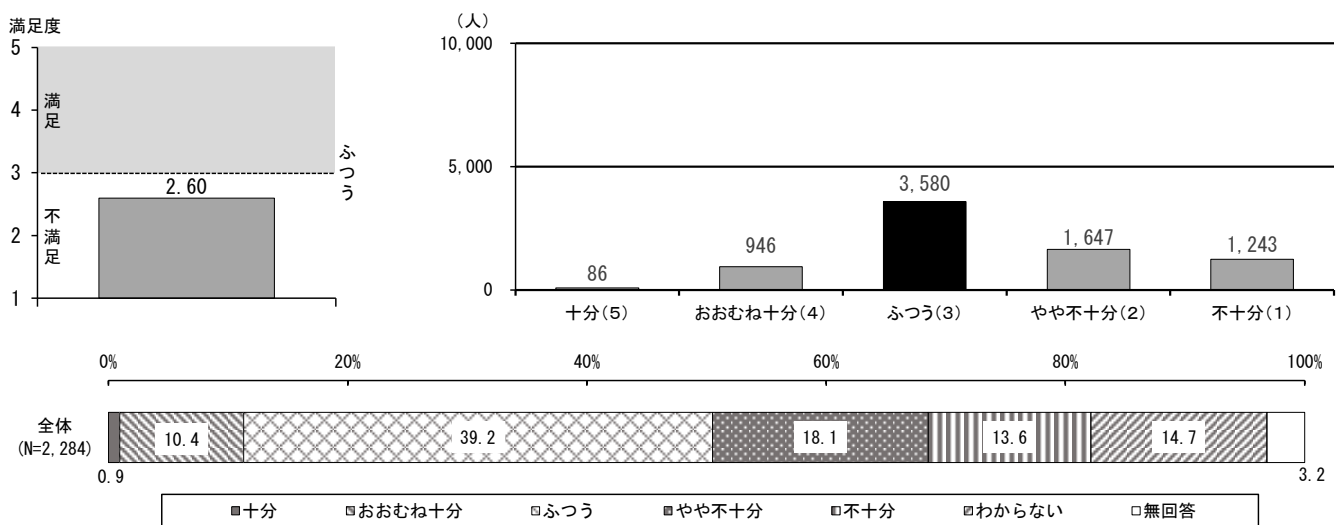
2 (参考) 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度の平均値

「1 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度」について、戦略ごとに平均値を計算した結果は次のとおりである。

戦略1 産業・雇用戦略 (問1-1～問1-4)

5段階評価の満足度の平均値は2.60で、「ふつう」の3より0.40低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

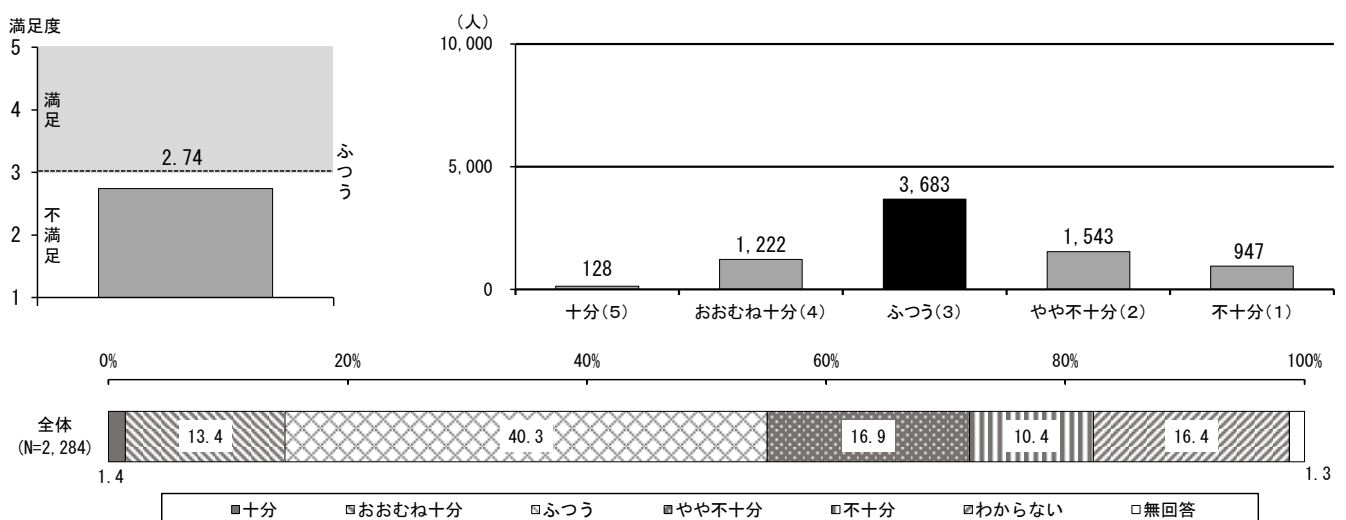
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は11.3%、「ふつう」は39.2%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は31.7%であった。不満を感じていない人の割合は50.5%であった。



戦略2 農林水産戦略 (問1-5～問1-8)

5段階評価の満足度の平均値は2.74で、「ふつう」の3より0.26低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

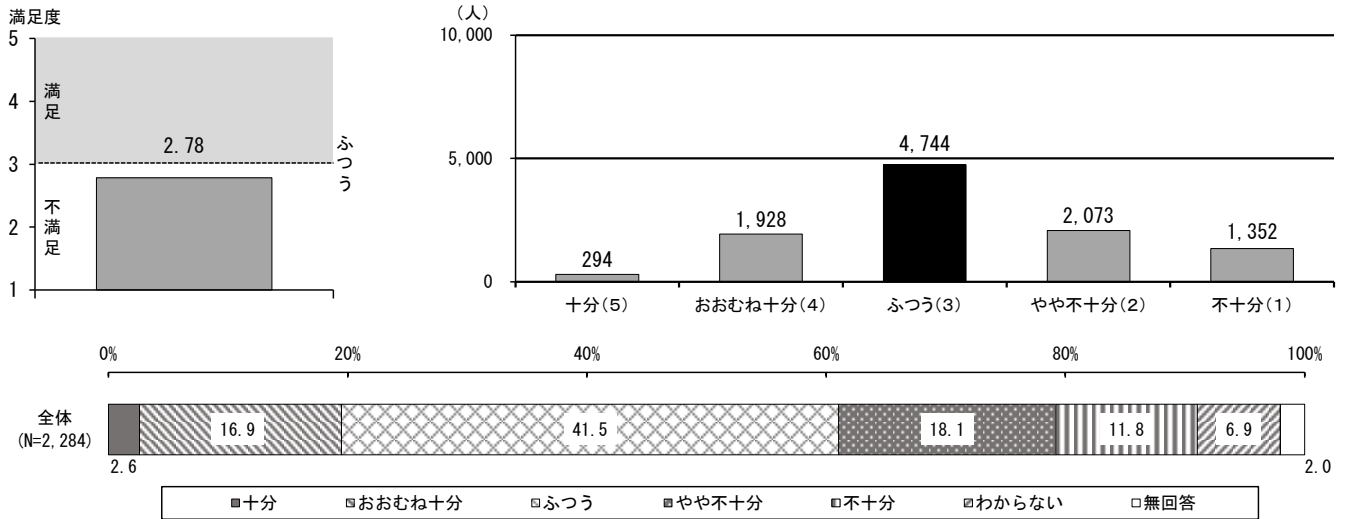
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は14.8%、「ふつう」は40.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は27.3%であった。また、不満を感じていない人の割合は55.1%であった。



戦略3 観光・交流戦略（問1-9～問1-13）

5段階評価の満足度の平均値は2.78で、「ふつう」の3より0.22低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

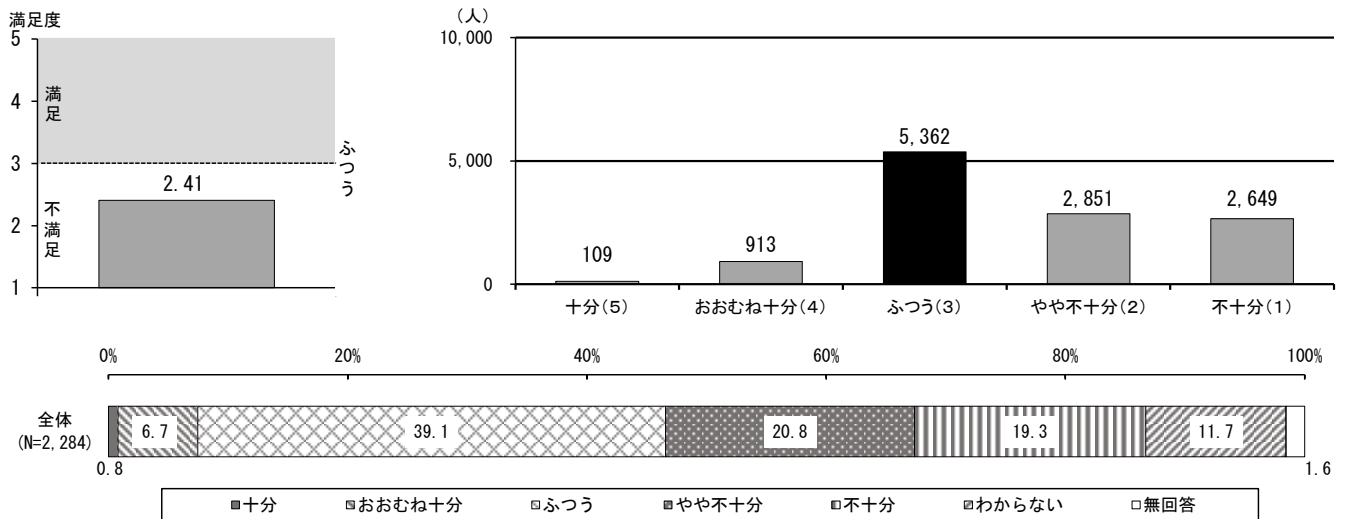
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は19.5%、「ふつう」は41.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は29.9%であった。また、不満を感じていない人の割合は61.0%であった。



戦略4 未来創造・地域社会戦略（問1-14～問1-19）

5段階評価の満足度の平均値は2.41で、「ふつう」の3より0.59低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

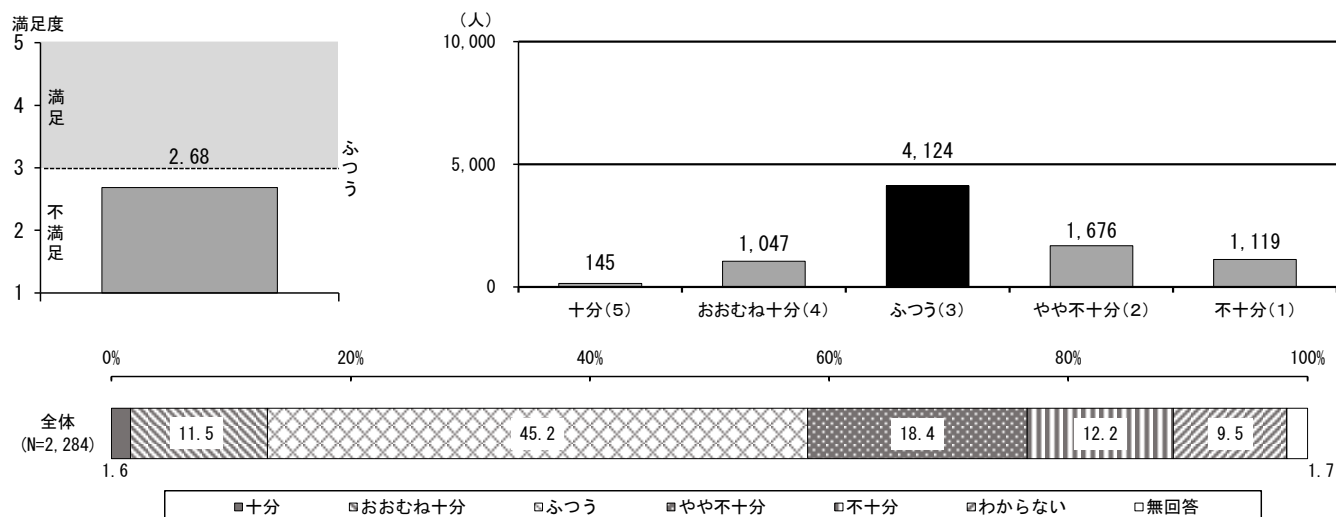
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は7.5%、「ふつう」は39.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は40.1%であった。また、不満を感じていない人の割合は46.6%であった。



戦略5 健康・医療・福祉戦略（問1-20～問1-23）

5段階評価の満足度の平均値は2.68で、「ふつう」の3より0.32低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

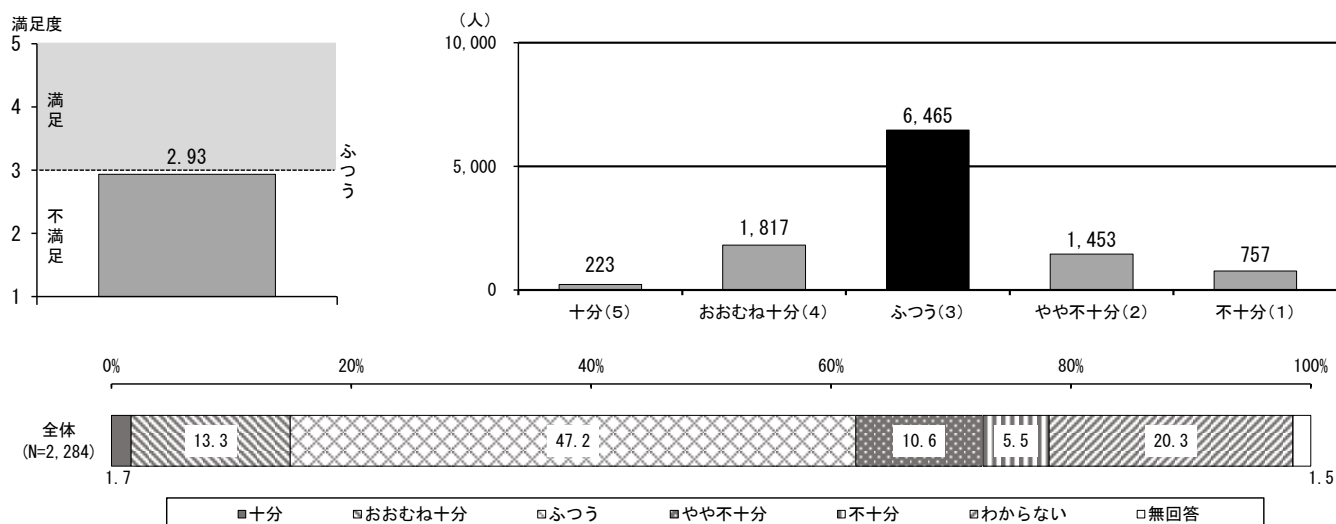
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は13.1%、「ふつう」は45.2%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は30.6%であった。また、不満を感じていない人の割合は58.3%であった。



戦略6 教育・人づくり戦略（問1-24～問1-29）

5段階評価の満足度の平均値は2.93で、「ふつう」の3より0.07低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

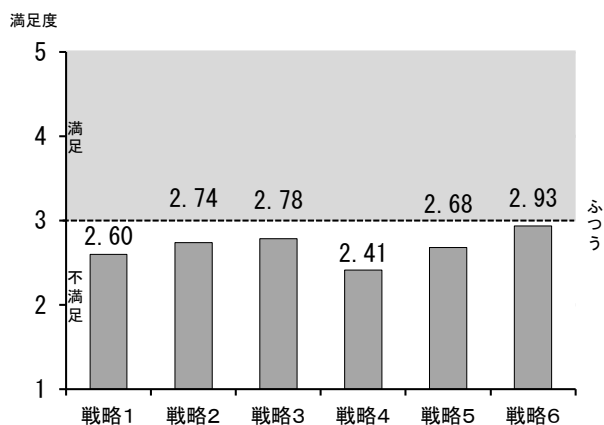
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は15.0%、「ふつう」は47.2%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は16.1%であった。また、不満を感じていない人の割合は62.2%であった。



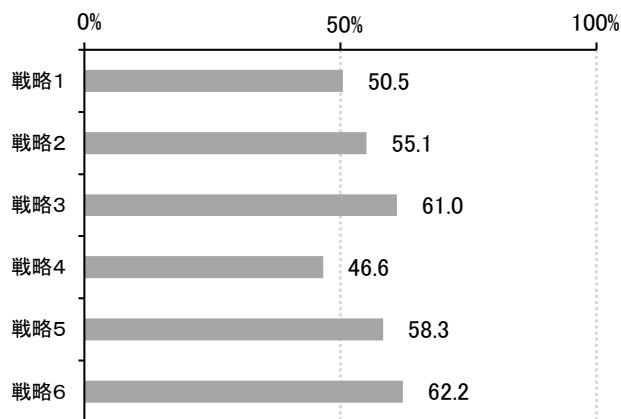
満足度の平均値が最も高かったのは、「戦略6 教育・人づくり戦略」の2.93（不満を感じていない人の割合は62.2%）、次いで「戦略3 観光・交流戦略」の2.78（同61.0%）であった。

一方、満足度の平均値が最も低かったのは、「戦略4 未来創造・地域社会戦略」の2.41（同46.6%）であった。

〔満足度の平均〕



〔不満を感じていない人の割合の平均値〕



※「満足度の平均」「不満を感じていない人の割合の平均値」とも、戦略を構成する施策の回答結果の平均値であり、各戦略そのものの満足度、割合ではない。

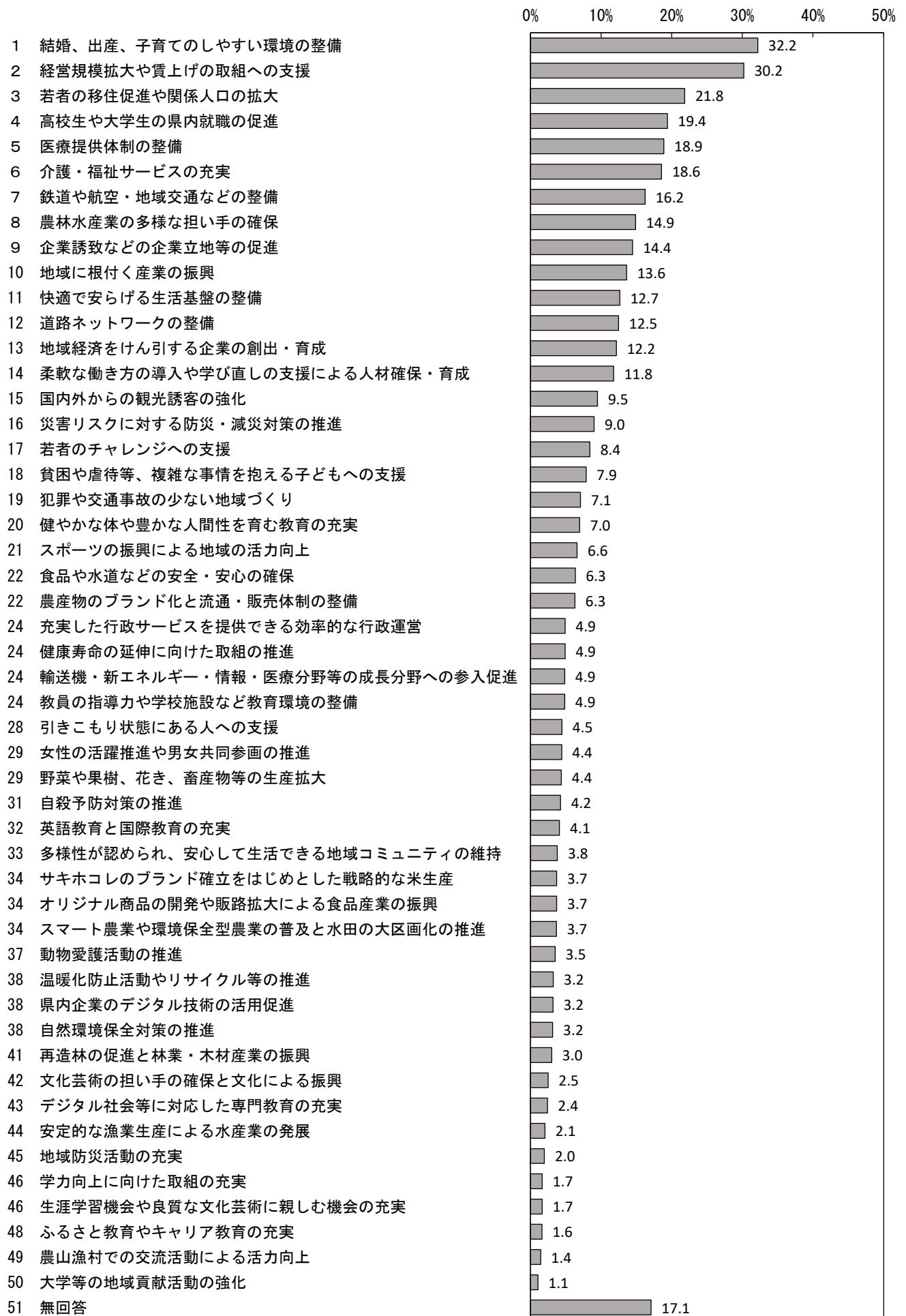
第2章 県政の重要課題について

重要課題として県に力を入れてほしいこと（問2）

今後の県政を推進していく上で、あなたが重要課題として県に力を入れてほしいことは何ですか。
5つまで選択して番号を記入してください。

【全体】

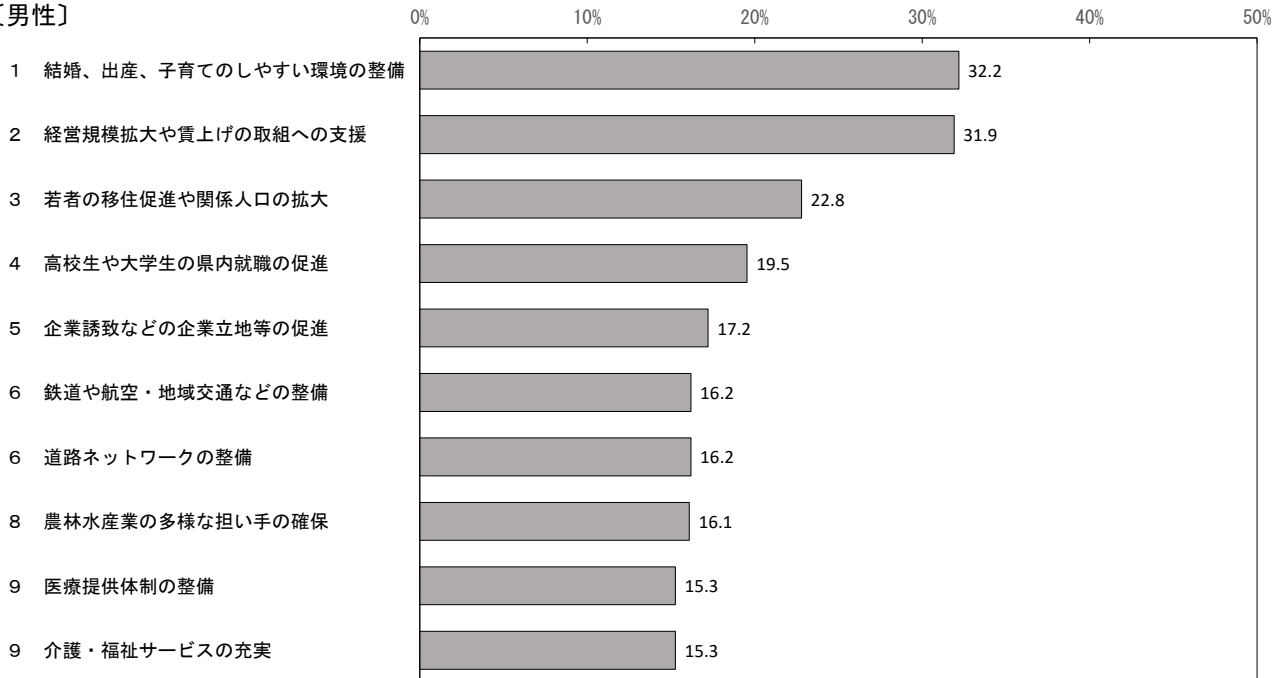
「結婚、出産、子育てのしやすい環境の整備」の割合が32.2%と最も高く、これに「経営規模拡大や賃上げの取組への支援」の30.2%、「若者の移住促進や関係人口の拡大」の21.8%、「高校生や大学生の県内就職の促進」の19.4%、「医療提供体制の整備」の18.9%が続いた。



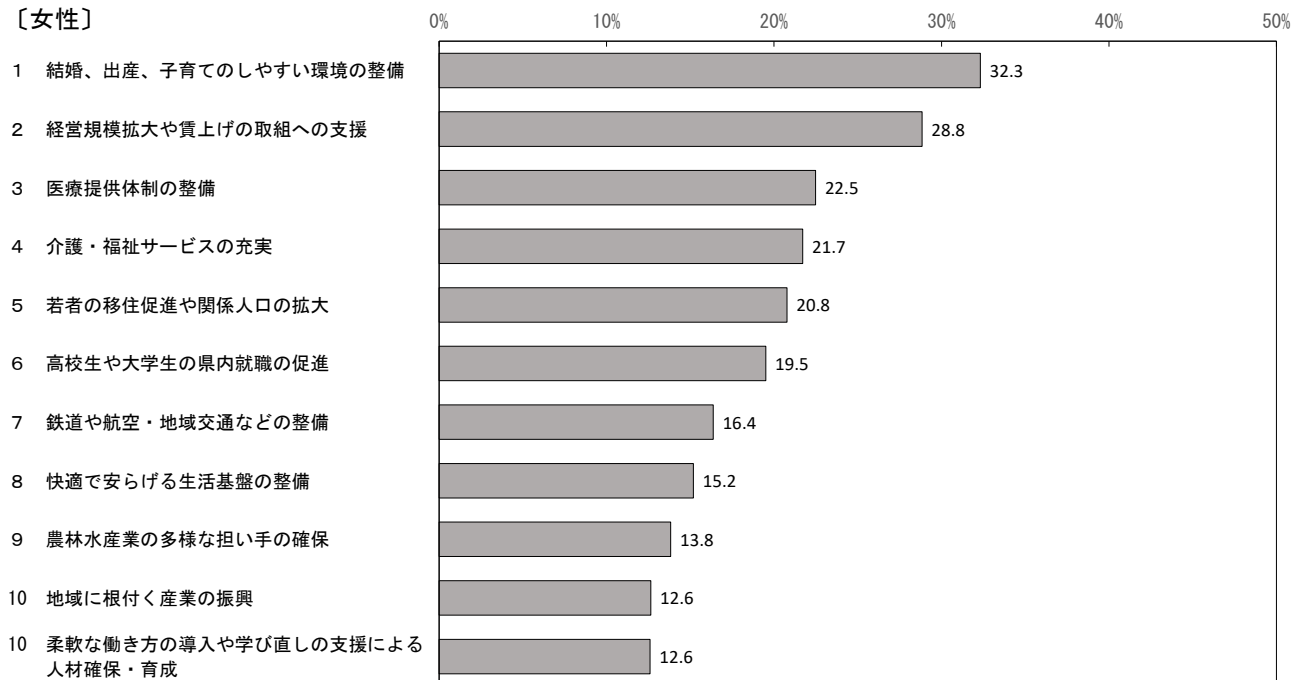
【性別】

上位 10 項目のうち 8 項目は男女で共通していた。男女で異なる項目として、男性は「企業誘致などの企業立地等の促進」(男性 5 位)、「道路ネットワークの整備」(男性 6 位)、女性は「快適で安らげる生活基盤の整備」(女性 8 位)、「地域に根付く産業の振興」(女性 10 位)、「柔軟な働き方の導入や学び直しの支援による人材確保・育成」(女性 10 位) が上位となった。

【男性】



【女性】

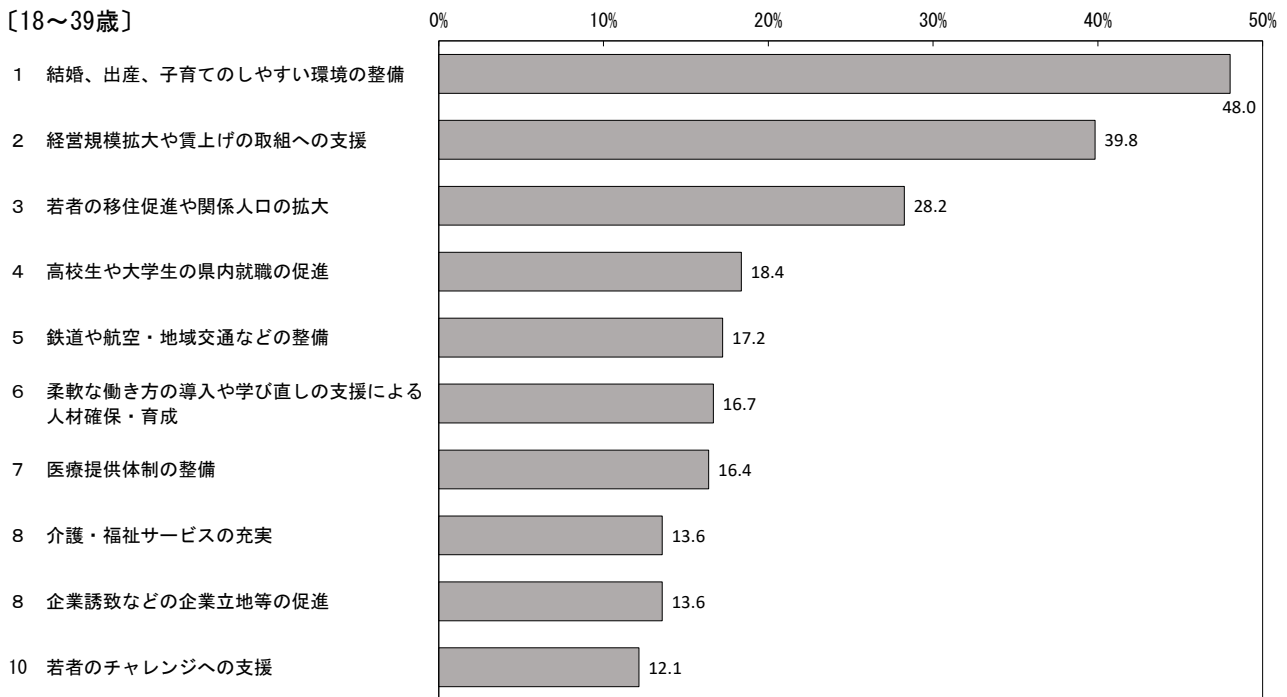


【年代別】

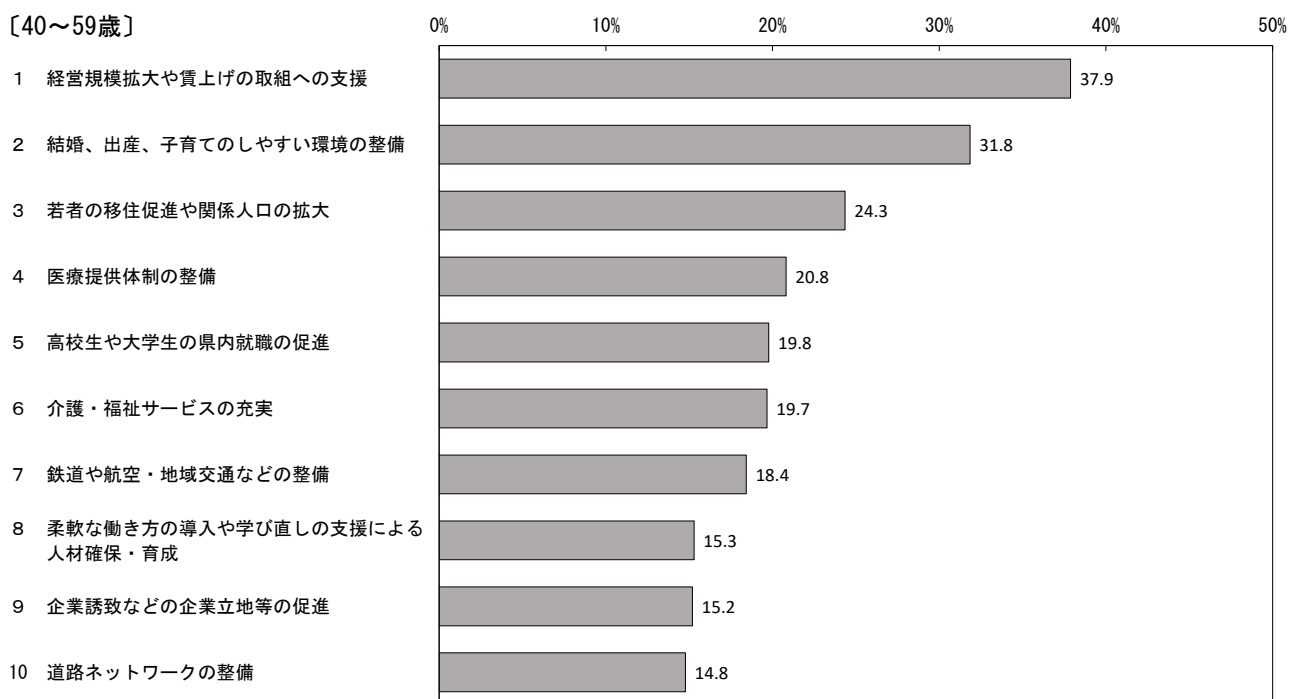
上位 10 項目のうち 8 項目は全年代で共通しており、うち「結婚、出産、子育てのしやすい環境の整備」と「経営規模拡大や賃上げの取組への支援」の 2 項目は全年代で上位 4 位までに入っている。また、「介護・福祉サービスの充実」の順位は、年代が上がるにつれて高くなっている一方、「若者の移住促進や関係人口の拡大」と「鉄道や航空・地域交通などの整備」の順位は、年代が低くなるにつれて高くなっている。

2 つの年代で共通している項目として、18～39 歳と 40～59 歳では「柔軟な働き方の導入や学び直しの支援による人材確保・育成」が上位となっている。このほかの項目では、18～39 歳では「若者のチャレンジへの支援」、40～59 歳では「道路ネットワークの整備」、60 歳以上では「農林水産業の多様な担い手の確保」と「地域に根付く産業の振興」が上位となっている。

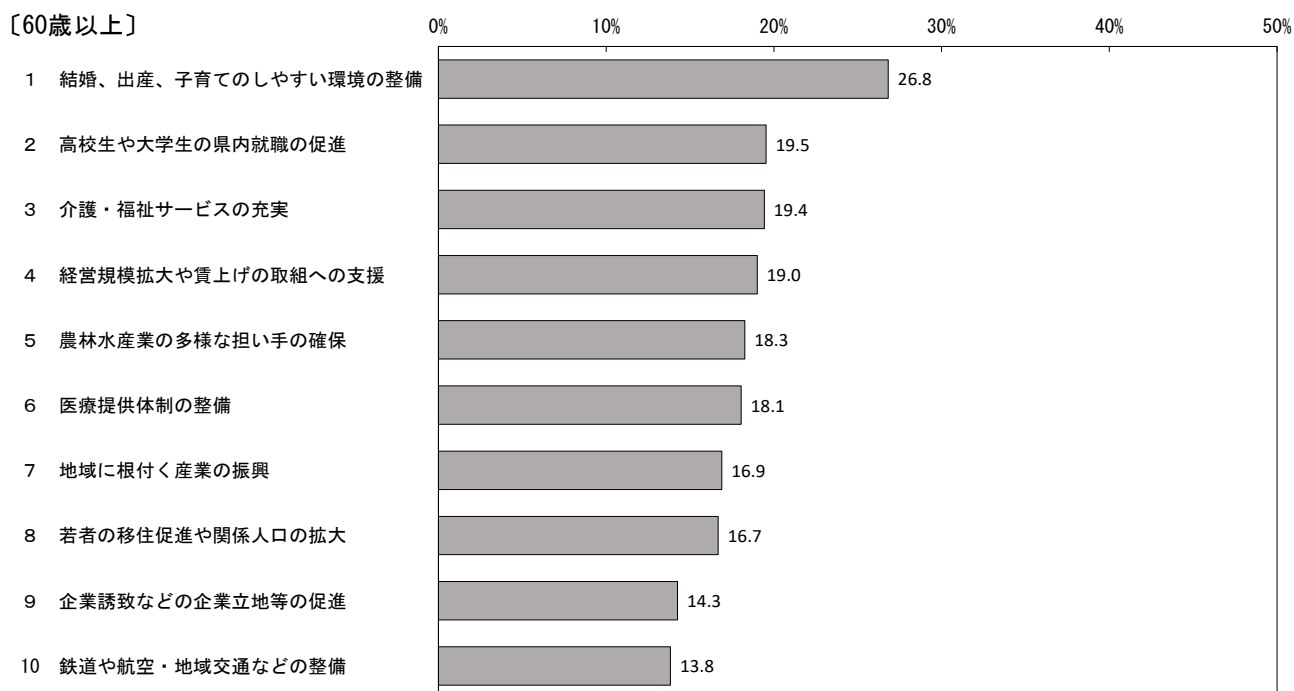
〔18～39歳〕



[40～59歳]



[60歳以上]



第3章 県の特定課題について

特定の課題に関する意識（問3）

1 県の広報活動について

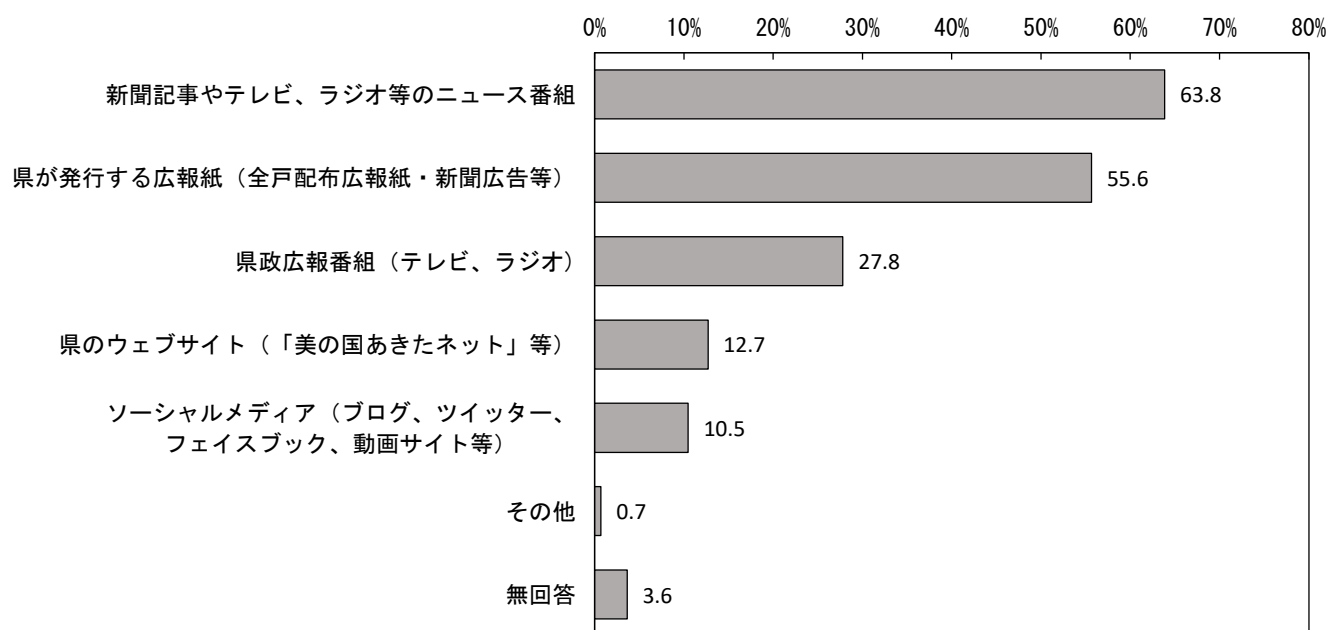
（1）県が発信する情報の取得方法

① あなたは、県の施策・事業等を何から知ることが多いですか（〇はいくつでも）。

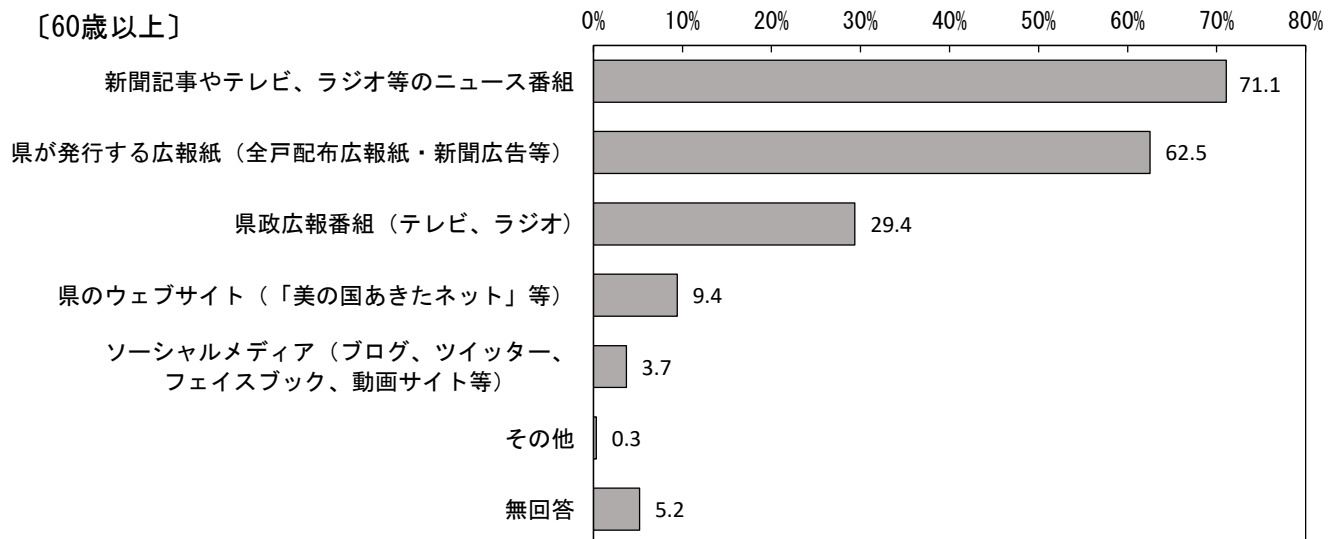
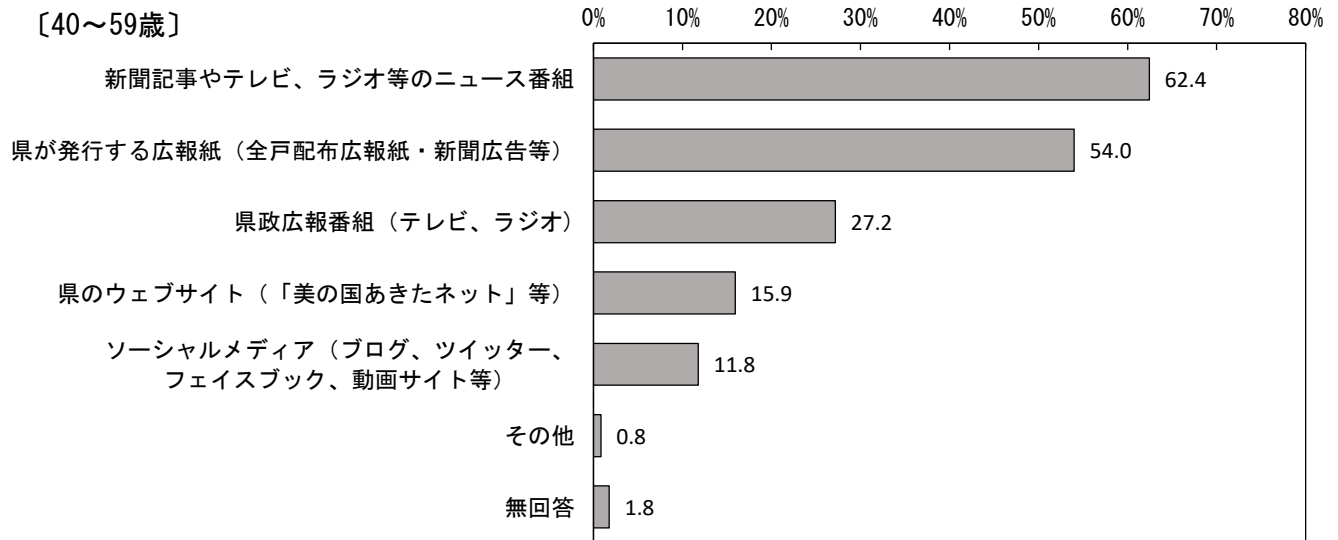
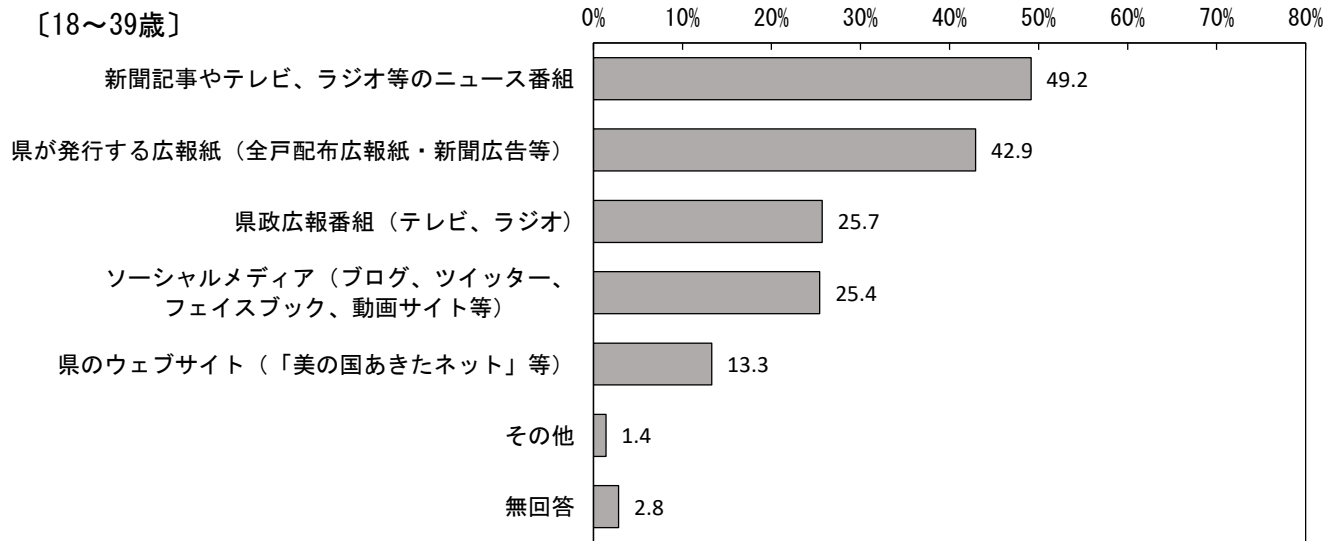
全体では、「新聞記事やテレビ、ラジオ等のニュース番組」の割合が63.8%と最も高く、次いで「県が発行する広報紙」の55.6%、「県政広報番組」の27.8%と続いている。

年代別では、全年代共通で「新聞記事やテレビ、ラジオ等のニュース番組」がトップとなり、これに「県が発行する広報紙」が続いている。また、「ソーシャルメディア」の割合は18～39歳で25.4%であった一方、60歳以上では3.7%と年代が上がるにつれて低い割合となっている。

【全体】



【年代別】



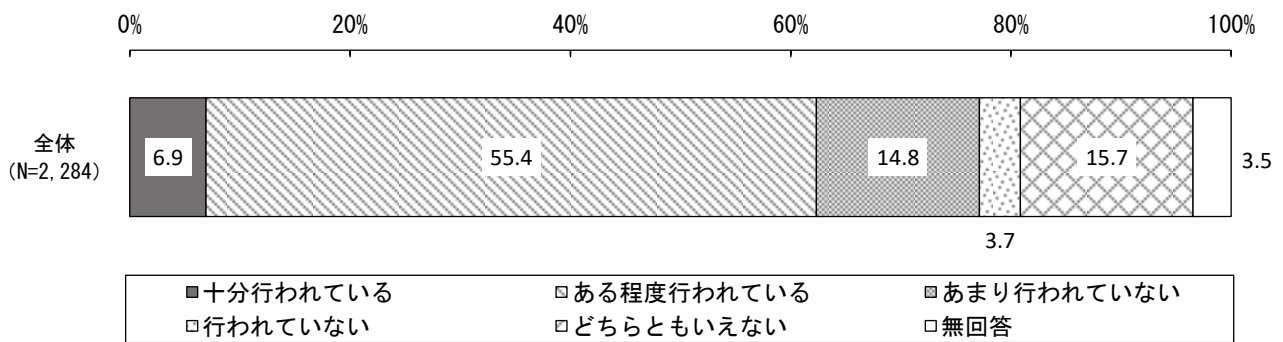
(2) 広報活動の現状評価

② あなたは、広報紙やウェブサイト、テレビ、ラジオ等による広報活動は十分に行われていると思いますか（〇は1つ）。

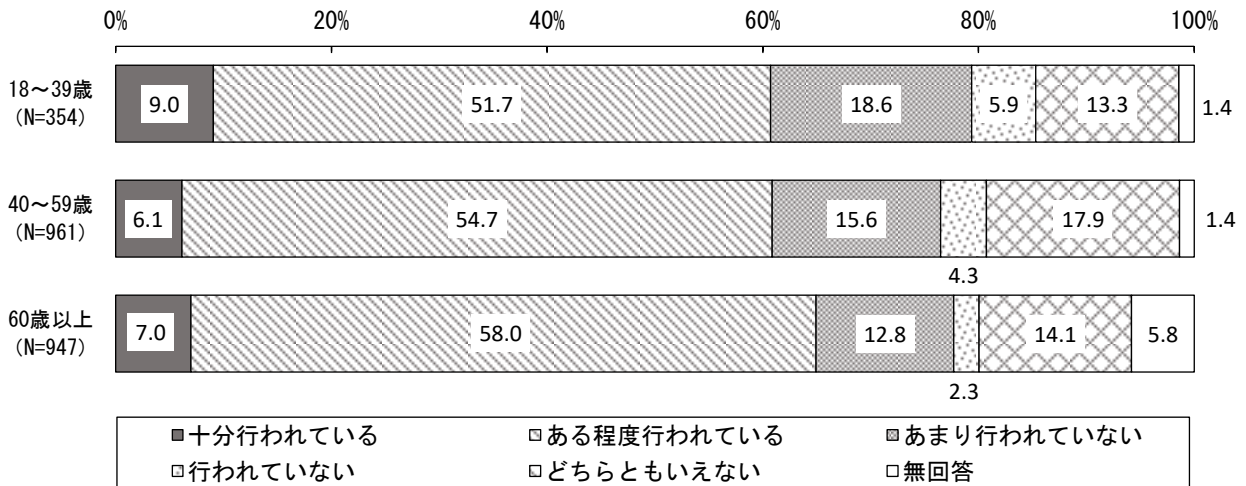
全体では、「十分行われている」と「ある程度行われている」を合わせた割合は 62.3%で、「あまり行われていない」と「行われていない」を合わせた割合の 18.5%よりも高い。

年代別では、「十分行われている」と「ある程度行われている」を合わせた割合は、60歳以上の 65.0%が最も高い。「あまり行われていない」と「行われていない」を合わせた割合は、18～39歳の 24.5%が最も高い。

【全体】



【年代別】



2 家庭での防災活動について

(1) 家庭での災害時に備えた備蓄状況

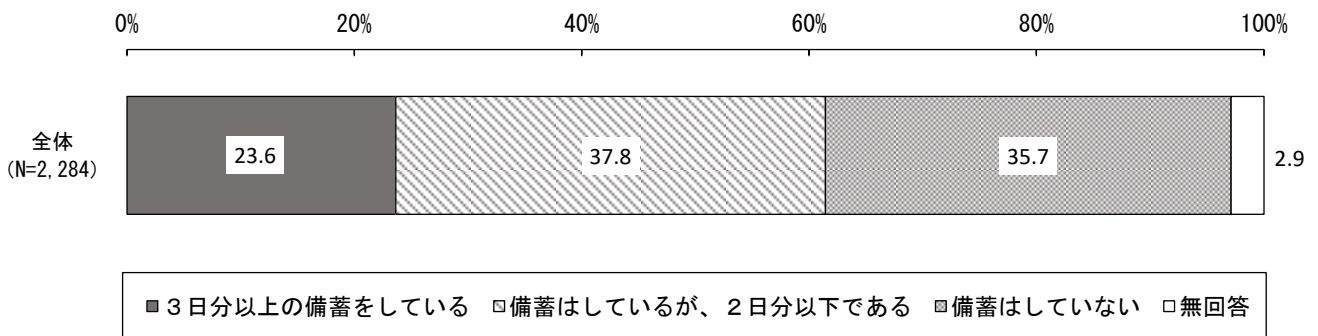
① あなたの家庭では、災害時の備えとして、水・食料等の備蓄（※）（家庭人数×3日分）をしていますか（○は1つ）。

※備蓄には、普段から家庭で使うために購入・保管している冷蔵庫内の食料品等や、災害時にも活用できるペットボトル飲料水やカップラーメン、缶詰なども含まれます。

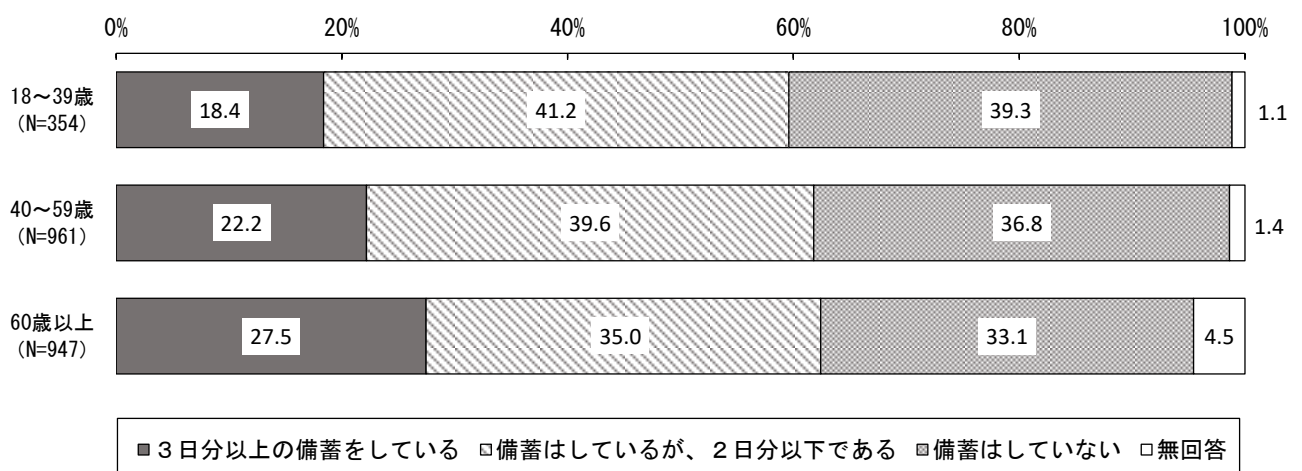
全体では、「3日以上の備蓄をしている」と「備蓄はしているが、2日分以下である」を合わせた割合は61.4%で、「備蓄はしていない」の割合35.7%よりも高い。

年代別では、「3日以上の備蓄をしている」と「備蓄はしているが、2日分以下である」を合わせた割合は、60歳以上が62.5%と最も高い。一方、「備蓄はしていない」の割合は、18～39歳が39.3%と最も高い。

【全体】



【年代別】



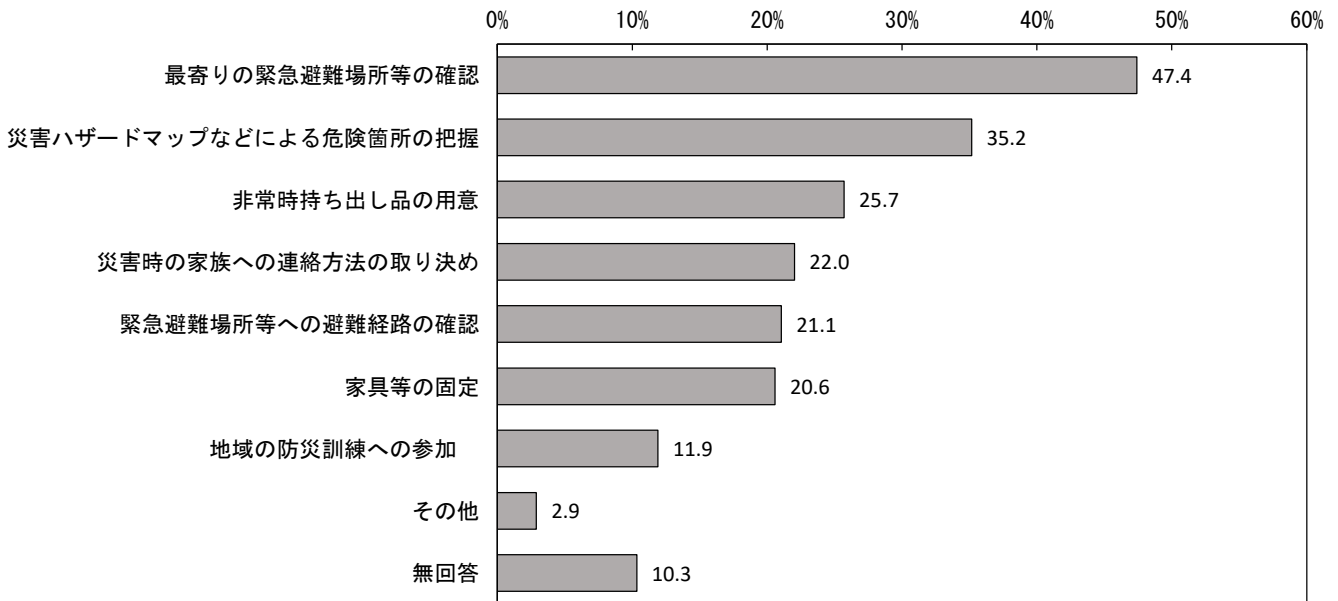
(2) 災害に備えた家庭での防災活動の状況

② あなたは、災害に備えて日頃どのような防災活動を行っていますか（〇はいくつでも）。

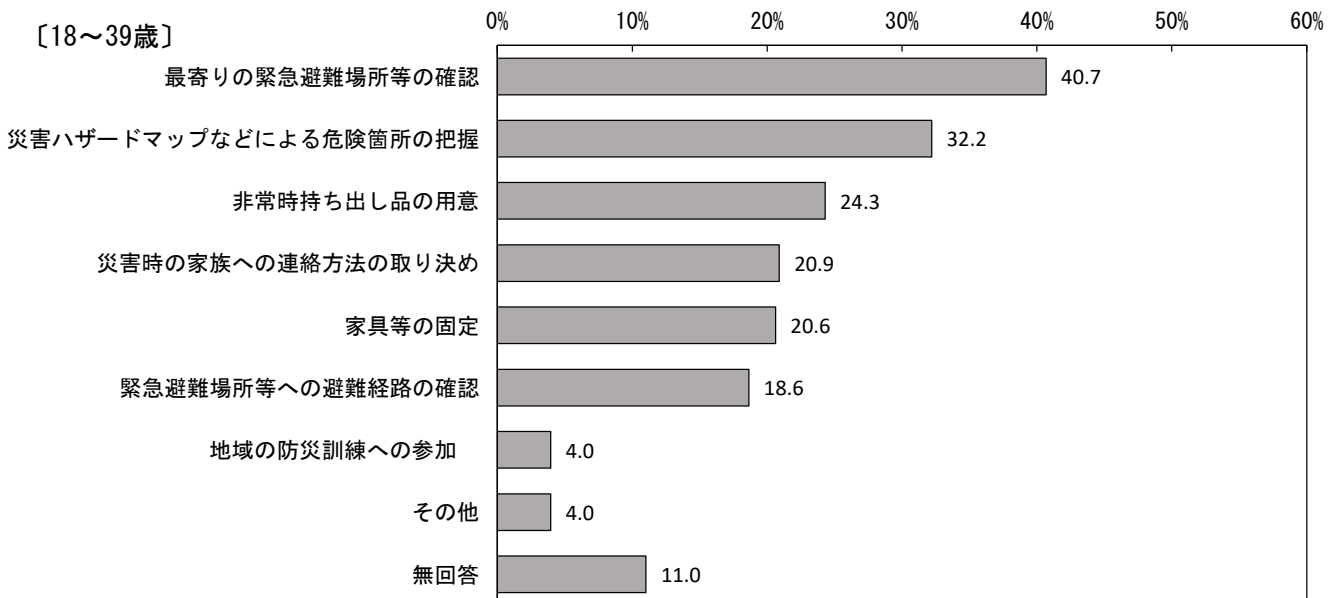
全体では、「最寄りの緊急避難場所等の確認」の割合が47.4%と最も高く、次いで「災害ハザードマップなどによる危険箇所の把握」の35.2%、「非常時持ち出し品の用意」の25.7%と続いている。

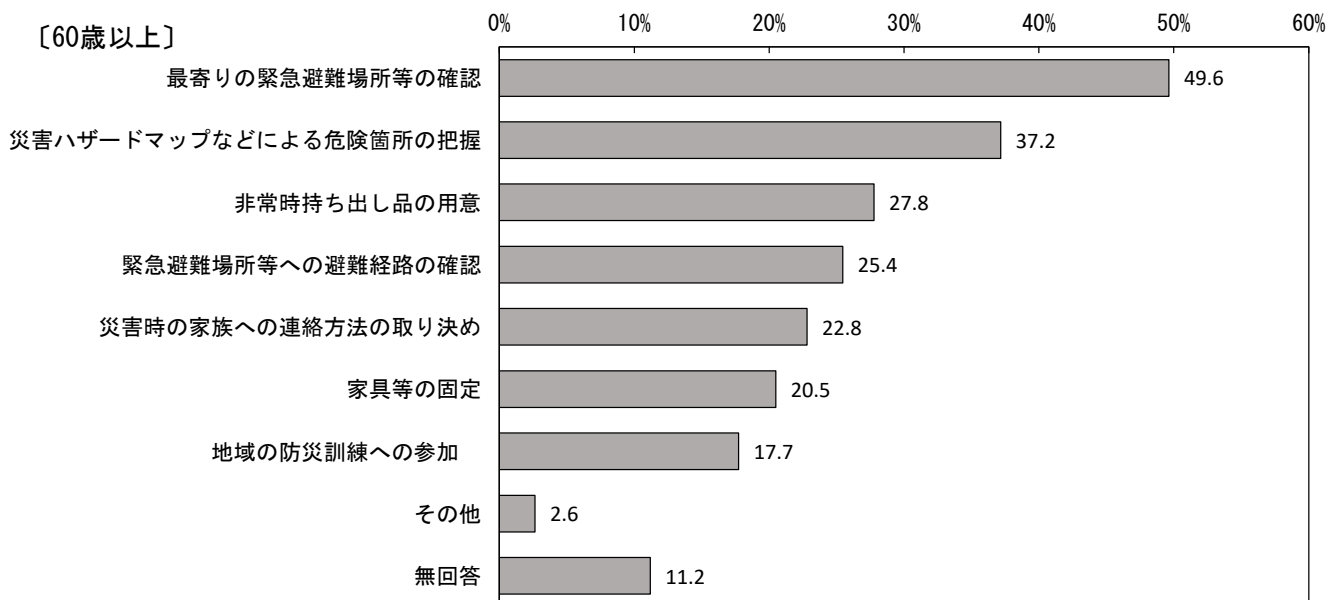
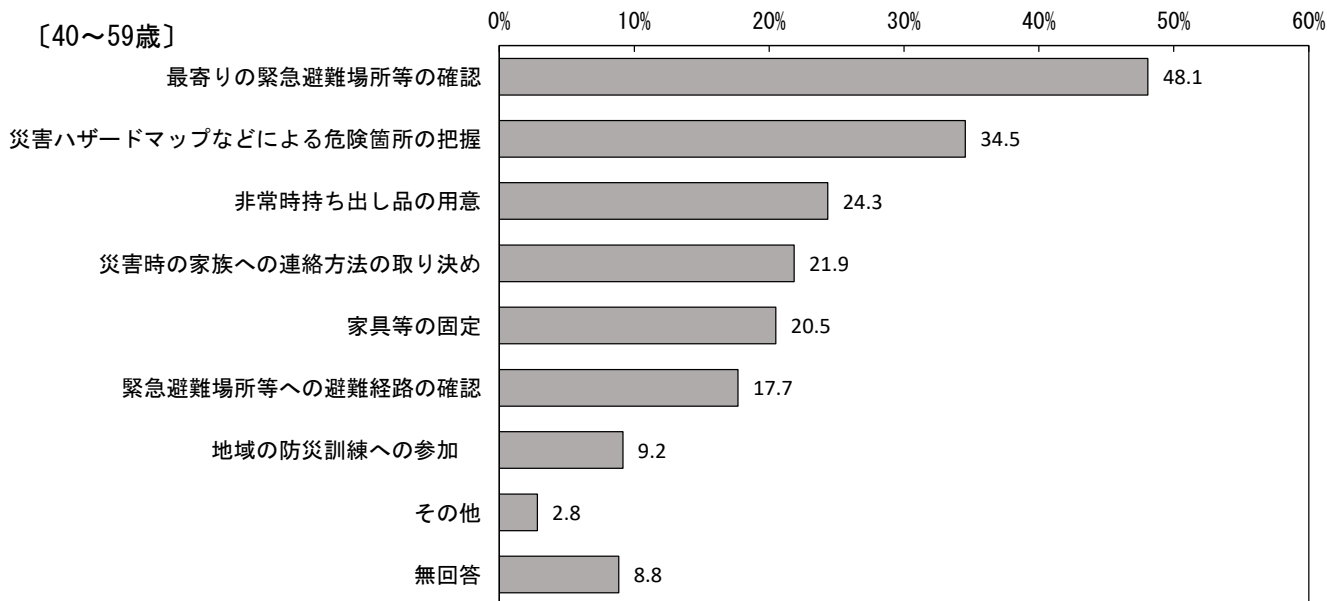
年代別では、全年代共通で「最寄りの緊急避難場所等の確認」がトップとなり、これに「災害ハザードマップなどによる危険箇所の把握」が続いており、いずれも年代が上がるにつれて、割合が高くなっている。

【全体】



【年代別】





3 読書活動について

(1) 読書への興味

① あなたは読書（※）が好きですか（○は1つ）。

※読書には、新聞及び雑誌（電子媒体の記事（注1）を含む。）のほか、子どもへの読み聞かせ、オーディオブック（注2）も含まれます。

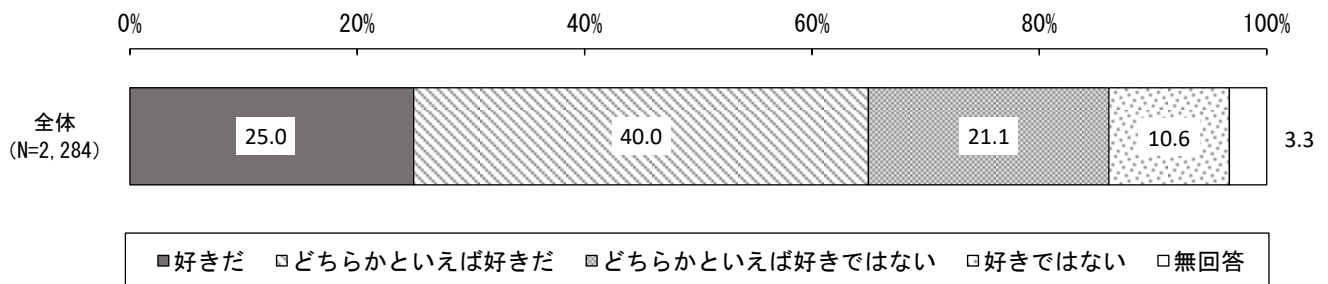
（注1）電子媒体の記事とは、新聞社や出版社等がインターネット上に掲載しているニュースや雑誌記事等のことです。

（注2）オーディオブックとは、書籍を朗読したものを録音したCDやカセット、インターネット上で提供されている音声コンテンツのことです。

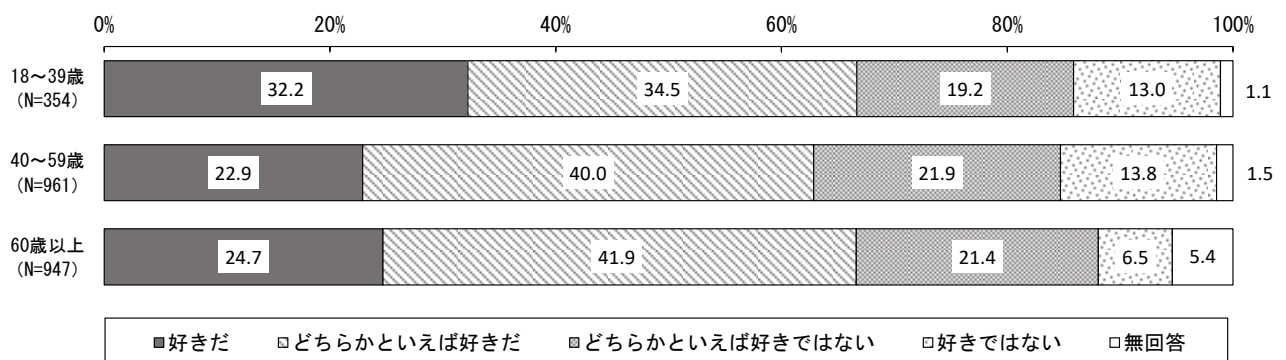
全体では、「好きだ」と「どちらかといえば好きだ」を合わせた割合（読書を好きと感じている人の割合）は65.0%で、「好きではない」と「どちらかといえば好きではない」を合わせた割合（読書を好きではないと感じている人の割合）の31.7%よりも高い。

年代別では、読書を好きと感じている人の割合は、18～39歳が66.7%と最も高い。一方、読書を好きではないと感じている人の割合は、40～59歳が35.7%と最も高い。

【全体】



【年代別】



(2) 1日の平均読書時間

② あなたは1日平均(※)どれくらい読書をしていますか(○は1つ)。

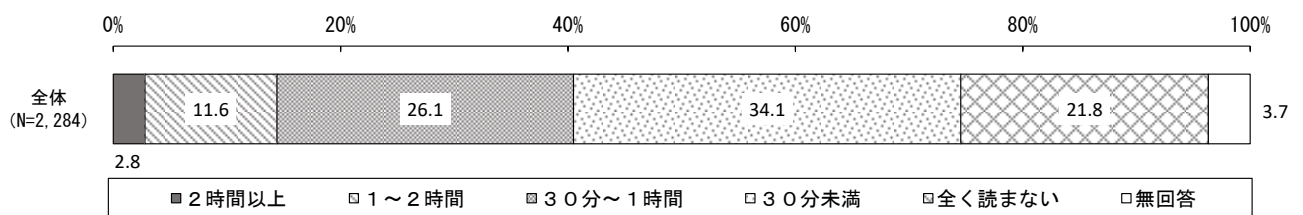
※子どもへの読み聞かせ時間も含まれます。

※休日まとめて読みの場合は、1日平均に置き換えてください。

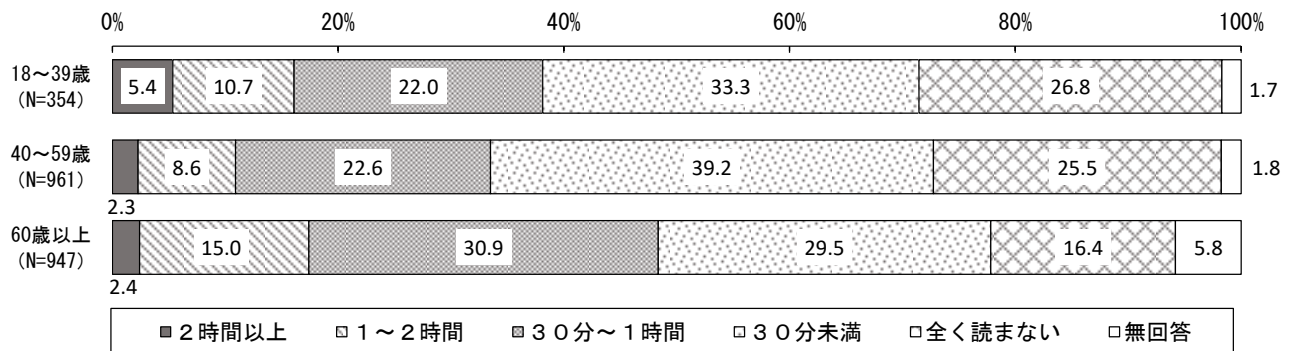
全体では、「2時間以上」、「1～2時間」及び「30分～1時間」を合わせた割合(30分以上読書をする人の割合)は40.5%となっている。一方、「全く読まない」の割合は、21.8%となっている。

年代別では、30分以上読書をする人の割合は、60歳以上が48.3%と最も高い。一方、「全く読まない」の割合は、18～39歳が26.8%と最も高い。

【全体】



【年代別】



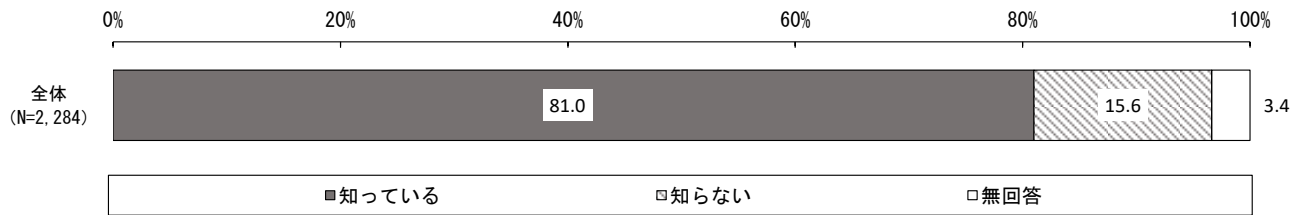
4 がん対策について

(1) 日本人のがん発症率に関する認知度

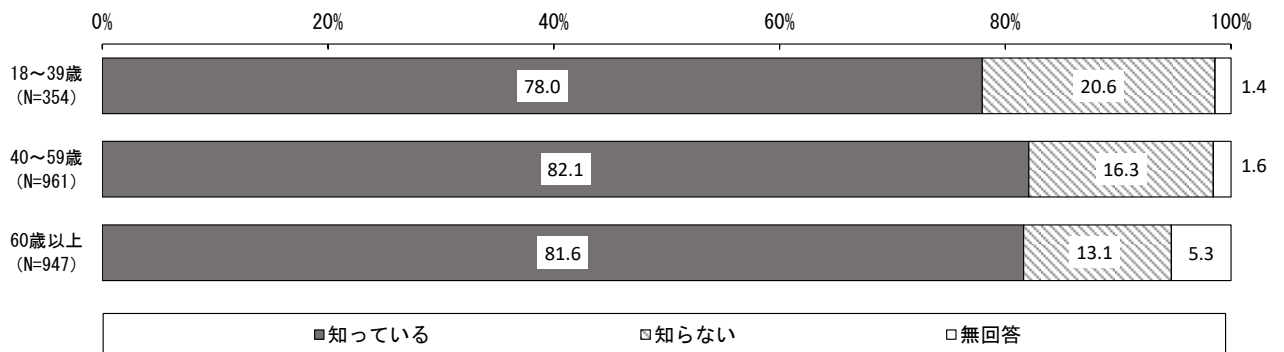
① あなたは、日本人の2人に1人はがんになることを知っていますか（どちらかに○）。

全体では、「知っている」の割合は81.0%で、「知らない」の割合15.6%を大きく上回っている。
年代別では、「知っている」の割合は、全年代で8割前後と高い割合である。

【全体】



【年代別】



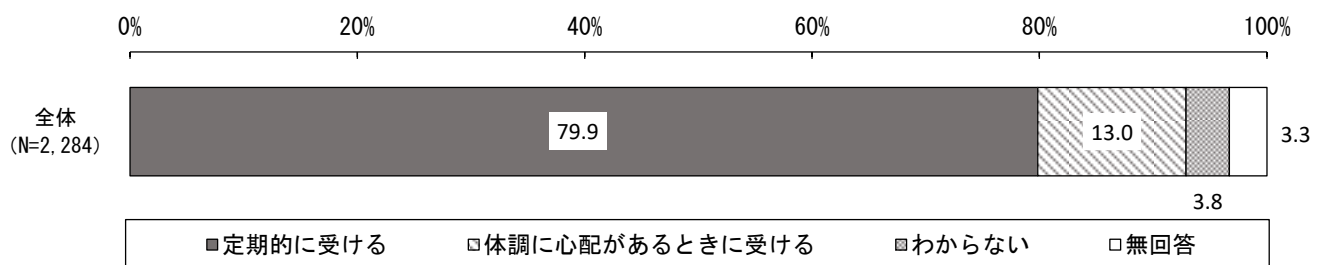
(2) がん検診の受診時期に対する考え方

② あなたは、がんを早期に発見するためにはがん検診をどのように受ければよいと思いますか（〇は1つ）。

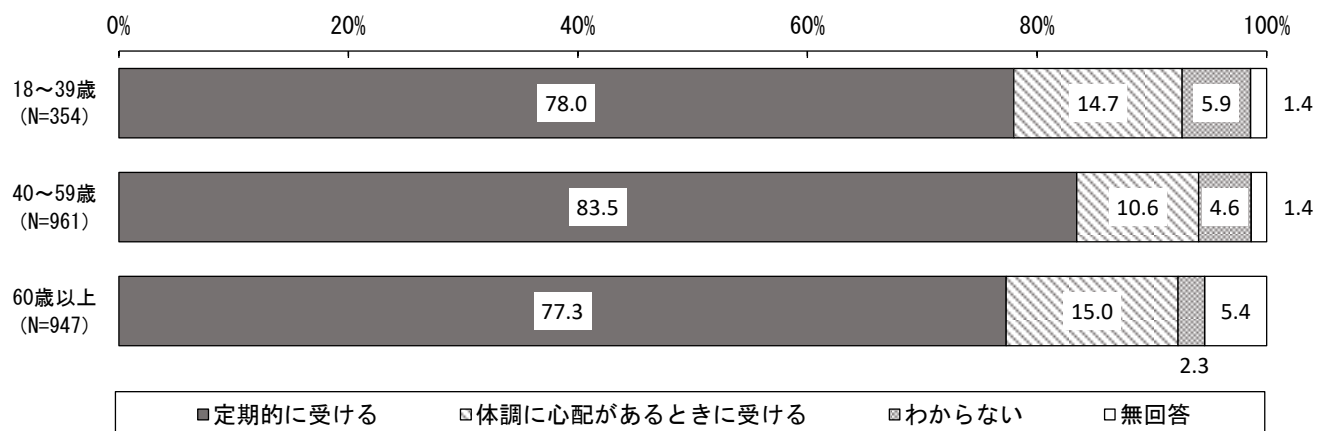
全体では、「定期的に受ける」の割合は 79.9%で、「体調に心配があるときに受ける」の割合は 13.0%となっている。

年代別では、「定期的に受ける」の割合は、40～59歳が 83.5%と最も高い。

【全体】



【年代別】



5 社会活動・地域活動について

社会活動・地域活動への取組の頻度

① あなたが、ここ1年間に仕事以外の何らかの「社会活動・地域活動」(※)に取り組んだ頻度で、もっとも当てはまるものはどれですか(○は1つ)。

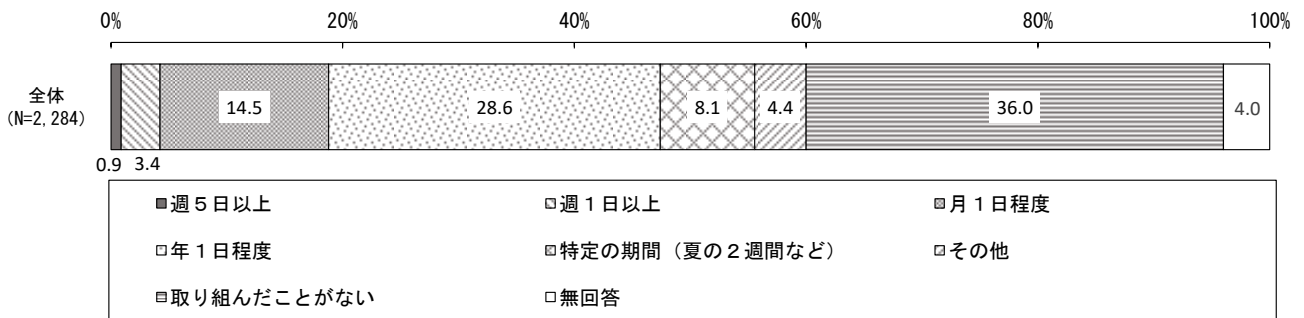
※「社会活動・地域活動」の具体例

地域の公園の花壇の手入れ、町内一斉清掃への参加、河川のごみ拾い、子育て支援、子ども会活動、まちづくりフェスティバル、祭り・伝統芸能の担い手、高齢者宅の除雪の手伝い 等

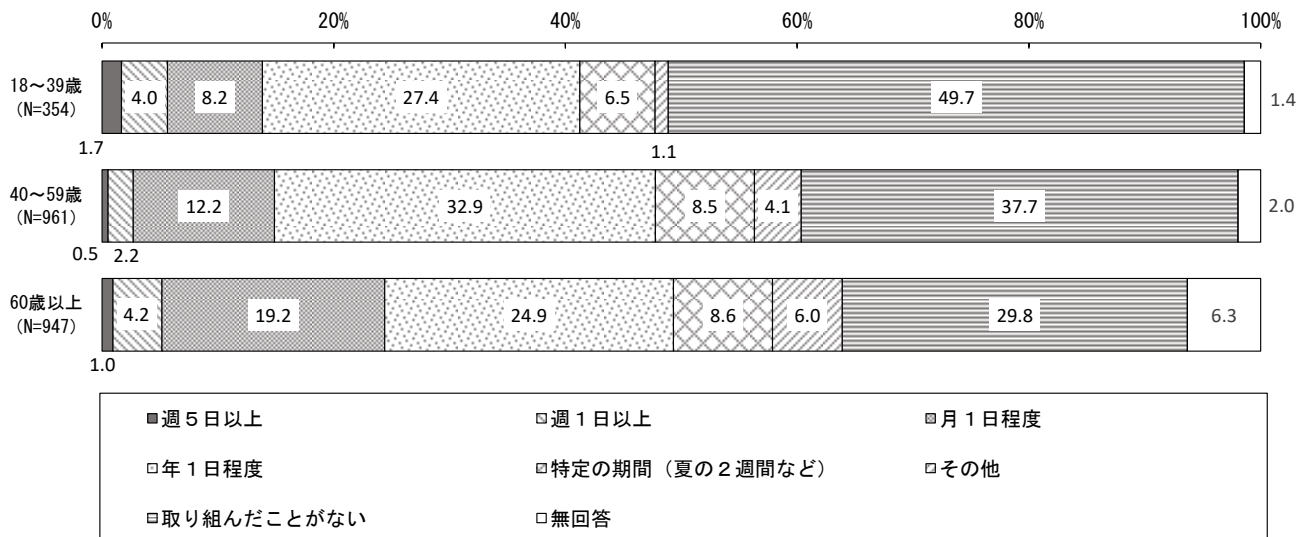
全体では、「取り組んだことがない」の割合が36.0%と最も高く、次いで、「年1日程度」が28.6%、「月1日程度」が14.5%で続いている。

年代別では、「取り組んだことがない」の割合は、18～39歳が49.7%と最も高く、年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

【全体】



【年代別】



6 文化芸術の鑑賞・活動について

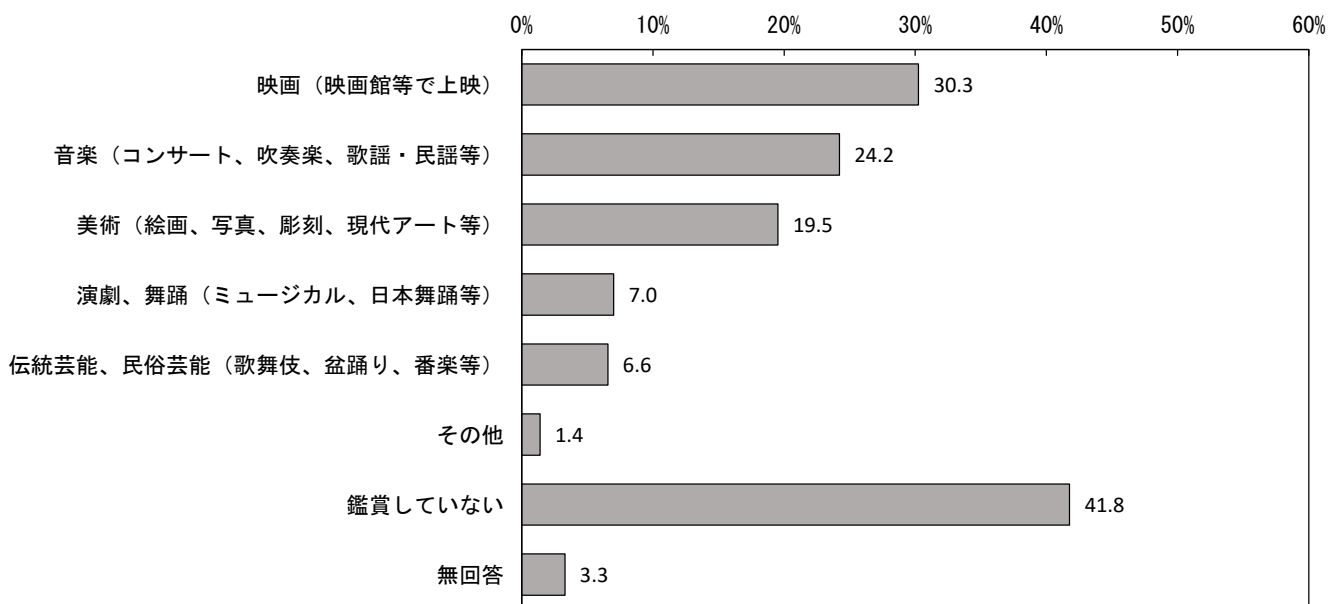
(1) 文化芸術の鑑賞の頻度

① あなたは、ここ1年間に文化施設等に出向いて直接鑑賞した文化芸術はありますか（〇はいくつでも）。

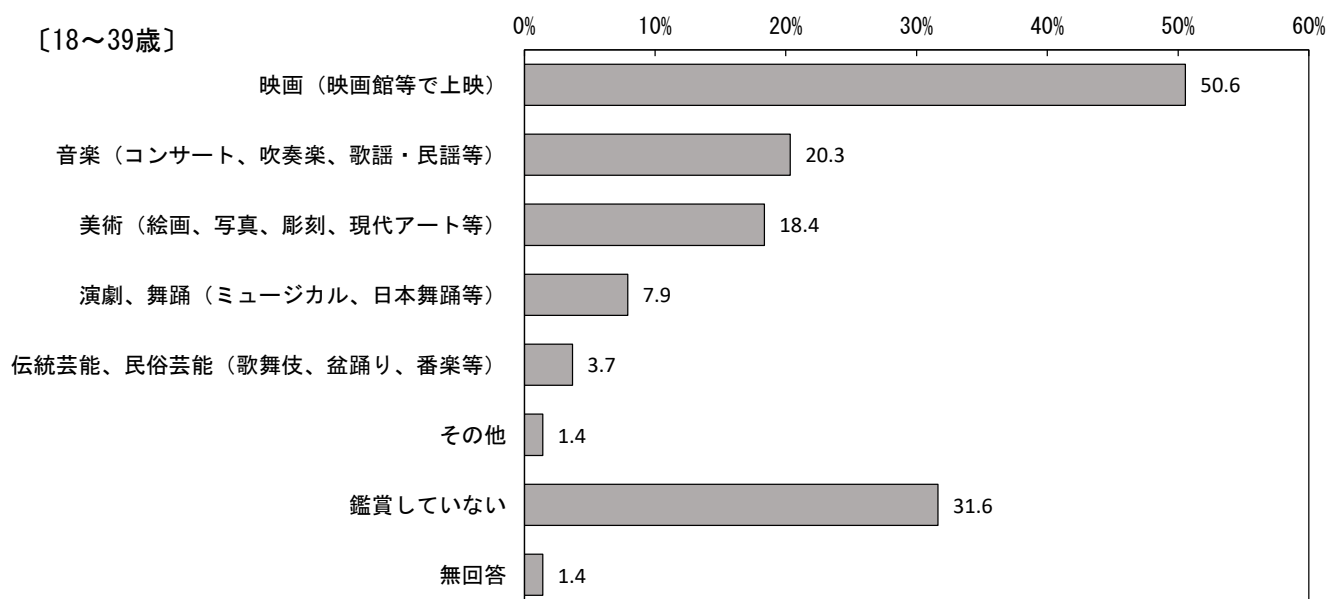
全体では、「鑑賞していない」の割合が41.8%と最も高く、次いで、「映画」が30.3%、「音楽」が24.2%で続いている。

年代別では、18～39歳では「映画」が50.6%で最も高く、40～59歳と60歳以上では「鑑賞していない」がいずれも4割で最も高くなっている。また、「映画」は、年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

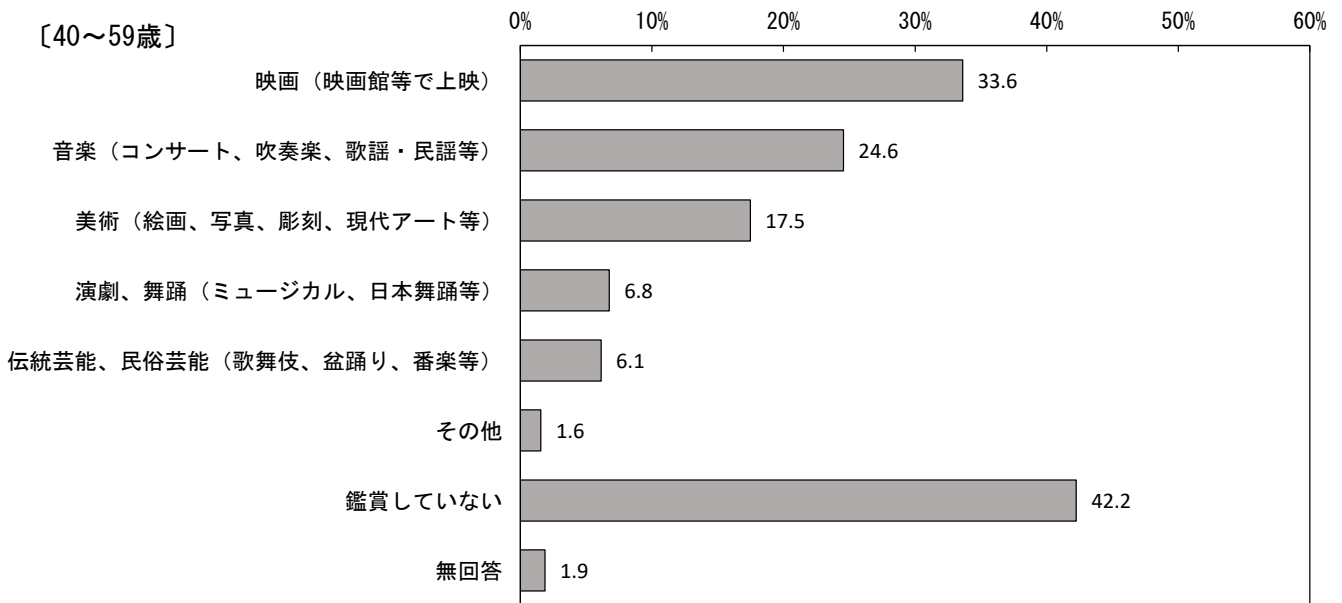
【全体】



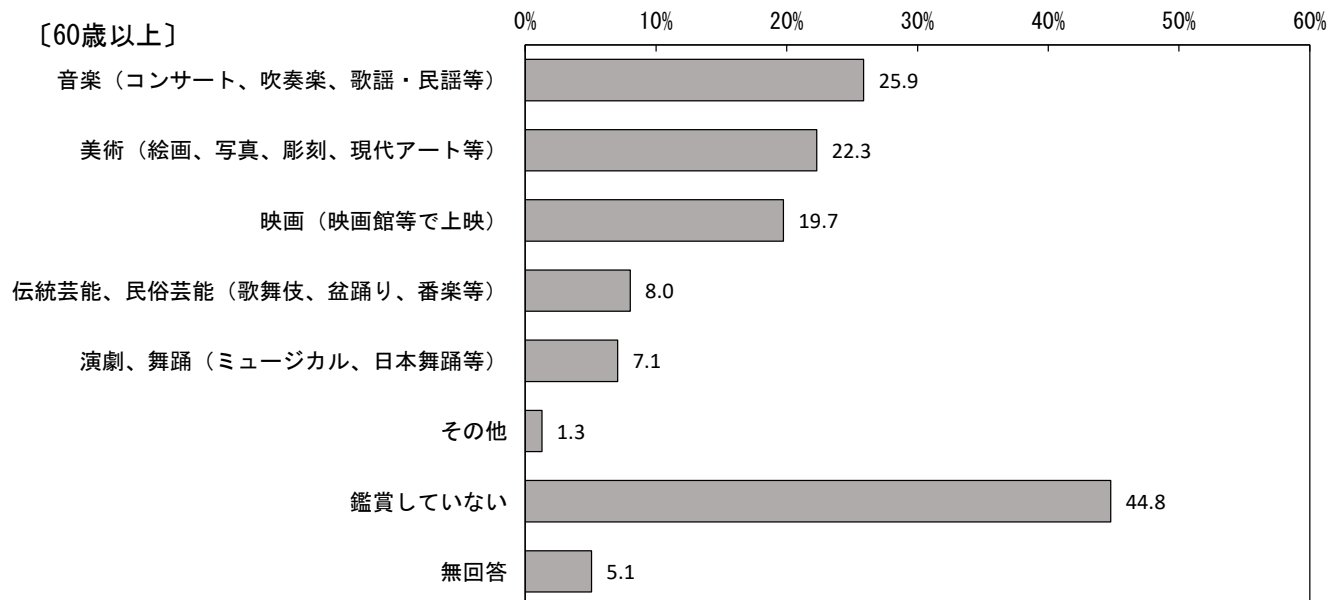
【年代別】



[40～59歳]



[60歳以上]



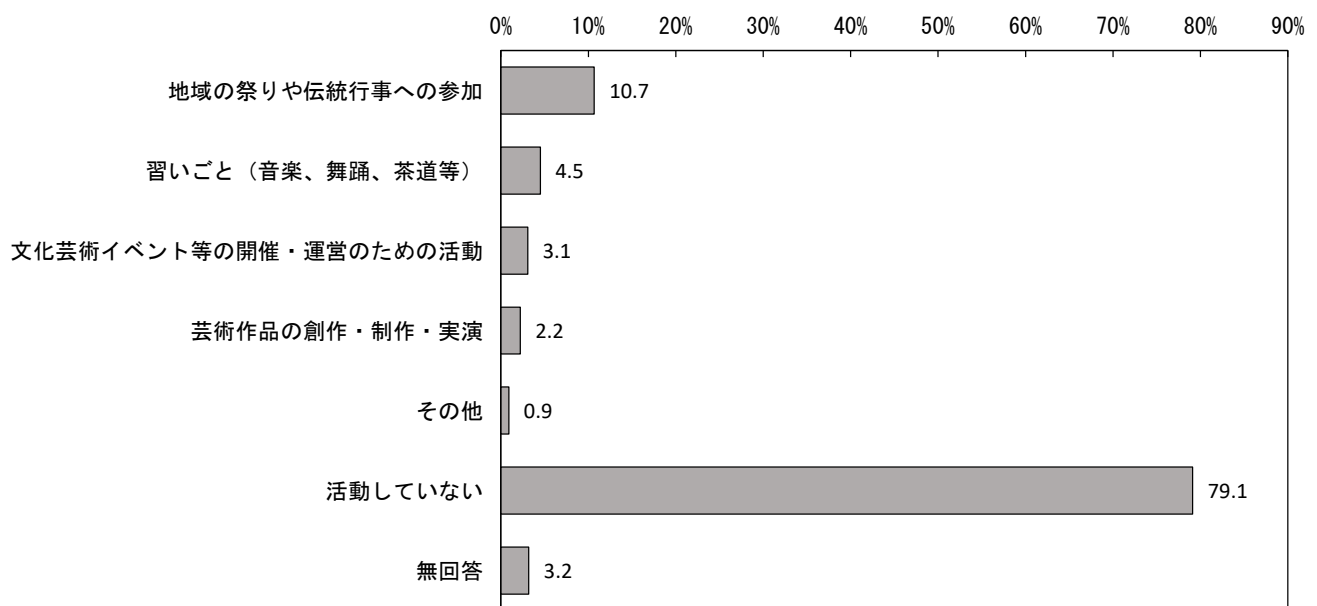
(2) 文化芸術の活動の頻度

② あなたは、ここ1年間に芸術作品の創作、文化イベントへの出演・参加、文化事業でのボランティア活動などを行いましたか（〇はいくつでも）。

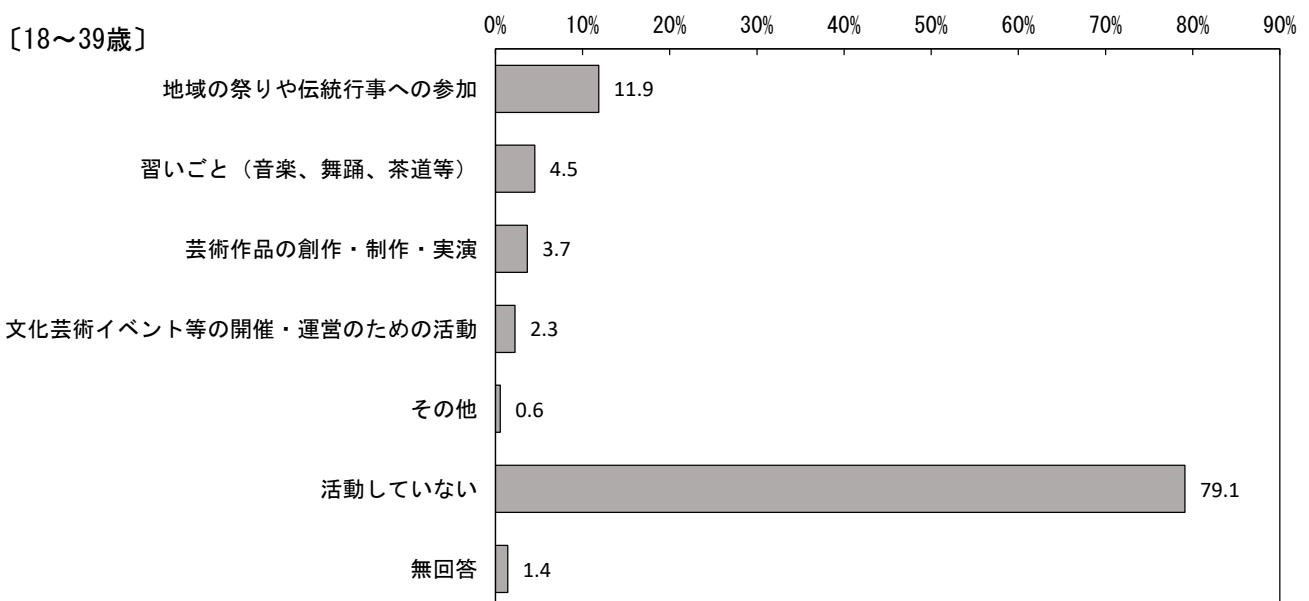
全体では、「活動していない」の割合が79.1%と最も高く、次いで、「地域の祭りや伝統行事への参加」が10.7%、「習いごと」が4.5%で続いている。

年代別では、全年代共通で「活動していない」の割合が最も高く、次いで、「地域の祭りや伝統行事への参加」、「習いごと」が続いている。

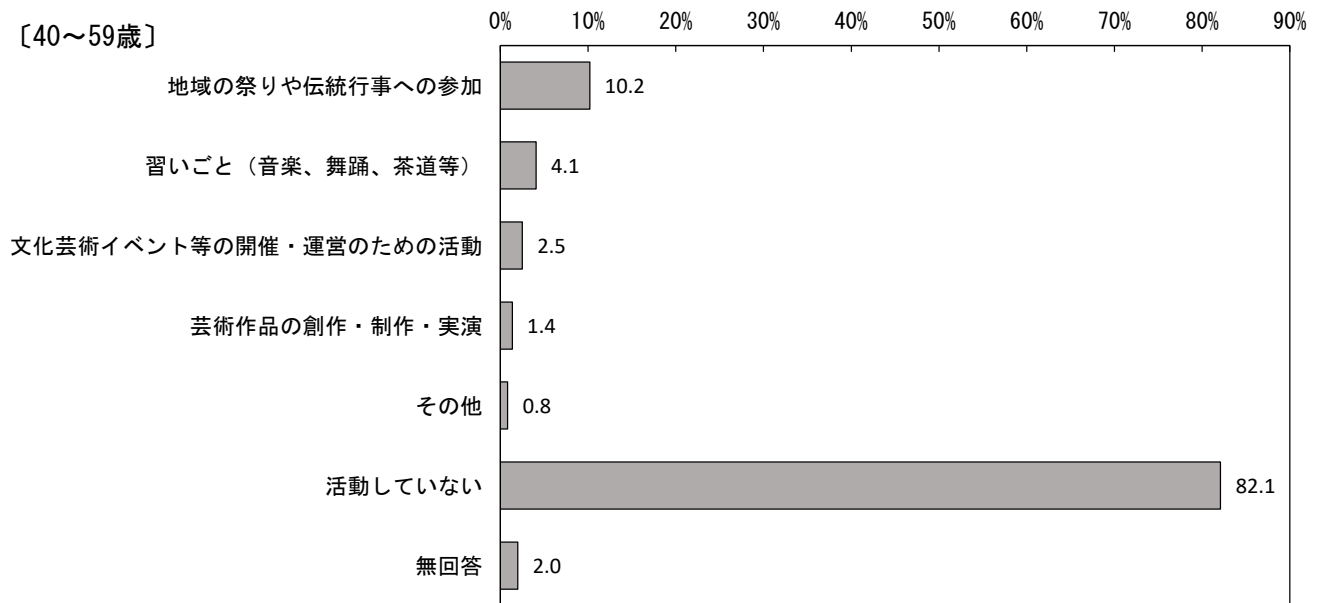
【全体】



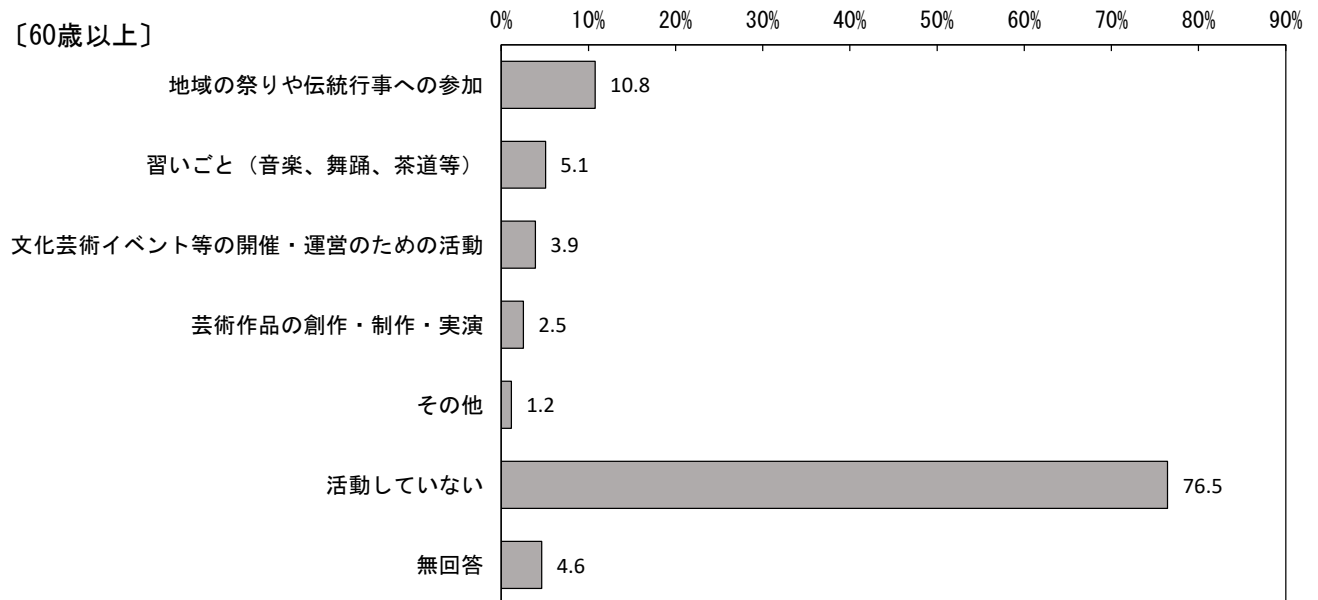
【年代別】



[40～59歳]



[60歳以上]



7 自転車の安全で適正な利用について

自転車損害賠償責任保険等への加入状況

① 自転車を利用している人にお聞きします。あなたは「自転車損害賠償責任保険等（※）」に加入していますか（○は1つ）。

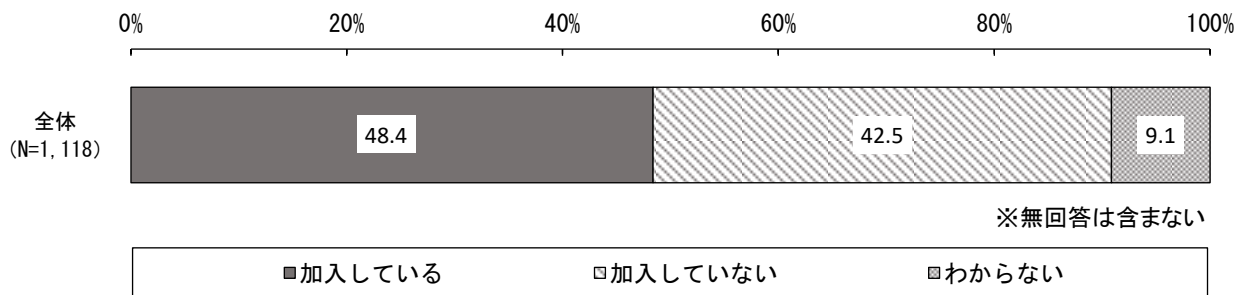
※自転車を運転中の事故により、他人にケガを負わせてしまった場合等に備える保険。

※自転車保険単独のもの、自動車保険・火災保険・傷害保険の特約として付いている個人賠償責任保険、共済、職場の団体保険、点検・整備を受けた自転車に貼られる「TSマーク」に付帯した保険等自転車を運転中の事故により、他人にケガを負わせてしまった場合に備える保険。

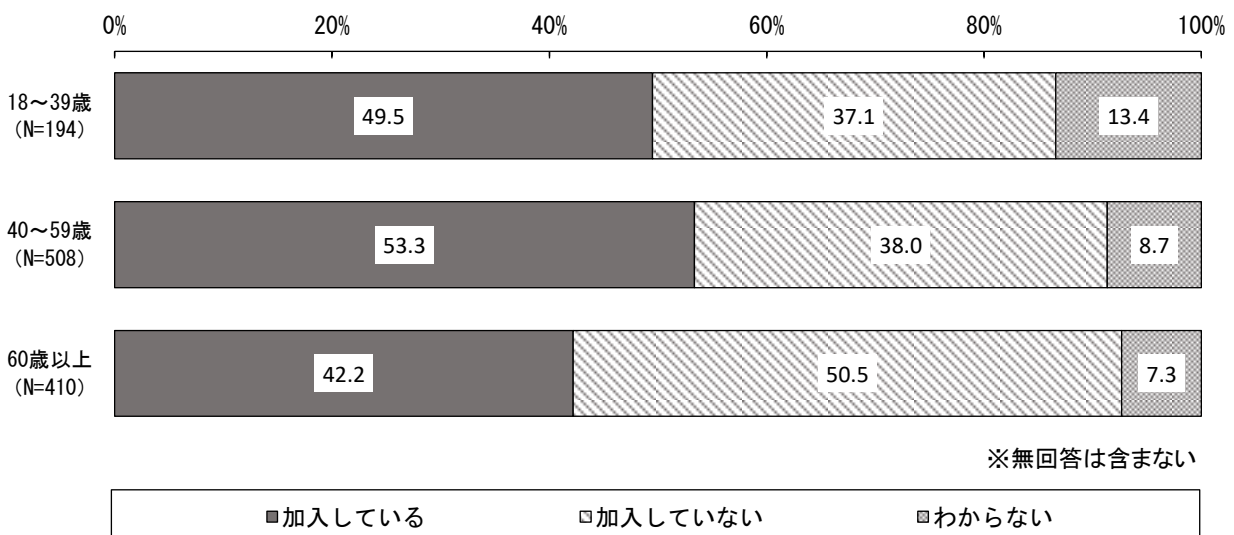
全体では、「加入している」の割合は48.4%で、「加入していない」の割合は42.5%となっている。

年代別では、「加入している」の割合は、40～59歳が53.3%と最も高く、一方「加入していない」の割合は、60歳以上が50.5%と最も高い。

【全体】



【年代別】



8 男女共同参画について

「男は仕事、女は家庭」の考え方

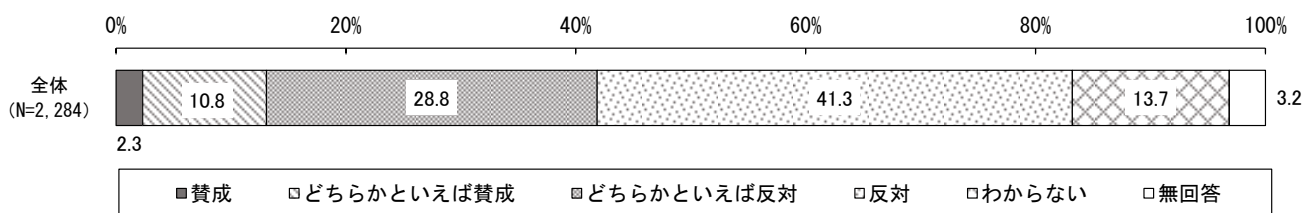
① 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこれについてどう思いますか（〇は1つ）。

全体では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合（賛成意見の人の割合）は13.1%で、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた割合（反対意見の人の割合）の70.1%よりも低い。

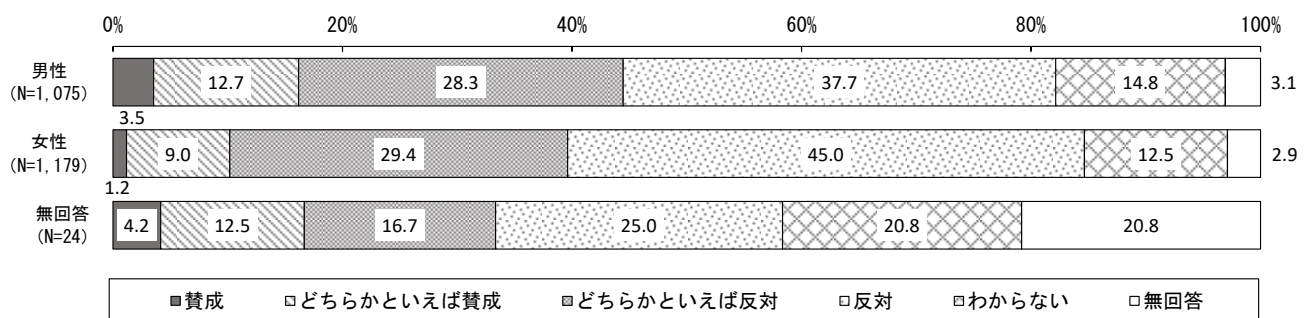
性別では、賛成意見の人の割合は男性が女性よりも高い。

年代別では、賛成意見の人の割合は、60歳以上が14.3%と最も高い。一方、反対意見の人の割合は、18～39歳が75.7%と最も高い。

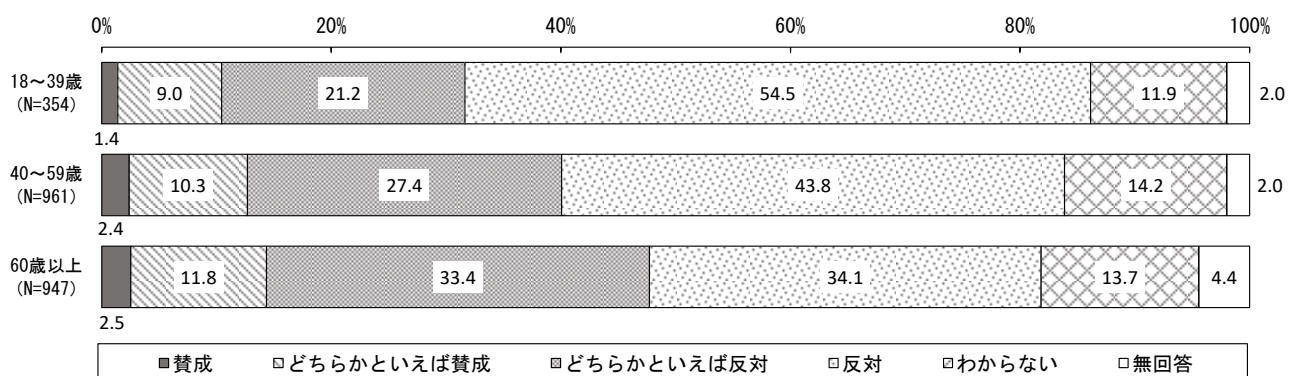
【全体】



【性別】



【年代別】



9 環境保全活動について

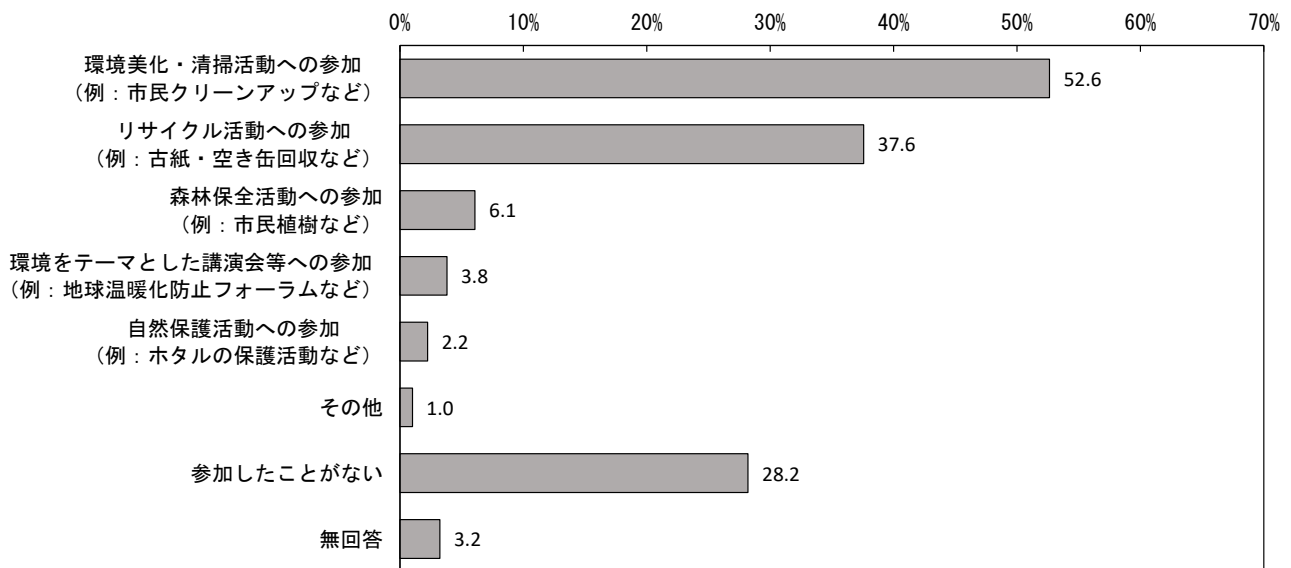
環境保全活動への参加状況

① あなたは、これまで環境保全活動等に参加したことがありますか（〇はいくつでも）。

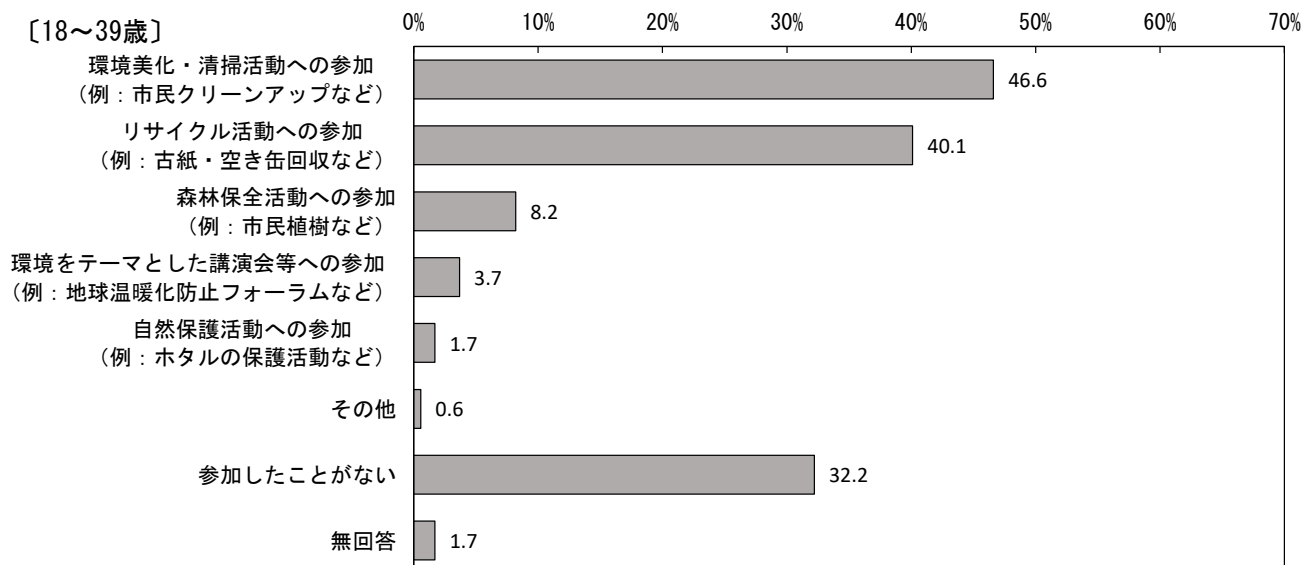
全体では、「環境美化・清掃活動への参加」の割合が52.6%と最も高く、次いで、「リサイクル活動への参加」が37.6%、「参加したことがない」が28.2%で続いている。

年代別では、全年代共通で「環境美化・清掃活動への参加」、「リサイクル活動への参加」の順で続いている。また、年代が低くなるにつれて、「参加したことがない」の割合が高くなっている。

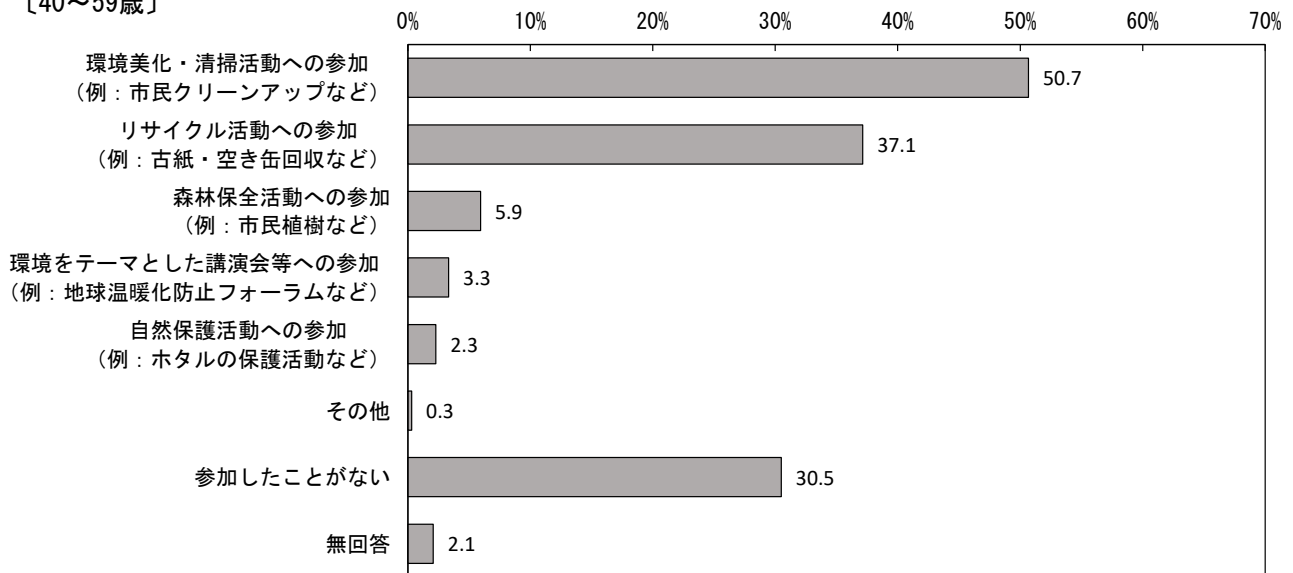
【全体】



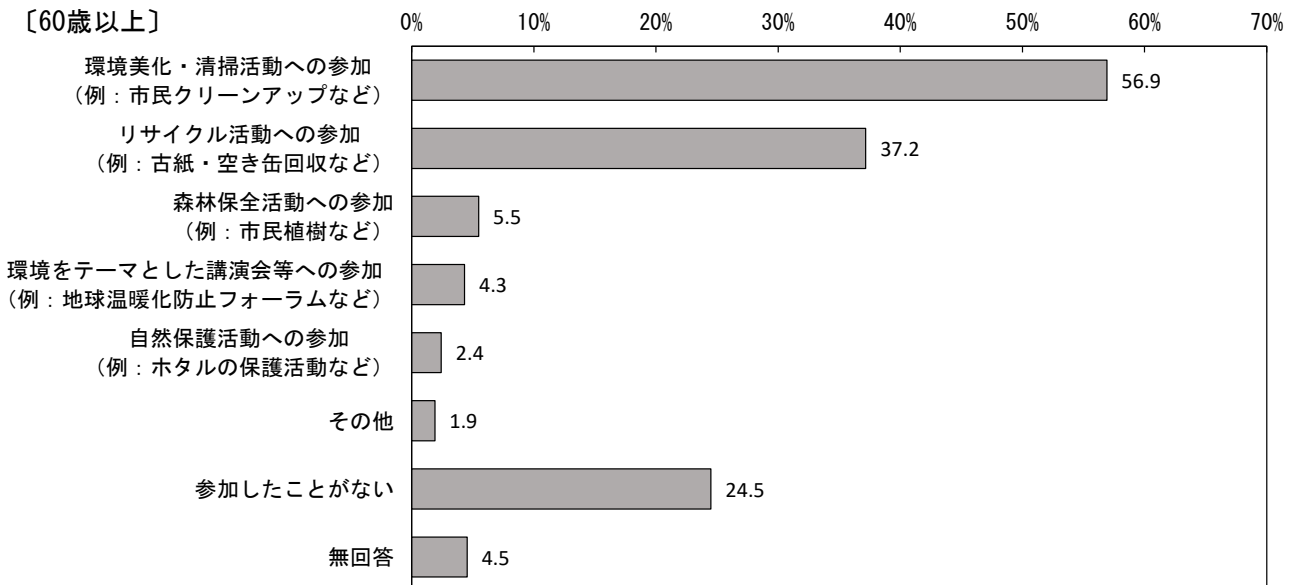
【年代別】



[40～59歳]



[60歳以上]



10 差別等について

(1) 差別等を感じる機会の有無

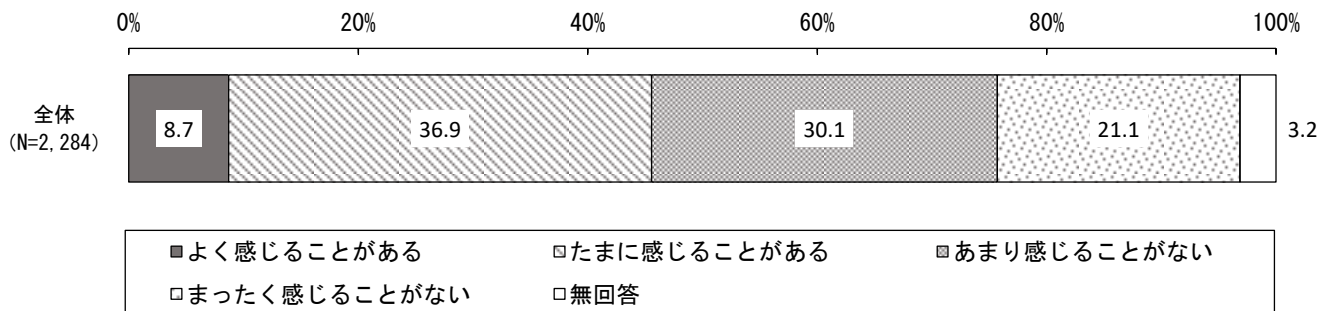
① あなたは、ご自身や身の回りで、差別等を感じるがありますか（○は1つ）。

全体では、「たまに感じることもある」の割合が36.9%と最も高く、「よく感じることもある」の割合は8.7%となっている。

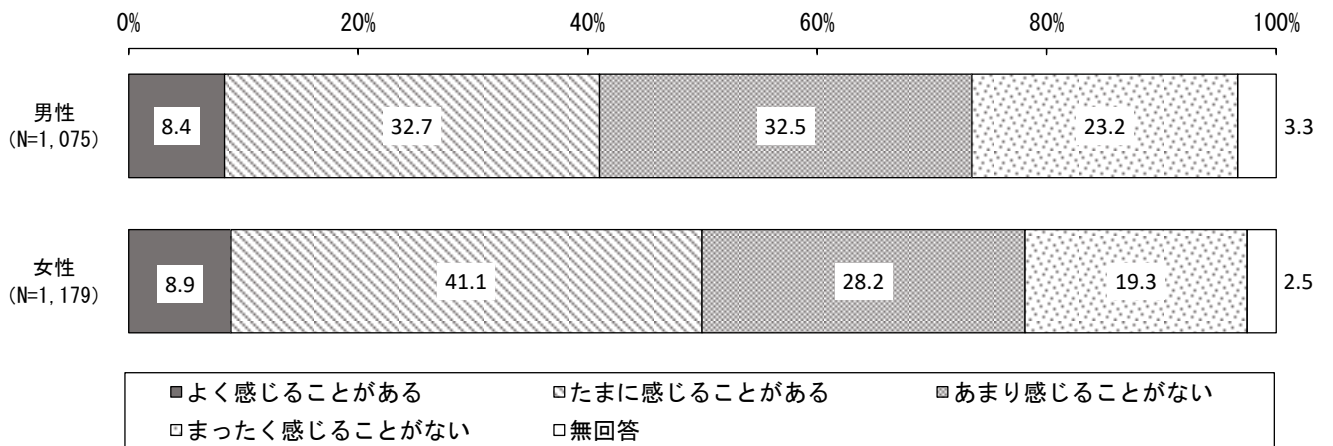
性別では、「たまに感じることもある」の割合が男性では32.7%、女性では41.1%で、男女ともに最も高く、「よく感じることもある」の割合は男性で8.4%、女性で8.9%と同程度である。

年代別では、年代が低くなるにつれて「よく感じることもある」の割合が高くなっている。

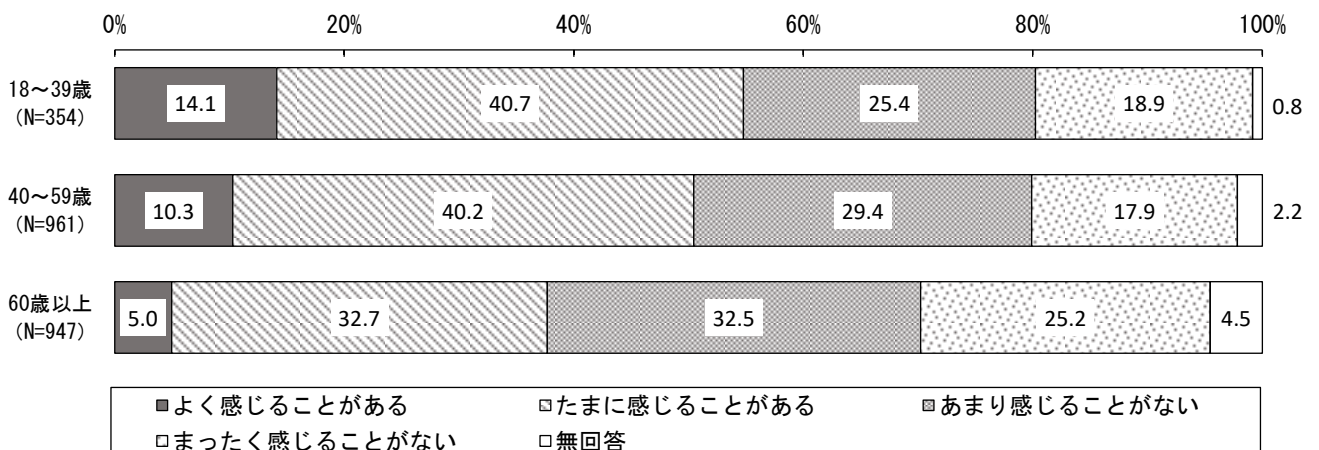
【全体】



【性別】



【年代別】



(2) 感じる差別等の種類

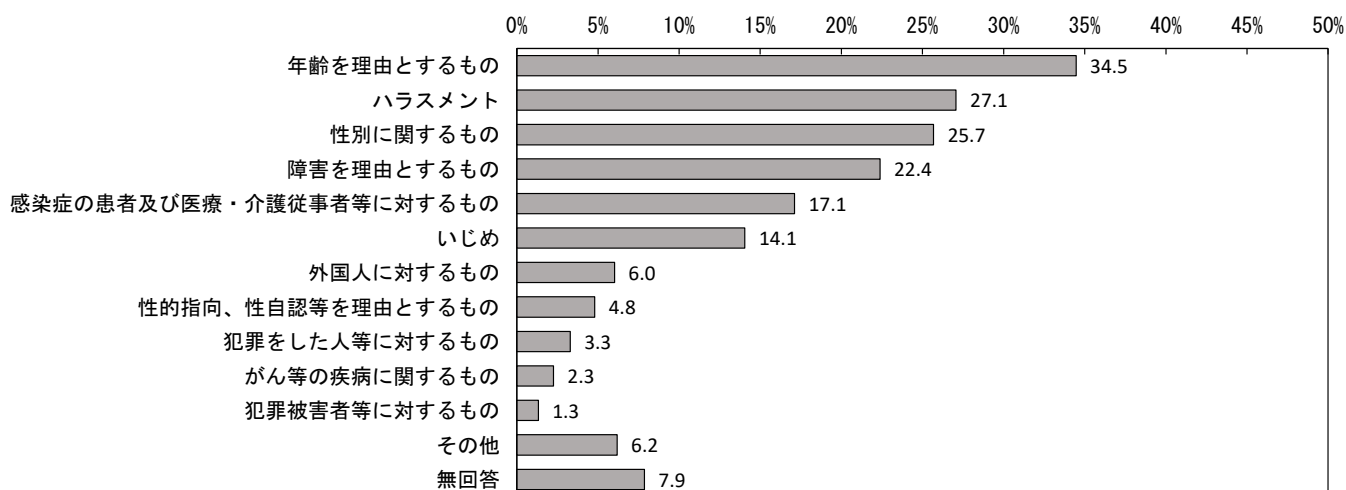
② ①で「1 よく感じることもある」、「2 たまに感じることもある」、「3 あまり感じることはない」を選んだ方にお聞きします。どのような差別等を感じることがありますか（〇はいくつでも）。

全体では、「年齢を理由とするもの」の割合が34.5%と最も高く、次いで、「ハラスメント」が27.1%、「性別に関するもの」が25.7%で続いている。

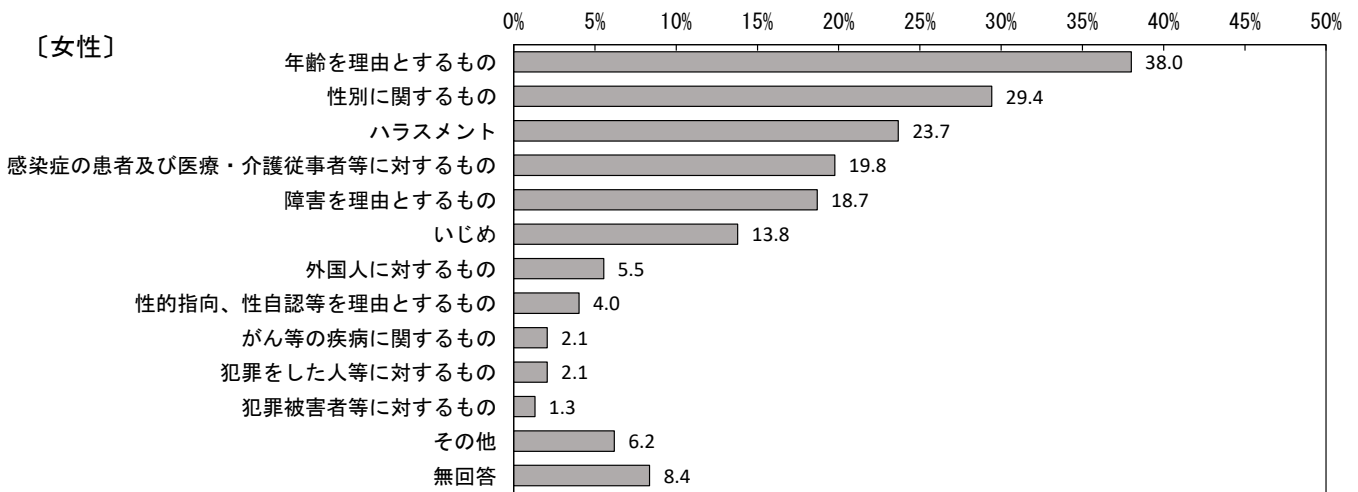
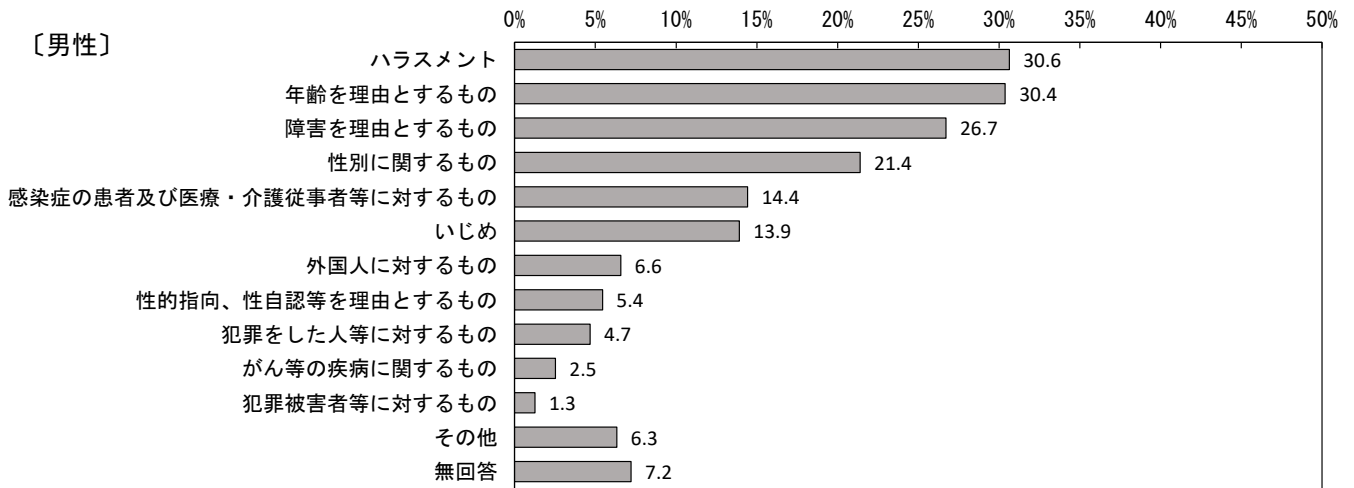
性別では、男性では「ハラスメント」が30.6%、女性では「年齢を理由とするもの」が38.0%で最も高く、これに男性は「年齢を理由とするもの」が30.4%、女性は「性別に関するもの」が29.4%が続いている。

年代別では、「ハラスメント」が18～39歳では40.5%、40～59歳では31.6%でいずれも最も高く、60歳以上では「年齢を理由とするもの」が41.5%で最も高くなっている。

【全体】

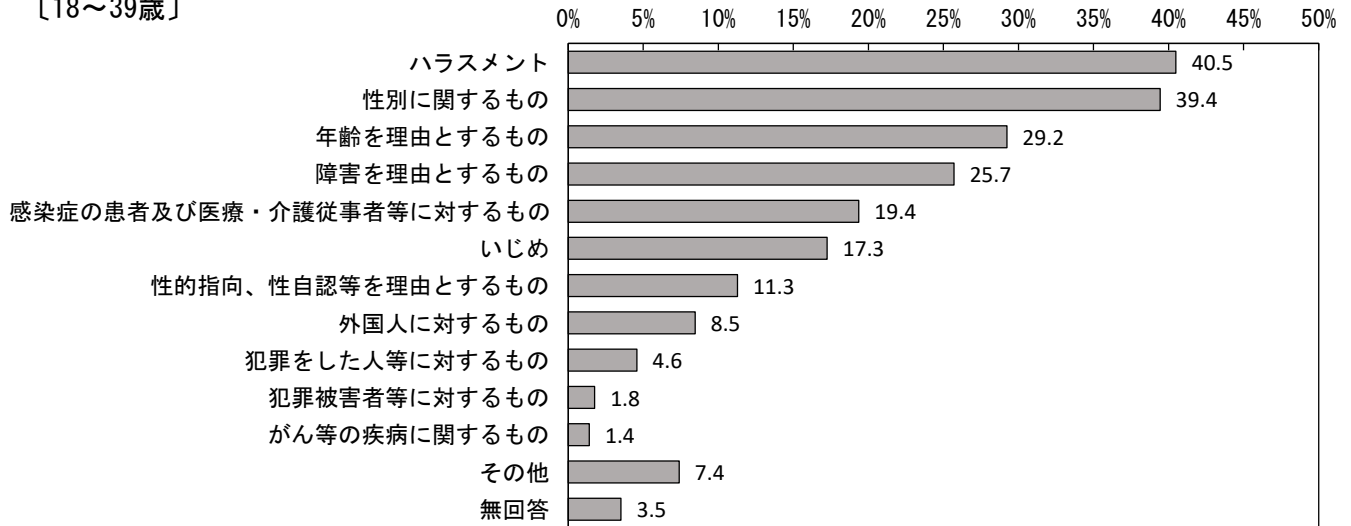


【性別】

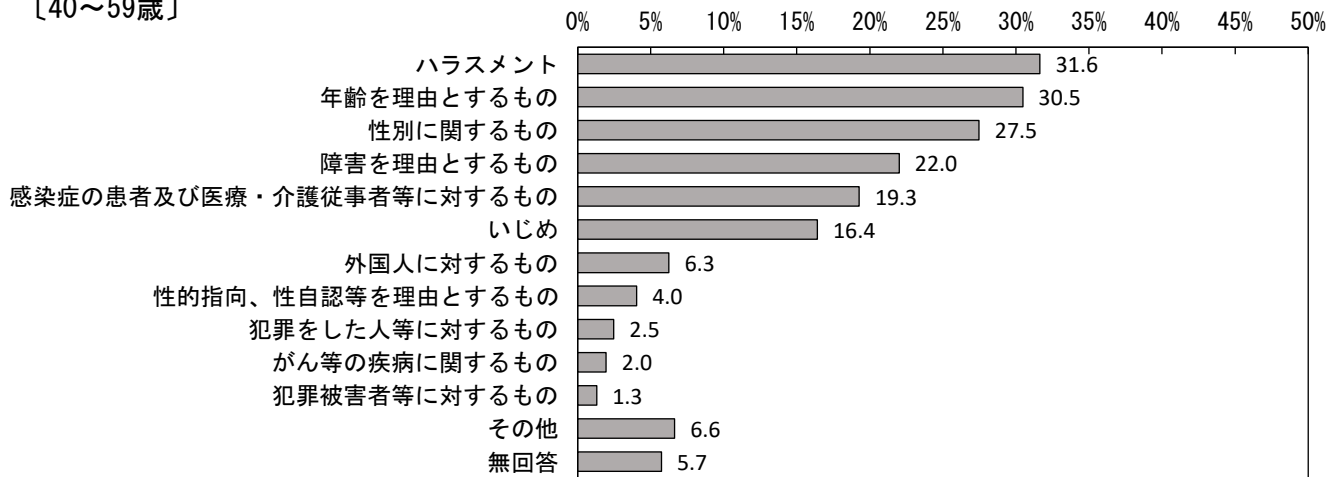


【年代別】

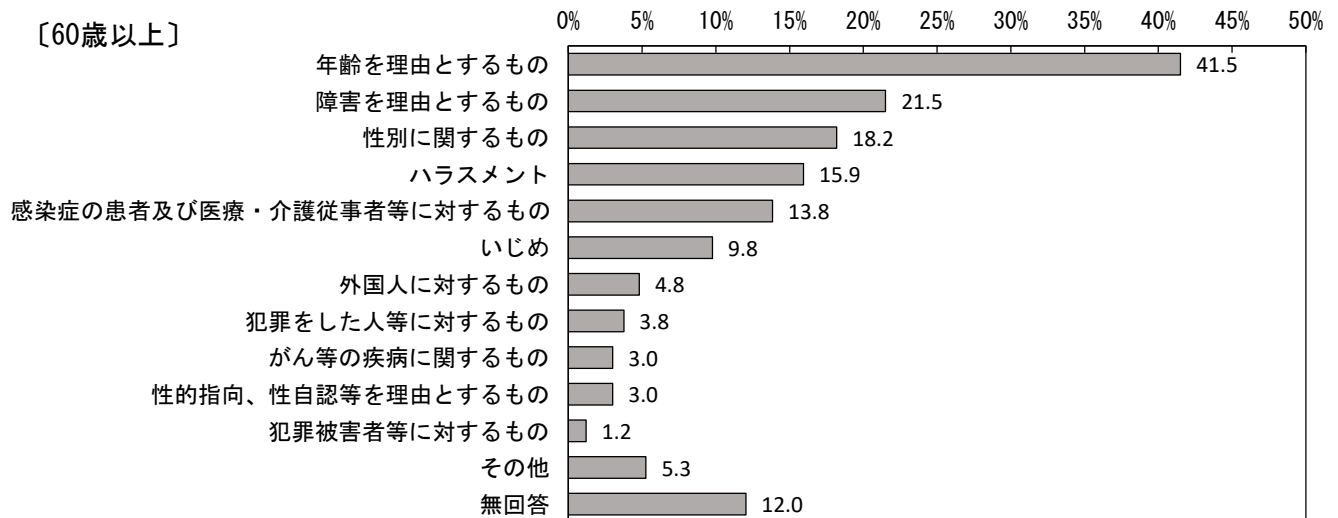
〔18～39歳〕



〔40～59歳〕



〔60歳以上〕



11 高齢者の社会参加について

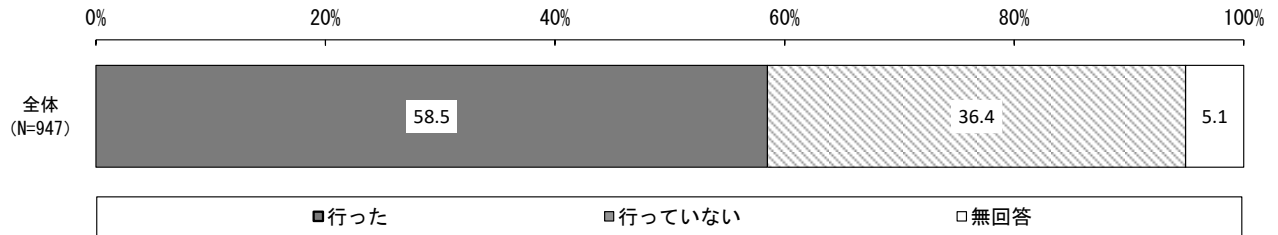
60歳以上の方の仕事や社会活動等への参加状況（令和4年度）

- ① 60歳以上の方にお聞きします。あなたは、令和4年度に仕事や社会活動等（趣味や健康づくり、生涯学習を含む。）を行いましたか（どちらかに○）。

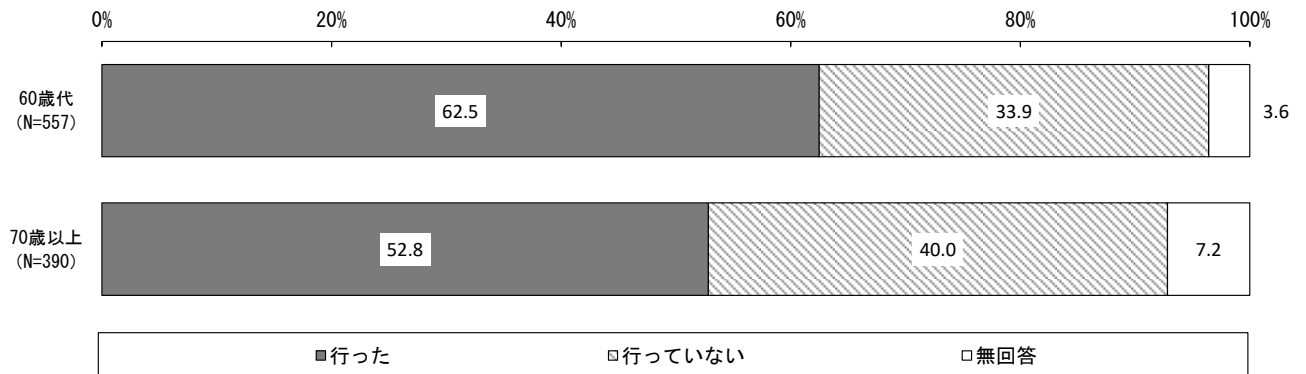
全体では、「行った」の割合は、58.5%で、「行っていない」の割合は36.4%となっている。

年代別では、「行った」の割合は、60歳代で62.5%と70歳以上よりも高い。

【全体】



【年代別】



第4章 県政への自由意見について

県に力を入れてほしいことや、県が取り組むべきだと思うことについて、何でもお気軽にお聞かせください。(問4)

【集計の方法】

回答は内容からA～Nの14項目に分類した。同一の回答者が複数の意見を記入している場合には、項目を分けて別意見として扱っている。

1 自由意見の項目別件数

項番	項 目	件数
A	商工業・雇用・労働に関すること	155
B	農林水産業に関すること	55
C	観光に関すること	39
D	文化・スポーツに関すること	39
E	道路・交通ネットワークに関すること	76
F	移住・定住に関すること	59
G	結婚・出産・子育てに関すること	140
H	女性・若者の活躍に関すること	38
I	地域社会の維持・活性化に関すること	21
J	健康・医療・福祉に関すること	83
K	教育・人づくりに関すること	39
L	防災減災に関すること	9
M	生活環境・自然環境に関すること	69
N	県政全般に対する意見・その他	308
合 計		1,130

2 主な自由意見

699 人から、1,130 件の意見があった。一部を抜粋して掲載する。誤字等は校正しているため、掲載文は回答の原文とは異なる場合がある。

A. 商工業・雇用・労働に関すること

- 二次産業、特に I T 産業は重視すべきだと思う。「東北最大級の〇〇」として店舗や工場を誘致すれば、県内で働く理由も増え、県外から戻ってくる人も増えると思う。(男性/10 歳代/平鹿地域)
- 仕事をやめて 10 年くらいブランクがある場合に手助けしてもらえるサービスを作って、ブランクがあっても働きやすい環境を作ってほしいです。(女性/30 歳代/由利地域)
- 最低賃金が低すぎます。働いても働いても、物価高騰等の影響もあり大変な暮らしをしている人が多いと思います。(女性/40 歳代/秋田地域)
- 風力発電事業に続く新たな産業の開発、育成、定着。(男性/40 歳代/秋田地域)
- 異業種交流によるイノベーション創出に取り組み、それにより生まれた事業に補助金を拠出するなど支援して、県内企業の活性化を図ってほしい。(男性/40 歳代/秋田地域)
- リモートを活用し秋田にいてもできる仕事、会社そのものを誘致しなくても、事業を誘致してほしい。(女性/50 歳代/仙北地域)
- 働きがいのある職場を増やし、若い人たちにもっと秋田に住みたいと思えるようにしてほしい。(女性/50 歳代/由利地域)
- シニア世代の仕事の場を広げてほしい。(女性/50 歳代/秋田地域)
- 都心と同じ水準に給与を上げるよう、企業に働きかけてほしい。(男性/50 歳代/秋田地域)
- 秋田県沿岸は風力発電に優位な地域であり、自然エネルギーを活用した産業を発展させるべきと考えます。使用しない電気で水素を作るなどエネルギーの原料にできればいいのでは。技術力とコストが必要ですが、この秋田に新たな産業を生み、電気代も安価になれば、秋田に住みたい人が多くなると考えます。(男性/50 歳代/由利地域)
- 都市部では、初任給の引き上げなど行われているようですが、県内企業におかれましても、初任給の引き上げを含めた賃金の上昇について、県の取組として力を入れていただきたいです。(男性/50 歳代/由利地域)

- 非正規で働いている者の正規雇用への移行を強力に進める施策を行っていただき、県民が安心して生活できる環境作りをしていただきたい。(男性／50 歳代／仙北地域)
- 首都圏に出なければできない仕事もありますが、コロナ禍の影響でリモートワークも可能な世の中です。人手不足に悩む企業も多くある状況で、「仕事がない」は大いなる勘違いではないでしょうか。(男性／50 歳代／平鹿地域)
- 最近、他県企業が秋田に拠点を移して活動していますが、秋田県民の採用が少ないのが気になります。他県企業の採用基準をクリアできる人材教育に力を入れていただきたいです。(男性／50 歳代／秋田地域)
- 私はこれから先、できれば70歳、それ以上働きたいと思っていますが、なかなか働く場所がない。また、働く場所が限られてしまうのが現状です。もっと雇用環境の拡大に努めてもらいたい。(男性／60 歳代／秋田地域)

B. 農林水産業に関すること

- あきたこまちやサキホコレなど、秋田にはおいしいお米があるのに、本当に後継者がいない。私は農家ではないが、周りでは離農する人がたくさんいる。高齢化が進み、昔のような活気のある農作業が見られないのは寂しい気がする。物の値段は上がるが、米の値段はなかなか上がらない。「おいしいお米＝秋田県」いつまでも続いてほしいと思う。(男性／40 歳代／仙北地域)
- 農業をやりたい県外の若者を呼びよせるためにも、スマート農業をもっと広く普及させてほしい。(女性／50 歳代／秋田地域)
- サキホコレを食べました。本当においしいお米で、米どころを代表するのにふさわしい品種だと思います。あきたこまちも好きです。品種改良への県としての取組には頭が下がります。一方で、米以外の農作物での特色づくりで努力が見えてこないのが残念です。(男性／50 歳代／平鹿地域)
- 農業従事者が高齢になって、後継ぎがいなくなり、田んぼで米を作れる人が少なくなっていると思います。若い人が作れるような、働けるような生産システムや、農業のやり方をもっと考えていただけたらと思います。林業、漁業も同じように言えますが、このような仕事に若い人が就けるような仕組みを考えてほしいと思います。(女性／60 歳代／秋田地域)
- サキホコレを県民自身がSNSに「美味しい」とアップできるほど、食べた人が多くなるとよいと思います。口コミの力を利用できるとよいと思います。もちろん、首都圏での大々的なPRも重要です。(女性／60 歳代／仙北地域)

C. 観光に関すること

- 風土、自然、食べ物、人柄、あらゆる面で非常に恵まれている秋田県の良さを、十分に県外に発信されているとは言いがたく非常に残念に感じます。(女性/50歳代/秋田地域)
- 各市町村、良い所がそれぞれ沢山あるが、それをつなげた「観光コース」をもっと作ってほしい。県外の人を案内する時にすごく迷う。(女性/50歳代/秋田地域)
- 個人レベルでの観光については、ハイクラスの宿泊施設が不足しているとの声を県外の人からよく聞きます。専門的な知識を持つアドバイザーの派遣などを斡旋し、既存の宿泊施設をグレードアップさせる方策等を模索していたたければと思います。(女性/50歳代/平鹿地域)
- 観光地は沢山あるが、アピール度が低いためか、他県より観光客が少ないように見える。(女性/60歳代/仙北地域)

D. 文化・スポーツに関すること

- 秋田の文化などをもっと広めていくべき。私たち秋田県民もよく分かっていない。他県に広める前に、秋田県民に先に広めてみてはどうか。(女性/10歳代/北秋田地域)
- スポーツをやらせるのにもお金がかかりすぎる。せつかく土地もありスポーツにも力を入れているのなら、子どもたちが家庭の事情でできないということのないサポートがあると嬉しいです。(女性/30歳代/平鹿地域)
- 秋田県民歌。いい歌だが普段生活しているとまず聞く機会がない。郷土意識の向上にもう少しうまく使えるのではないか。(男性/30歳代/山本地域)
- 他県では盛んではない特徴的なスポーツを県の競技として推したり、お金がかかる競技に手厚い支援をしたりすることで、競技を支えていく取組がもっとあってもいいのではないのでしょうか。(男性/50歳代/平鹿地域)

E. 道路・交通ネットワークに関すること

- 交通の便をよくするべきだと思います。これさえよくなれば人は絶対に秋田に来ると思います。(女性/10歳代/鹿角地域)
- 秋田県内を車がなくても移動しやすいように、公共交通機関を見直してほしい。(男性/30歳代/秋田地域)

- 道路交通網の整備を行い、高速道路の二車線化や国道、県道のつぎはぎの舗装を新しくしてもらいたいです。そうすれば、他県との往来もしやすくなると思いますので、観光客なども増えると思います。
(男性／30 歳代／仙北地域)
- 公共交通機関の乏しい地域ですので、通院等に利用できるよう、高齢者が気軽に利用できる地域コミュニティ路線の交通手段を整備していただきたいと感じております。(男性／50 歳代／山本地域)
- 高齢になって、免許を返納した後の生活サポートがあまりにも少ない。(女性／60 歳代／北秋田地域)
- 高齢化社会に対する交通弱者への対応として、早急なコミュニティバスの運行の推進。(男性／60 歳代／秋田地域)
- 休日のバスの運行が少ないため外出が不便。(女性／70 歳以上／秋田地域)

F. 移住・定住に関すること

- この先、永く秋田に住んでいきたいですが、高齢化が進む一方なので、若年層の定着が進むようあらゆる面で支援や制度を見直してほしいです。他県の地方移住の取組などに比べても、秋田県は独自性や移住メリットが少ないように感じます。(女性／30 歳代／秋田地域)
- 少子化を食い止めるために、若者が定住するような政策が必要。中学生～20 代にアンケートをとるなどし、本当に必要な実態に即した政策をするべき。(男性／30 歳代／雄勝地域)
- Aターンや移住者のためにも、サポート体制の充実を希望します。(女性／40 歳代)
- ふるさとが好きな子どもがたくさん育って、秋田に住みたい、帰りたいと思ってくれるのが一番活性化につながるのかと思います。(女性／40 歳代／由利地域)
- とにかく秋田の若者が、秋田に住みたい、秋田で働きたいと思うような体制を考えてほしい。秋田を好きだと思っている若者は割と多いが、就職先がなく結局県外へ出ていってしまう人がまだまだ多くいる。それでいて実際は、県内の各職種で人手が不足していて一人にかかる負担が大きくなる現状なので、ここで真剣に考えなければ県外流出は更に加速していくと思う。(女性／40 歳代／秋田地域)
- 子どもが県外の大学進学で秋田を離れた際、県の就職情報発信サイトへ登録しました。ほとんど情報はなかったそうです。今は状況が変わっているかもしれませんが、積極的な情報発信で、秋田へ戻る若者が多くなると期待できると思います。(女性／50 歳代／由利地域)

G. 結婚・出産・子育てに関すること

- もっと母子・父子家庭などが働きやすい、育てやすい環境をしっかりと作るべき。(女性/10歳代/北秋田地域)
- 少子高齢化対策として、若者の交流の場を作り、出会いを増やしていただきたいです。(男性/20歳代/秋田地域)
- 危険だという理由で遊具の撤去、ボールを使つての遊びは禁止され、近所の公園で遊ぶということができなくなっている。外でのびのびと遊ばせる環境を整備してほしい。(女性/30歳代/秋田地域)
- 広場や遊具、室内遊び場など、子どもの遊び場をもっと増やしてほしい。(女性/30歳代/秋田地域)
- 子育てや出産に力を入れてほしい。子を産みたくても経済的に苦しくて産めないような方もいると思う。子育てや出産しやすいというのも街の魅力の一つだと思う。子育て出産が充実していれば他の地域から移住してくる家庭もあると思う。(女性/30歳代/秋田地域)
- 妊活中ですが、精神的に辛いと感じることがあります。よく、「結婚し、安心して出産して～」と言われますが、望んでも授けられない身とするときつい表現です。心理的サポートも、もっと充実させてほしいと思います。(女性/30歳代/秋田地域)
- 子育て世代を支援する制度を充実してほしいです。小さい子がいると仕事を休まざるを得なくなります。私の勤めている職場には、看護休暇はあるものの無給扱いです。(女性/30歳代/由利地域)
- 女性が働きやすい環境、子育てしやすい秋田を作ってください。保育園入所についても、3人目は無償化と言いますが、1人目が学校に入れば、3人目が2人目で数えられます。結局、子どもが3人いても、何の恩恵もありません。(女性/30歳代/秋田地域)
- 子育てにはお金が必要である。手当などありがたいが、税金からの補助に頼るだけでなく“自分の稼ぎ”だけで育てられる状態が望ましい。(男性/30歳代/雄勝地域)
- 大学に進学する子どもたちにもっと支援があると良いと思う。学びたいのに経済的理由で諦めざるを得ない場合、親としては本当に心苦しい。(女性/40歳代/鹿角地域)
- 子育て支援について、いろいろ考えて金銭的支援をしているが、果たして、支援を受けている側は、お金を使っているのだろうか。一部は使っているだろうが、周りの子育て世代に聞くと、貯金しているそうだ。これは意味がある支援なのだろうか。有効に使われていないと感じる。(女性/40歳代/秋田地域)

- 奨学金の返済のために、より給料の高い都会に出ていく子どもたちが多く感じている。県外に出なくても返済できるくらいの給料を確保できないと、結婚して子育てするというのは大変なことだと思う。(女性/50歳代/仙北地域)
- 子供を育てやすい社会になってほしい。大人は、次の世代が今よりも良く、楽しく生活できること、平和であることを考えるべきだと思います。(女性/70歳以上/平鹿地域)
- 県内で結婚し、安心して子育てができるような社会になるよう、県に力を入れてほしい。(男性/70歳以上/仙北地域)

H. 女性・若者の活躍に関すること

- 若い人たちが県内でもっと幅広く活動や学ぶことができるような施設や職場を増やしていくべきだと思う。また、若い人たちで賑わうようなイベントを増やしていくことで、より秋田が活性化していくと考える。(女性/10歳代/秋田地域)
- 秋田県は昔ながらの考えを持っている方が多いです。高齢者も多いです。それがだめではないですが、新しいことをしようとする若い世代には優しくありません。男尊女卑もあると思います。(女性/30歳代/平鹿地域)
- もっと若者が楽しめるイベントの企画、施設等も作っていただきたい。(男性/30歳代/由利地域)
- 若い人が働ける環境、活動できるような場をもっと増やしてほしい。若い人が活動できることにより街中も活気に満ち、元気で力強い地元になれると思う。年配の方々も、街が元気になり精神年齢が若がるような環境になるよう、政策を実行していただきたいです。(女性/40歳代/秋田地域)

I. 地域社会の維持・活性化に関すること

- 誰もが住みやすく思いやりある地域づくりを頑張してほしい。年齢男女関係なく「お互い様」の心を持って秋田を盛り上げてほしい。(女性/40歳代/平鹿地域)
- 廃校になった小学校などの家庭科室(調理室)を使い、独居のお年寄りのための「大人食堂」など、地域のコミュニティにしたら良いのでは。(男性/60歳代/秋田地域)
- 一人暮らしの人たちが地区内で交流する場や楽しめる会を作ってもらいたい。(男性/70歳以上/仙北地域)

J. 健康・医療・福祉に関すること

- 自殺未遂・自殺防止への取組が必要。ただでさえ秋田県は少子高齢化が進んでいる。いじめに対する処罰を重くするなど、もっと早く見つけることが必要。(女性/10歳代/北秋田地域)
- 私自身不妊治療を経験し、都会と地方での医療格差をととも感じました。里親について調べた際も、秋田県の委託率の低さに驚きました。(女性/30歳代/秋田地域)
- 障害者支援や子育て支援など、充実した支援があるのに、利用できるか分からなかったり支援自体があることが分からなかったりするのでもっと該当する人が分かりやすいようにしてもらえたらと思うことがある。(女性/30歳代/由利地域)
- 子育て支援だけでなく8050問題に苦しんでいる世帯にも支援が必要と思います。生活保護を受けていないものの、困窮している世帯の支援をお願いします。(女性/50歳代/秋田地域)
- 健康寿命が長いのは良いが、寝たきり、認知機能の低下により、ただ生かされているだけの生活はどうなのかなと考えさせられます。(女性/60歳代/鹿角地域)
- 障害のある子どもの親亡き後のことがとても心配・不安です。入所できる場をもっと増やしていただきたいと思います。(女性/60歳代/由利地域)
- 介護職員の処遇改善を更に進めてほしい。(男性/60歳代/秋田地域)
- これから高齢者がますます増えていくと思うので、高齢者が生活しやすい、住みやすい県であってほしい。日本で秋田県が一番、高齢者が安心して暮らせる県になってもいいのではないのでしょうか。(女性/70歳以上/北秋田地域)

K. 教育・人づくりに関すること

- 学校教育の一環として行われているふるさと教育を、県外の方々とも交流できる一つの手段として、今よりも更に広げてほしい。また、より学びを深められるような手立てがあればよいと思う。(女性/20歳代/鹿角地域)
- 高齢者施設と学校などが連携して、学校祭への参加や施設訪問などを通じて交流することで、良い影響があると思う。(男性/20歳代/秋田地域)
- 支援が必要な子どもに対して、早期に取り組める専門的な場所が少ない。また、家族への支援が乏しく、悩みを抱えている人へ行政がもっと積極的に対応してもらいたい。(女性/40歳代/秋田地域)

- 文化財保護に目を向けてほしい。また、これに携わる人材育成にも努力してほしい。郷土愛に満ちた県民を作るには身の回りの文化を知ることです。(男性/60歳代/秋田地域)

L. 防災減災に関すること

- 災害対策、特に冬季の雪害に力を入れてほしい。(男性/40歳代/秋田地域)
- 隣県にバスで旅行して感じたことですが、川幅が広いなど、洪水に対する対策ができていると思いました。県内では土砂の堆積や両側の木が繁茂して狭くなっているところもあるので、自然を損ねない程度に整備して災害に備えてほしいと思いました。(女性/70歳以上/仙北地域)

M. 生活環境・自然環境に関すること

- 野生の生物が最近よく家の近くに現れるようになり、野生の生き物たちも大変だと感じる事が多くなったので、自然環境保護に取り組んでほしいです。(女性/30歳代/秋田地域)
- 空き家問題。放置されてどんどん朽ち、壊れ、荒れ果てた家はとても怖いです。見た目もきれいで使える空き家の活用も考えていかないといけないと思います。(女性/30歳代/秋田地域)
- 車社会の秋田であっても、まずは歩道の整備が必要。(女性/40歳代/秋田地域)
- 道路へのタバコのポイ捨てが多いと感じます。美しい秋田を保つためにもぜひ取組の検討をお願いします。(男性/40歳代/秋田地域)
- 地域猫活動に力を入れてほしいです。毎年生まれてくる飼い主のいない子猫をこれ以上増やさないためにも、不妊手術は絶対必要です。これは個人でやるにも限界があります。もっと行政が動くべきだと思います。(女性/50歳代/仙北地域)
- 冬期間の除雪体制が後手に感じられる。(男性/50歳代/秋田地域)
- 空き家を有効利用できる取組や空き家バンクなどをもう少し広げてほしい。(女性/60歳代/秋田地域)
- 年間3分の1は雪との闘い。雪対策を考慮するべきと思う。(男性/70歳以上/北秋田地域)

N. 県政全般に対する意見・その他

- 新しいものをどんどん取り入れて都市化を図るより、もともとある秋田らしい魅力を生かして行ってほしいです。(女性/20歳代/秋田地域)
- 秋田に住む人は田舎だからと必要以上に自分の住むこの地域を卑下する印象があります。秋田に住む人自身が秋田の魅力に気付かない限り、県外の人に魅力を伝えて来たらう・住んでもらうというのは夢のまた夢という感じがします。まずは県内へ向けて「秋田の魅力とは何か」をアピールし、覚えてもらうのが一番ではないかと考えます。(女性/30歳代/秋田地域)
- ソーシャルメディア等便利だと思いますが、不便な立場にいる人が損をしたり、活動ができなくなったり、孤立することがないようにしてほしい。(女性/30歳代/秋田地域)
- もっとSNS等を利用して色々な人に県の取組をPRした方がいいと思う。いい素材があっても誰も知らなくては意味がない。県外に発信するのも大事だが、まずは県民たちが秋田県を好きになれるような取組と発信（PR活動）を行ってほしい。(女性/30歳代/秋田地域)
- 生活での困りごとなどあった時、書面での相談窓口があると気軽に聞けるので助かる。(女性/30歳代/雄勝地域)
- 日常的にニュース等をスマホで見ることが多く、地方のニュースを見る機会が減り、任意に興味がある記事を見ていると感じている。地方の新聞や広報紙に触れることが効果的だと思われるが、ネットやSNSでの発信でも、どのようなことを行っているか更に周知をしてほしい。(男性/30歳代/秋田地域)
- 自分から興味をもたないと情報を得ることは難しい。町に興味を持つ機会を増やしたい。(男性/30歳代/由利地域)
- 高齢者相手の取組が多く、若い人に対する取組が少ない。どの年代の人も安定して住みやすいよう、どの年代の人に対しても均等に取組をしてほしい。(男性/30歳代/秋田地域)
- 新秋田元気創造プランがあることすら知らなかった。このようなプランをもっと県民全体にアピールすべき。(女性/40歳代/秋田地域)
- 古い体制に新しい風を受け入れる覚悟、決意、自分たちの足りなさを受け入れること、これらが必要。このままではいけないのだと認識してほしい。(女性/40歳代/秋田地域)
- 秋田県だけで解決できる問題ばかりではないけれども、なんとかして前に進めてください。(男性/50歳代/仙北地域)

- 一極集中にならないように田舎の地域にも公共の施設を作ってもらえれば、発展するのではないかと考えます。(男性/50歳代/仙北地域)
- 多くの人が秋田に住みたいと思えることが一番大切だと思います。どこに住んでも安心して生活できること、格差のないこと、困ったら助け合うこと、こんな秋田になったらよいと思います。(男性/50歳代/北秋田地域)
- 私は秋田県に生まれて良かったと思っています。豊かな自然と温かな県民性が大好きです。これからも、そんな秋田で生き抜きたいと思っています。いろいろな問題も多く抱えていることとは思いますが、変わらない秋田でいることを心から願っています。(女性/60歳代/仙北地域)
- 役所への申請時にパソコンを使用しなければいけないので、デジタルを使用していない人には手を出せない。役所の説明等は分かりづらい。大きい字、もっと簡単にしてほしいと思います。(女性/60歳代/雄勝地域)
- 住んでいて良い所だと思いますが、何かおもしろみがない所だとも思います。(女性/60歳代/鹿角地域)
- 県の取組が知られていないと思う。もっとPRすれば、また、口コミでも広く県民に知らしめれば参加する。参加したい気力が湧くと思う。「やっています」だけではダメだと思う。(女性/60歳代/秋田地域)
- 発信力が弱い。もっと秋田県の良さをアピールしよう。(女性/60歳代/仙北地域)
- 秋田県は他の県より見劣りしている所が多いのではないかと。もっと私たちにもやったことを伝えるだけでなくどんな取組をやっているか、内容を知らせてほしい。私たちも参加できることがあるのではないかと。よりよい秋田県になってほしいです。(女性/60歳代/秋田地域)

付属資料：調査票

令和5年度 県民意識調査

令和5年5月

◇ 調査へのご協力をお願い

この調査は、県政運営の指針である「～大変革の時代～ 新秋田元気創造プラン」に関する取組について、県民の皆様の満足度やご意見等を伺い、各種政策の立案や政策評価等に反映させることを目的としています。

お忙しいところお手数をお掛けしますが、この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

◇ 調査対象者

県内在住の18歳以上の男女5,000人を、選挙人名簿から無作為に抽出しています。

◇ 回答に当たってのお願い

- ・この調査には、宛名のご本人がお答えください。
※ご本人が何らかの事情により回答できない場合、代理の方の回答や連絡は不要ですので、封筒及び調査票は破棄していただいて構いません。
- ・ボールペンや鉛筆等で記入してください。
- ・回答を一つだけ選ぶ質問と、複数選ぶ質問があります。

この調査票を三つ折りにし、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、

6月2日(金)までに投函してください。

なお、返信用封筒に住所、氏名等の記入は不要です。

※返信用封筒の宛先は、秋田県が調査を委託した「株式会社フィデア情報総研」となっております。



- ・左下のQRコードまたは「秋田県 電子申請・届出サービス」(https://s-kantan.jp/pref-akita-u/offer/offerList_initDisplay.action)から、パソコン、スマートフォン、タブレット等を利用したインターネット回答が可能です。
※インターネット回答の場合は、調査票の返送は不要です。

◇ 調査票の取扱い

- ・調査結果は全て統計的に処理しますので、回答内容について個人が特定されることはありません。電子回答IDは、重複回答を防止するために付しているものであり、回答者個人を特定する趣旨のものではありません。



【問い合わせ先】

◇この調査に関する質問等は、以下までお問い合わせください。

〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号

秋田県企画振興部 総合政策課 計画・評価チーム

電話：018(860)1217(直通)

FAX：018(860)3873

メール：seisaku@pref.akita.lg.jp

電子回答IDは「県民意識調査のご協力をお願い」文書の左下に記載

問1-1 県では、『～大変革の時代～ 新秋田元気創造プラン』（※）に基づき、様々な取組を進めています。次の項目について、あなたはどの程度満足していますか。

ご自身の実感に近いものを「5」～「1」の5段階から選んでお答えください。

また、お答えが「2」または「1」の場合は、よろしければその理由や、県が取り組むべきだと思ふことについて、お聞かせください。

※『～大変革の時代～ 新秋田元気創造プラン』とは、令和4年度からの4年間に、県が取り組むべき政策等を取りまとめた県政運営の指針です。

産業・雇用戦略に関する項目

あなたの満足度 （1つ選び番号に○をしてください）					
十分	おおむね十分	ふつう	やや不十分	不十分	わからない
↓	↓	↓	↓	↓	↓
5	4	3	2	1	N
1	生産性が向上するなど、県内産業の競争力の強化が図られている。				
[自由記述]「不十分」または「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思ふことについて、具体的にお聞かせください。					
2	輸送機、新エネルギー、情報、医療分野等の成長産業への参入が進んでいる。				
[自由記述]					
3	地域経済・社会を支える地域産業の活性化が図られている。				
[自由記述]					
4	立地環境が整備され、企業誘致が進んでいる。				
[自由記述]					

産業の振興に関する取組の状況

1 産業構造の変化に対応した

県内産業の競争力の強化

- ・新分野進出、規模拡大による生産性及び賃金水準の向上や事業継続を図るため、中小企業のM&Aや事業承継（第三者承継）などを促進
- ・DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進に向けて、IoTやAI等のデジタル技術の普及啓発を行うとともに、その導入を促進
- ・地域経済を牽引するリーディングカンパニー創出に向けて企業の取組を支援
- ・企業の海外展開に向けた活動経費を支援
- ・県技術専門学校などにおける職業訓練の実施などにより、在職者の学び直しを支援



生産工程のスマート化に向けた研究開発

◎M&A成約企業数

24件（R2）⇒28件（R3）

◎技術専門学校における在職者訓練の受講者数

489人（R2）⇒470人（R3）

3 歴史と風土に培われた地域産業の活性化

- ・伝統的工芸品の販路開拓や付加価値の高い新商品開発の取組を支援
- ・商業・サービス業者等の業態転換、新分野進出、新商品・新サービスの開発等の取組を支援
- ・建設産業の持続的な発展に向け、人材確保や業界全体のイメージアップなど総合的な支援を実施
- ・リサイクル施設の整備や研究開発支援等により、リサイクル産業の創出・育成を促進



秋田県中小企業
応援キャラクター
「がんばっけさん」

◎商業事業者の販売額

3,453億円（R2）⇒3,414億円（R3）

◎ICT活用工事の実施件数

28件（R2）⇒41件（R3）

2 地域資源を生かした成長産業の発展

- ・輸送機産業の電動化等に対応するため、人材開発や研究開発、設備導入等を支援
- ・本県の多様で豊富な再生可能エネルギーのポテンシャルを生かし、新エネルギー関連産業への県内企業の参入等を促進
- ・県内情報関連産業を牽引する企業の創出に向け、県内ICT企業の成長戦略に基づく取組を支援
- ・医療機関のニーズに沿った新製品の開発や医療福祉関連産業への県内企業の参入を促進



提供：秋田洋上風力発電(株)
能代港洋上風力発電所(能代市)

◎輸送用機械器具製造業の製造品出荷額

1,212億円（R2）⇒1,392億円（R3）

◎風力発電設備の導入量(累積)

648,549kW（R2）⇒794,619kW（R4）

4 産業振興を支える投資の拡大

- ・積極的な誘致活動等により、成長産業の企業や若者定着の受け皿として期待される企業を誘致
- ・洋上風力発電の拠点の形成に向けたふ頭用地等の整備を推進



大手製材会社進出の能代工業団地

◎企業の誘致件数及び誘致済企業等による施設・設備の拡充件数

25件（R2）⇒31件（R3）

◎洋上風力発電における港湾の利用件数(累積)

2件（R2）⇒2件（R4）

農林水産戦略に関する項目

あなたの満足度 (1つ選び番号に○をしてください)					
十分	おおむね十分	ふつう	やや不十分	不十分	わからない
5	4	3	2	1	N
[自由記述]「不十分」または「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。					
[自由記述]					
[自由記述]					
[自由記述]					

5	経営力の高い担い手等が活躍し、我が国の食料供給に貢献している。
6	「伐って・使って・植える」という森林資源の循環利用が進み、林業・木材産業が発展している。
7	蓄養殖や水産物のオンライン販売など、水産業での新たな取組が進んでいる。
8	農家民宿や農家レストランなど地域資源を生かした多様な農村ビジネスが増え、農山漁村が活性化している。

農林水産業の振興に関する取組の状況

5 農業の食料供給力の強化

- ・ 農業経営の法人化や生産規模の拡大を目指す意欲的な経営体を育成
- ・ 県外からの移住者や新規学卒者・Uターン者など、多様なルートと幅広い年代からの新規就業者を確保・育成

◎農業法人数(認定農業者)

788 法人 (R2) ⇒ 816 法人 (R3)

◎新規就農者数

252 人 (R2) ⇒ 265 人 (R3)

- ・ 効率的な生産体制の確立に向けたスマート農業の普及拡大や、持続性が高い環境保全型農業の取組拡大を推進
- ・ 水田の大区画化や排水対策を図るほ場整備を実施

◎環境保全型農業の取組面積

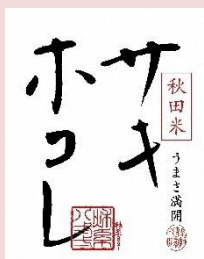
4,204ha (R2) ⇒ 4,475ha (R3)

◎ほ場整備面積(累積)

90,981ha (R2) ⇒ 91,743ha (R3)



地域農業の担い手たち



R4にデビューした「サキホコレ」

- ・ 園芸メガ団地や大規模な畜産団地を整備
- ・ 「えだまめ」や「しいたけ」など、全国トップクラスとなる園芸品目の産地づくりを支援
- ・ 「秋田牛」や「比内地鶏」のブランド力強化に向けた取組を推進

◎メガ団地等大規模園芸拠点の整備数(累積)

41 地区 (R2) ⇒ 50 地区 (R3)

◎秋田牛の出荷頭数

2,844 頭 (R2) ⇒ 2,951 (R3)

- ・ 「サキホコレ」のブランド確立をはじめとした秋田米の戦略的な生産・販売の推進

◎サキホコレの作付面積 80ha (R3) ⇒ 733ha (R4)

- ・ 国内外に通用するトップブランド農産物の創出
- ・ 台湾・タイへの秋田牛やリンゴの輸出を促進
- ・ 6次産業化による県産農産物の付加価値の向上

◎農産物の輸出額

2.9 億円 (R2) ⇒ 3.5 億円 (R3)

6 林業・木材産業の成長産業化

- ・ 資源の循環利用を図るため、低コスト再造林を推進
- ・ 林内路網の整備や高性能な林業機械の導入などにより、低コストな素材供給体制づくりを促進
- ・ 住宅や非住宅建築物への県産材利用と輸出の促進

◎再造林面積

332ha (R2)

⇒ 394ha (R3)

◎素材生産量(燃料用含む)

1,425 千³m (R2)

⇒ 1,508 千³m (R3)



再造林の植栽作業

7 水産業の持続的な発展

- ・ 漁業体験や技術習得研修の実施による新規就業者の確保・育成
- ・ トラフグ等の種苗放流やサーモン等の蓄養殖の取組を推進
- ・ 加工品の開発や漁師直売・オンライン販売の取組を支援



直売に取り組む若手漁業者

◎新規漁業就業者数(60歳未満)

10 人 (R2) ⇒ 12 人 (R3)

◎蓄養殖等に取り組む漁業経営体数(累積)

17 経営体 (R2) ⇒ 33 経営体 (R3)

8 農山漁村の活性化

- ・ 農山漁村にリモートワークなどで自分の仕事を持ち込み、農林漁業を組み合わせた新たな兼業スタイル「半農半X」の取組を促進
- ・ 農山漁村での都市住民との交流活動や農家民宿・レストランの起業等の取組を促進

- ・ 草刈りや植樹など地域住民による農地、森林を守る活動を促進

◎農村関係人口

6,518 人 (R2)

⇒ 8,232 人 (R3)

◎農地保全活動面積

101,908ha (R2)

⇒ 103,037ha (R3)



古民家を改修した農家民宿

観光・交流戦略に関する項目

あなたの満足度 (1つ選び番号に○をしてください)					
十分	お お む ね 十分	ふ つ う	や や 不 十分	不 十分	わ か ら な い
↓	↓	↓	↓	↓	↓

9	秋田の魅力が向上し、国内外から観光誘客が進んでいる。
10	食品産業が発展し、日本酒や発酵食品など、秋田の食品が盛んに流通している。
11	国内外に秋田ならではの文化の魅力が伝えられている。
12	スポーツを通じて地域に活力とにぎわいがもたらされている。
13	国内外との交流を支える高速広域交通や、日々の暮らしを支える地域交通が整備されている。

5	4	3	2	1	N
[自由記述]「不十分」または「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

観光・文化・スポーツの振興に関する取組の状況

9 「何度でも訪れたいあきた」の創出

- ・県内を目的地とする旅行商品等への割引を実施するとともに、土産物店等で使用できる地域限定クーポン券を発行
- ・食や文化、スポーツを始め、地域資源を活用した秋田ならではの魅力を国内外に発信
- ・宿泊施設における客室の高質化など、観光客の旅の満足度の向上に向けた受入環境の充実を支援



秋田県公式観光サイト
【アキタファン】

◎観光地点等入込客数(延べ人数)

1,836 万人 (R2) ⇒ 1,873 万 8 千人 (R3)

10 「美酒・美食のあきた」の創造

- ・日本酒や発酵食品等の更なる高品質化とブランド力の強化を促進
- ・食品事業者の競争力強化を支援
- ・国内外への販路拡大に向けた商談会等の実施



シアル・パリへの出展

◎加工食品・日本酒の輸出金額

6 億 6800 万円 (R2) ⇒ 11 億 5,700 万円 (R3)

12 活気あふれる「スポーツ立県あきた」の実現

- ・ジュニア層の強化を競技力向上の柱に据えた一貫指導体制を確立
- ・ノーザンハピネッツやブラウブリッツ、ノーザンプレッツの活動を支援
- ・スポーツ合宿やトップスポーツ大会の開催支援により交流人口を拡大
- ・新県立体育館の整備に向けて基礎調査を実施し、基本計画づくりに着手



現在の県立体育館

◎成人の週1回以上のスポーツ実施率

58.5% (R2) ⇒ 51.1% (R4)

11 文化芸術の力による魅力ある地域の創生

- ・伝統芸能をはじめとする多彩な文化事業の実施や、オンラインを活用した映像配信などにより、秋田ならではの文化の魅力を国内外に発信
- ・青少年音楽コンクールやあきたの文芸など若者から高齢者まで多くの県民が楽しめる文化事業を実施
- ・地域で活動する文化団体の活動を支援

- ・本県文化の中核拠点となる「あきた芸術劇場ミルハス」のグランドオープン(令和4年9月)



あきた芸術劇場ミルハス

◎文化事業への来場者数

5 万 4,435 人 (R2) ⇒ 6 万 9,947 人 (R3)

13 国内外との交流と住民の暮らしを支える交通ネットワークの構築

- ・日本海沿岸東北自動車道「遊佐象潟道路」、「二ツ井今泉道路」及び東北中央自動車道「横堀道路」、「真室川雄勝道路」の整備を促進
- ・重要港湾秋田港と秋田自動車道秋田北 IC を結ぶ「秋田港アクセス道路」の事業を推進

◎県内高速道路の供用率

92% (R2) ⇒ 92% (R3)

- ・羽田発着枠政策コンテストによる大館能代空港の3往復運航が実現
- ・秋田新幹線新仙岩トンネルについて、JR 東日本の調査への協力や国への積極的な要望活動等を実施し、実現に向けた取組を推進



国内定期便(大館能代空港)

- ・国や市町村と連携し、乗合バスや三セク鉄道の着実な運行を確保

◎秋田県と県外間の旅客輸送人員数(自動車を除く)

136 万 8 千人 (R2) ⇒ 177 万 3 千人 (R3)

未来創造・地域社会戦略に関する項目

あなたの満足度 (1つ選び番号に○をしてください)					
十分	おおむね十分	ふつう	やや不十分	不十分	わからない
5	4	3	2	1	N
[自由記述]「不十分」または「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。					
[自由記述]					
[自由記述]					
[自由記述]					
[自由記述]					
[自由記述]					
[自由記述]					

14	秋田への移住者が増加するほか、若者の県内定着・回帰が進んでいる。
15	結婚し、安心して出産・子育てができる社会になっている。
16	女性や若者が様々な分野において、その能力や個性を発揮して活躍している。
17	優しさと多様性に満ちた秋田において、協働等を通じて安心して生活できる地域社会となっている。
18	地域住民、事業者、行政等と一緒に、地球温暖化対策に取り組んでいる。
19	デジタル化の推進等により充実した行政サービスが提供されている。

若者の定着や地域の活力維持に関する取組の状況

14 新たな人の流れの創出

- ・県内企業の魅力に触れることができる高校生向けの職場見学や企業ガイダンス、大学生等向けの合同企業説明会などのマッチングイベントを開催
- ・県内就職への意識醸成を図るため、高校生や県内外の大学生等、保護者に対し、情報誌やWebにより秋田暮らしの魅力を発信したほか、県内就職者への経済的支援として奨学金返還に対する助成を実施
- ・市町村等と連携し、移住相談や、あきたまるごとAターンフェアを開催し、「暮らし」と「仕事」の情報を総合的に提供
- ・リモートワークによる移住とワーケーションを促進



移住・定住総合ポータルサイト
(<https://www.a-iju.jp>)

◎Aターン就職者数

1,120人 (R2) ⇒ 1,183人 (R3)

16 女性・若者が活躍できる社会の実現

- ・女性自身の意識改革に加え、企業経営者の理解促進のための啓発や、女性の地域活動への参画拡大に向けた気運の醸成
- ・「あきた女性活躍・両立支援センター」による普及啓発や相談対応、一般事業主行動計画策定等の指導・助言、アドバイザー派遣等の企業支援

◎民間事業所の女性管理職割合(課長相当職以上)

19.3% (R2) ⇒ 20.7% (R3)

◎民間事業所における男性の育児休業取得率

10.7% (R2) ⇒ 14.8% (R3)

18 脱炭素の実現を目指す地域社会の形成

- ・県や9市町村におけるカーボンニュートラル宣言、脱炭素先行地域2件採択、省エネ家電購入支援、事業者省エネ診断など、温暖化対策を推進
- ・エコフェス、ハピネットのゼロカーボンゲームを開催
- ・コーヒー店割引等によるマイボトル持参運動、コンビニやスーパーでの「てまえどり」の啓発
- ・食品廃棄物や廃プラスチックに係る資源循環モデルの実証試験に向けた協議会を設置

◎温室効果ガス排出抑制計画書の目標達成事業者の割合

79.3% (R2) ⇒ 81.3% (R3)

◎廃棄物の最終処分量(公共関与分)

94千t (R2) ⇒ 90千t (R3)

15 結婚・出産・子育ての希望がかなう社会の実現

- ・あきた結婚支援センターの運営支援を通じて結婚を希望する独身者をサポート
- ・市町村が地域の実情やニーズに応じて行う子ども・子育て支援事業に対して支援
- ・保育料や副食費への助成など、子育て世帯への経済的支援



園庭で楽しく遊ぶ園児たち

◎婚姻件数

2,686組 (R2) ⇒ 2,618組 (R3)

◎出生数

4,499人 (R2) ⇒ 4,335人 (R3)

17 変革する時代に対応した地域社会の構築

- ・集落機能を維持するため、複数集落単位で地域の将来をデザインする「コミュニティ生活圏」の形成を支援



地域の将来についての検討会

- ・地域課題の解決に向けた多様な主体との連携・協働を推進

◎社会活動・地域活動に参加した人の割合

57.3% (R2) ⇒ 54.4% (R3)

19 行政サービスの向上

- ・県民の利便性向上のため、電子申請・届出サービス等を用いた行政手続のオンライン化を推進
- ・県民や企業等が二次利用しやすい形式(エクセル等)によるデータ公開を進めるためオープンデータカタログサイトを新たに構築

◎行政手続の電子化率

59.6% (R3) ⇒ 68.8% (R4)

◎オープンデータ化した県有データ数

87件 (R2) ⇒ 103件 (R3)

健康・医療・福祉戦略に関する項目

あなたの満足度 (1つ選び番号に○をしてください)					
十分	おおむね十分	ふつう	やや不十分	不十分	わからない
↓	↓	↓	↓	↓	↓

20 県民の健康づくりに取り組む意識が高まり、生きがいをもって元気に生活している。

5	4	3	2	1	N
[自由記述]「不十分」または「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思ふことについて、具体的にお聞かせください。					

21 どこに住んでいても、必要な医療を受けられる体制が整っている。

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

22 高齢者や障害のある方が、必要なサービスや支援を受けながら、住み慣れた地域で安心して生活している。

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

23 相談体制や支援の充実により、地域や社会から孤立することなく、安心して生活できる社会となっている。

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

健康づくりや医療・福祉の充実に関する取組の状況

20 健康寿命日本一の実現

- ・市町村や経済団体、保健医療団体、報道機関など、多様な主体と連携した健康づくり県民運動を推進



あきた健康応援大使とあきた健康チャレンジ大使による健康づくりに関する情報発信

- ・「秋田スタイル健康な食事」メニュー認証制度や「新・減塩音頭」の普及啓発により、「減塩」や「野菜・果物摂取」を推進



新・減塩音頭

- ・アプリを活用した企業対抗型ウォーキングイベントを開催し、働き盛り世代における運動習慣の定着化を促進
- ・スーパー、コンビニなどの協力による、店舗敷地内の喫煙所を撤去するキャンペーンなどにより受動喫煙の防止を推進
- ・ICTを活用した健（検）診予約システムの導入等により、健（検）診を受診しやすい環境を整備

◎健康寿命

男性 71.21 年、女性 74.53 年 (H28)
⇒ 男性 72.61 年、女性 76.00 年 (R1)

22 高齢者と障害者の

暮らしを支える体制の強化

- ・介護職員の処遇改善や人材育成等に積極的な事業所を県が認証する「介護サービス事業所認証評価制度」の普及を推進
- ・市町村のひきこもり相談窓口機能を強化するモデル事業の実施など、ひきこもり当事者の身近な地域における相談支援体制の整備を促進

◎介護施設等の介護職員数

23,282 人 (R2) ⇒ 23,105 人 (R3)

21 安心で質の高い医療の提供

- ・県北地区への地域救命救急センター整備に向けた支援
- ・がん診療連携拠点病院等を中心とした、がん診療提供体制を強化
- ・脳卒中等の急性疾患発生時に、専門医が不在の地域でも迅速で正確な診断が受けられるよう、病院間の急性期診療ネットワーク整備を支援
- ・医療のデジタル化に向けたオンライン診療モデルの実証を支援

◎脳血管疾患による人口 10 万人当たり年齢調整死亡率 34.7 (R2) ⇒ 35.6 (R3)

◎がんによる人口 10 万人当たり 75 歳未満年齢調整死亡率 76.8 (R2) ⇒ 77.2 (R3)

23 誰もが安全・安心を実感できる

地域共生社会の実現

- ・民・学・官・報の連携による自殺予防街頭キャンペーン等の普及啓発活動を推進
- ・県立高校での SOS の出し方講座、教職員の SOS の受け方研修会などを実施
- ・若者を中心に多くの県民が利用している SNS による相談体制を整備

◎自殺による人口 10 万人当たり死亡率

18.0 (R2) ⇒ 18.8 (R3)

- ・子どもの貧困対策に取り組む支援者によるネットワークの拡充と県民の理解促進
- ・児童虐待を行った保護者等へのカウンセリングや、「秋田県児童虐待防止宣言」の策定など、児童虐待防止についての取組を強化

- ・里親制度の普及啓発から、里親の育成、養育開始後のサポートまでを包括的に支援する体制を整備し、里親委託を促進



秋田県里親PRキャラクター

◎里親委託率

17.6% (R2) ⇒ 24.2% (R3)

教育・人づくり戦略に関する項目

あなたの満足度 (1つ選び番号に○をしてください)					
十分	おおむね十分	ふつう	やや不十分	不十分	わからない
↓	↓	↓	↓	↓	↓
5	4	3	2	1	N
[自由記述]「不十分」または「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

24	学校教育を通じて、ふるさとを愛し社会で活躍しようとする心が育まれている。
25	学校教育を通じて、ICTを効果的に活用しながら、自ら考え、判断し、表現する力が育まれている。
26	学校教育を通じて、外国文化を理解しようとする態度や、英語でコミュニケーションができる能力が育まれている。
27	学校教育を通じて、他人への思いやりなどの豊かな心や健やかな体が育まれている。
28	県内の大学等で、地域の活性化につながる教育・研究・地域貢献が行われている。
29	県民がライフステージや生活スタイルに応じて、生涯にわたり学び、文化芸術に触れる機会が提供されている。

教育・人づくりに関する取組の状況

24 秋田の将来を支える高い志にあふれる人材の育成

- ・起業体験やボランティア活動など、地域の活性化に貢献する体験活動や地域の伝統を受け継ぐ活動を推進
- ・県立高校などに就職支援員や職場定着支援員などを配置し、就職支援、県内就職の促進、職場への定着支援などの取組を実施



産業教育フェアでの販売体験

◎高校生の県内就職率

72.5% (R2)

⇒ 75.4% (R4)

26 グローバル社会で活躍できる人材の育成

- ・英語コミュニケーション能力の育成に向け、外国語指導助手や外部試験を活用
- ・小学校3年生から高校3年生までを対象に県内各地でイングリッシュキャンプを開催



イングリッシュキャンプ

◎英検3級相当以上の英語力を有する

中学3年生の割合

39.1% (R1) ⇒ 44.4% (R4)

28 地域社会の活性化と産業振興に資する高等教育機関の機能の強化

- ・各大学等の多様な資源を活用し、地域社会や産業の課題解決に向けた取組を推進
- ・高校教育と大学教育の連携など学生の確保に向けた多様な取組を推進

◎県内高等教育機関による県内企業等との共同研究・受託研究・受託事業数

144件 (R2) ⇒ 143件 (R3)

◎県内高卒者の県内大学・短大・専修学校等への進学率

33.7% (R2) ⇒ 35.6% (R4)

25 確かな学力の育成

- ・主体的に問題発見・解決する「探究型授業」の充実を図るため、学校訪問等により授業改善を推進
- ・少人数学習によるきめ細かな教育や社会人等外部人材の活用による専門性の高い教育を展開
- ・学校と地域の協働活動を推進する人材の育成や、地域と連携した安全教育活動を展開
- ・ICT活用による質の高い学びの推進及び教職員のICT活用指導力向上を図るための研修を実施

◎学んだことを振り返って次の学習に

つなげることができる児童生徒の割合(小6・中3)

86.5% (R3) ⇒ 85.8% (R4)

27 豊かな心と健やかな体の育成

- ・スクールカウンセラー等の専門家の配置により教育相談体制を充実
- ・地域人材を活用し、授業の充実を図るとともに部活動を支援



地域人材を活用した体育授業

◎自分にはよいところがあると思っている

児童生徒の割合(小6・中3)

86.0% (R1) ⇒ 84.7% (R4)

◎運動やスポーツをすることが好きな

児童生徒の割合(小5・中2)

65.9% (R1) ⇒ 63.0% (R4)

29 生涯にわたり学び続けられる環境の構築

- ・県民の生涯学習に取り組む機会の確保や読書活動の充実に向けた支援
- ・本県の優れた文化芸術を発信し、鑑賞・創作体験等の機会を提供



中高生を対象とした読書イベント

- ・地域の歴史・文化を生かしたまちづくりに向け、文化財の総合的な保存・活用の方針などを示した「秋田県文化財保存活用大綱」を策定

◎県立美術館・近代美術館・県立博物館・農業科学館の利用者数

169,596人 (R2) ⇒ 236,539人 (R3)

問1-2 県では、人口減少問題を克服し、多くの人を惹きつける秋田の実現に向け取り組んでいます。次の項目について、あなたはどの程度満足していますか。

ご自身の実感に近いものを「5」～「1」の5段階から選んでお答えください。

		あなたの満足度 (1つ選び番号に○をしてください)					
		十分	おおむね十分	ふつう	やや不十分	不十分	わからない
		↓	↓	↓	↓	↓	↓
1	県内の「賃金水準が向上」している。	5	4	3	2	1	N
2	「カーボンニュートラル(※)」の実現に向けた取組が進んでいる。 ※二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出を減らし、「排出量」から、森林などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすること。	5	4	3	2	1	N
3	県民生活の様々な場面において、「デジタル化」が進んでいる。	5	4	3	2	1	N
4	「若年女性の県内定着・回帰」が進んでいる。	5	4	3	2	1	N
5	「働く場の確保」や「労働環境の整備」など、魅力的な職場づくりが行われている。	5	4	3	2	1	N

問2 県の重要課題について、お伺いします。

今後の県政を推進していく上で、あなたが重要課題として県に力を入れてほしいことは何ですか。下から5つまで選択して番号を記入してください。

--	--	--	--	--

◆産業の振興

- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| 1 経営規模拡大や賃上げの取組への支援 | 26 若者のチャレンジへの支援 |
| 2 県内企業のデジタル技術の活用促進 | 27 多様性が認められ、安心して生活できる地域コミュニティの維持 |
| 3 地域経済をけん引する企業の創出・育成 | 28 温暖化防止活動やリサイクル等の推進 |
| 4 柔軟な働き方の導入や学び直しの支援による人材確保・育成 | 29 充実した行政サービスを提供できる効率的な行政運営 |
| 5 輸送機・新エネルギー・情報・医療分野等の成長分野への参入促進 | |
| 6 地域に根付く産業の振興 | |
| 7 企業誘致などの企業立地等の促進 | |

◆農林水産業の振興

- | | |
|--------------------------------|----------------------------|
| 8 農林水産業の多様な担い手の確保 | ◆健康づくりや医療・福祉の充実 |
| 9 スマート農業や環境保全型農業の普及と水田の大区画化の推進 | 30 健康寿命の延伸に向けた取組の推進 |
| 10 野菜や果樹、花き、畜産物等の生産拡大 | 31 医療提供体制の整備 |
| 11 サキホコレのブランド確立をはじめとした戦略的な米生産 | 32 介護・福祉サービスの充実 |
| 12 農産物のブランド化と流通・販売体制の整備 | 33 自殺予防対策の推進 |
| 13 再造林の促進と林業・木材産業の振興 | 34 貧困や虐待等、複雑な事情を抱える子どもへの支援 |
| 14 安定的な漁業生産による水産業の発展 | 35 引きこもり状態にある人への支援 |
| 15 農山漁村での交流活動による活力向上 | |

◆観光・文化・スポーツの振興

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| 16 国内外からの観光誘客の強化 | ◆教育・人づくり |
| 17 オリジナル商品の開発や販路拡大による食品産業の振興 | 36 ふるさと教育やキャリア教育の充実 |
| 18 文化芸術の担い手の確保と文化による振興 | 37 デジタル社会等に対応した専門教育の充実 |
| 19 スポーツの振興による地域の活力向上 | 38 学力向上に向けた取組の充実 |
| 20 鉄道や航空・地域交通などの整備 | 39 教員の指導力や学校施設など教育環境の整備 |
| 21 道路ネットワークの整備 | 40 英語教育と国際教育の充実 |

◆若者の定着や地域の活力維持

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 22 若者の移住促進や関係人口の拡大 | ◆安全・安心な生活環境の確保 |
| 23 高校生や大学生の県内就職の促進 | 44 災害リスクに対する防災・減災対策の推進 |
| 24 結婚、出産、子育てのしやすい環境の整備 | 45 地域防災活動の充実 |
| 25 女性の活躍推進や男女共同参画の推進 | 46 犯罪や交通事故の少ない地域づくり |
| | 47 食品や水道などの安全・安心の確保 |
| | 48 動物愛護活動の推進 |
| | 49 快適で安らげる生活基盤の整備 |
| | 50 自然環境保全対策の推進 |

読書活動について

① あなたは読書（※）が好きですか（○は1つ）。

※読書には、新聞及び雑誌（電子媒体の記事（注1）を含む。）のほか、子どもへの読み聞かせ、オーディオブック（注2）も含まれます。

（注1）電子媒体の記事とは、新聞社や出版社等がインターネット上に掲載しているニュースや雑誌記事等のことです。

（注2）オーディオブックとは、書籍を朗読したものを録音したCDやカセット、インターネット上で提供されている音声コンテンツのことです。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 好きだ | 2 どちらかといえば好きだ |
| 3 どちらかといえば好きではない | 4 好きではない |

② あなたは1日平均（※）どれくらい読書をしていますか（○は1つ）。

※子どもへの読み聞かせ時間も含まれます。

※休日まとめ読みの場合は、1日平均に置き換えてください。

- | | |
|-----------|---------|
| 1 2時間以上 | 2 1～2時間 |
| 3 30分～1時間 | 4 30分未満 |
| 5 全く読まない | |

がん対策について

① あなたは、日本人の2人に1人はがんになることを知っていますか（どちらかに○）。

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

② あなたは、がんを早期に発見するためにはがん検診をどのように受ければよいと思いますか（○は1つ）。

- | | |
|-----------|------------------|
| 1 定期的に受ける | 2 体調に心配があるときに受ける |
| 3 わからない | |

社会活動・地域活動について

① あなたが、ここ1年間に仕事以外の何らかの「社会活動・地域活動」（※）に取り組んだ頻度で、もっとも当てはまるものはどれですか（○は1つ）。

※「社会活動・地域活動」の具体例

地域の公園の花壇の手入れ、町内一斉清掃への参加、河川のごみ拾い、子育て支援、子ども会活動、まちづくりフェスティバル、祭り・伝統芸能の担い手、高齢者宅の除雪の手伝い 等

- | | |
|-------------------|---------|
| 1 週5日以上 | 2 週1日程度 |
| 3 月1日程度 | 4 年1日程度 |
| 5 特定の期間（夏の間2週間など） | |
| 6 その他（具体的に | ） |
| 7 取り組んだことがない | |

文化芸術の鑑賞・活動について

- ① あなたは、ここ1年間に文化施設等に出向いて直接鑑賞した文化芸術はありますか（〇はいくつでも）。

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1 音楽（コンサート、吹奏楽、歌謡・民謡等） | 2 美術（絵画、写真、彫刻、現代アート等） |
| 3 演劇、舞踊（ミュージカル、日本舞踊等） | 4 伝統芸能、民俗芸能（歌舞伎、盆踊り、番楽等） |
| 5 映画（映画館等で上映） | 6 その他（ ） |
| 7 鑑賞していない | |

- ② あなたは、ここ1年間に芸術作品の創作、文化イベントへの出演・参加、文化事業でのボランティア活動などを行いましたか（〇はいくつでも）。

- | | |
|------------------|-------------------------|
| 1 芸術作品の創作・制作・実演 | 2 習いごと（音楽、舞踊、茶道等） |
| 3 地域の祭りや伝統行事への参加 | 4 文化芸術イベント等の開催・運営のための活動 |
| 5 その他（ ） | 6 活動していない |

自転車の安全で適正な利用について

- ① 自転車を利用している人にお聞きします。あなたは「自転車損害賠償責任保険等（※）」に加入していますか（〇は1つ）。

※自転車を運転中の事故により、他人にケガを負わせてしまった場合等に備える保険。

※自転車保険単独のもの、自動車保険・火災保険・傷害保険の特約として付いている個人賠償責任保険、共済、職場の団体保険、点検・整備を受けた自転車に貼られる「TSマーク」に付帯した保険等自転車を運転中の事故により、他人にケガを負わせてしまった場合に備える保険。

- | | |
|----------|-----------|
| 1 加入している | 2 加入していない |
| 3 わからない | |

男女共同参画について

- ① 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこれについてどう思いますか（〇は1つ）。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 賛成 | 2 どちらかといえば賛成 |
| 3 どちらかといえば反対 | 4 反対 |
| 5 わからない | |

環境保全活動について

① あなたは、これまで環境保全活動等に参加したことがありますか（○はいくつでも）。

- | | | |
|---|-------------------------------------|---|
| 1 | 環境美化・清掃活動への参加（例：市民クリーンアップなど） | |
| 2 | 自然保護活動への参加（例：ホタルの保護活動など） | |
| 3 | 森林保全活動への参加（例：市民植樹など） | |
| 4 | リサイクル活動への参加（例：古紙・空き缶回収など） | |
| 5 | 環境をテーマとした講演会等への参加（例：地球温暖化防止フォーラムなど） | |
| 6 | その他（ | ） |
| 7 | 参加したことがない | |

差別等について

① あなたは、ご自身や身の回りで、差別等を感じることはありますか（○は1つ）。

- | | | | |
|---|-------------|---|--------------|
| 1 | よく感じることもある | 2 | たまに感じることもある |
| 3 | あまり感じることはない | 4 | まったく感じることはない |

② ①で「1」～「3」を選んだ方にお聞きします。どのような差別等を感じることはありますか（○はいくつでも）。

- | | | | | |
|----|-------------------------|----|--------------|---|
| 1 | 性別に関するもの | 2 | 障害を理由とするもの | |
| 3 | 感染症の患者及び医療・介護従事者等に対するもの | 4 | がん等の疾病に関するもの | |
| 5 | 性的指向、性自認等を理由とするもの | 6 | 外国人に対するもの | |
| 7 | 年齢を理由とするもの | 8 | 犯罪被害者等に対するもの | |
| 9 | 犯罪をした人等に対するもの | 10 | ハラスメント | |
| 11 | いじめ | 12 | その他（ | ） |

高齢者の社会参加について

① 60歳以上の方（※）にお聞きします。あなたは、令和4年度に仕事や社会活動等（趣味や健康づくり、生涯学習を含む。）を行いましたか（どちらかに○）。

※60歳未満の方は次の質問に進んでください。

- | | | | |
|---|-----|---|--------|
| 1 | 行った | 2 | 行っていない |
|---|-----|---|--------|

問4 〔自由記述〕 県に力を入れてほしいことや、県が取り組むべきだと思うことについて、何でもお気軽にお聞かせください。



©2015 秋田県んだッチ

問5 あなたご自身について、お伺いします。

回答を統計的に分析するために、あなたご自身のことについてお聞かせください。
(最も近いと感じる選択肢の番号1つに○をつけてください。)

① あなたの性別

1 男性 2 女性 3 その他

② あなたの年齢

1 18～19 歳 2 20～29 歳 3 30～39 歳 4 40～49 歳
5 50～59 歳 6 60～69 歳 7 70 歳以上

③ 18歳未満の子どもの有無

1 現在18歳未満の子どものを養育している 2 していない

④ あなたのご出身

1 秋田県の出身 2 秋田県以外の出身

⑤ あなたのお住まいの地域

1 鹿角地域（鹿角市、小坂町）
2 北秋田地域（大館市、北秋田市、上小阿仁村）
3 山本地域（能代市、藤里町、三種町、八峰町）
4 秋田地域（秋田市、男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村）
5 由利地域（由利本荘市、にかほ市） 6 仙北地域（大仙市、仙北市、美郷町）
7 平鹿地域（横手市） 8 雄勝地域（湯沢市、羽後町、東成瀬村）

⑥ あなたの主なお仕事の種類（主とする業種1つに○）

1 農業 2 林業 3 漁業 4 建設業 5 製造業 6 情報通信業
7 運輸業・郵便業 8 卸売業・小売業(観光関連) 9 卸売業・小売業(観光関連以外)
10 宿泊業 11 飲食サービス業 12 学術研究・学校教育・学習支援
13 医療・保健 14 福祉 15 公務（1～14以外） 16 その他の業種
17 学生 18 無職

これで調査は終わりです。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

この調査票を三つ折りにし、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、6月2日(金)までに投函してください。

令和5年度 県民意識調査報告書

令和5年8月

発行 秋田県 企画振興部 総合政策課
〒010-8570 秋田県秋田市山王四丁目1番1号
TEL 018-860-1217 FAX 018-860-3873

調査機関 株式会社フィデア情報総研
〒010-0951 秋田県秋田市山王三丁目4番23号
TEL 018-883-0200 FAX 018-883-0209

